

椎ノ木崎遺跡試掘調査報告書

—熊本県牛深市深海町所在—

例　　言

- 1、本書は熊本県牛深市深海町字椎木崎所在の椎ノ木崎遺跡の試掘調査報告書である。
- 2、この調査は牛深市教育委員会が主催し、熊本開発研究センターが調査にあたった。
- 3、調査は富田紘一の指導のもとに熊本開発研究センター研究员松舟博満が現場調査にあたった。
- 4、報告書の作成は、「1. 土器」と「IVまとめ」を富田が、「2. 石器」と「付録、内之原遺跡」を松舟が担当し、「I」「II」は松舟の記録をもとに富田が作成した。

序

椎ノ木崎遺跡は、昭和61年7月18日本渡市の黒木雄二氏によって発見されました。牛深市文化財保護委員であった故竹井武助氏と黒木氏が、古墳探しの副産物として発見したものです。

牛深市では、中世以前の指定文化財として「元下須遺跡」「草の浦古墳」がありますが、天草の縄文遺跡として有名な五和町の神の原遺跡の他は、天草の縄文時代を知る手がかりとなるものは少なかったようです。ここに、縄文遺跡である椎ノ木崎遺跡が、黒木氏をはじめ平田正範氏(天草の民俗と伝承の会)、さらに熊本県文化課課長補佐の隈昭志氏の踏査により、学術調査の必要性を認め試掘できましたことは、牛深市に限らず天草の古代史をひもとくうえでたいへんよろこばしいものと存じます。

試掘調査は、(財)熊本開発研究センターへの委託事業として依頼しましたが、熊本市立博物館学芸員の富山紘一氏を調査主任として、松舟博満研究員が調査に当たられ、昭和62年10月12日から11月8日まで延べ21日間にわたり行なわれました。この間牛深郷土歴史研究会の岡部親司会長をはじめ、多くの会員各位の自発的な参加をみました。調査が進むにつれて出土品の種類、量、広がりなどから貴重な遺跡であることが判明し、調査結果を報告書として発行することにいたしました。

この調査にご尽力いただきました富山紘一氏、松舟博満氏をはじめ、(財)熊本開発研究センターの作藤和弘元研究員、その他ご指導ご協力いただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。なお、この調査報告書が、天草地方の古代史の解明にいささかでも資するところがあれば幸甚に存じます。

平成元年3月

牛深市教育委員会

教育長 深山 泰

目 次

I.	遺跡の位置と調査の経過	1
1.	椎ノ木崎遺跡の位置	1
2.	遺跡の発見と調査の経過	2
II.	発掘状況	4
第1	トレンチ	4
第2	トレンチ	5
第3	トレンチ	6
第4	トレンチ	6
第5	トレンチ	7
III.	出土遺物	8
1.	土 器	8
2.	石 器	41
IV.	まとめ	115
	付録、内之原遺跡	117
	写真図版	119

I. 遺跡の位置と調査の経過

1. 椎ノ木崎遺跡の位置

椎ノ木崎遺跡は牛深市深海町字椎木崎に所在する縄文時代を中心とする遺跡である。その位置は天草群島の中での最大の下島の東南部にある。牛深市中心部の北東 8.5° 、深海港の南側 2° にあたる。遺跡は東側を海に面し、西側には標高は高くないが、急斜面を多くもつ複雑に小さな谷が入りこんだ小丘陵となっている。



第1図 椎ノ木崎遺跡の位置 (2万500分の1)

遺跡の存在する場所は南北両側に尾根が海まで迫り、小さく湾入した部分が少面積の水田となっている。このため北東南の各側では急な斜面が迫り、東側は直ぐ海となっている。遺跡はその湾状の部分の北面する南側の斜面から水田面にかけて認められ、或いは中央部からさらに北側にも達する可能性もある。

この一帯の標高は三角点が近くに存在しないために正確には不明瞭だが、満潮水面の上4～5mの位置を最高部とし、その下にかけてみられ、一部は満潮水面の下まで包含層が認められる。遺跡の広がりは斜面の密柑園から水田にかけて認められ、一部は現在の海岸部分にも遺物の包含がある。今回の試掘ではこの遺跡の広がりの確認も目的の一つであったが、全てのトレンチが遺跡の範囲内にあることが判明し、予想以上に広い遺跡であると考えられる。

2. 遺跡の発見と調査の経過

椎ノ木崎遺跡は、昭和61年7月18日に黒木雄二氏によって発見されたものである。その後、黒木氏はたびたび遺跡を踏査して状況の把握につとめられた。9月26日には富田も連絡をうけて遺跡を踏査し、平田正範・黒木雄二・岡部親司・竹井武助・植前政文・川上敏文の各氏も同行された。また、踏査の後に黒木氏が採集されていた資料を拝見した。その結果、椎ノ木崎遺跡は縄文時代中期から晩期まで長期間にわたって形成された遺跡で、天草群島の中では五和町二江の沖ノ原遺跡に匹敵するものであろうと推測できた。さらに、この遺跡は低地に立地し、沖ノ原遺跡にはみられない泥炭遺跡である可能性も考えられた。この間の事情については『天草の伝承と文化』7号に報告している。この踏査の状況は「毎日新聞」で報道された。

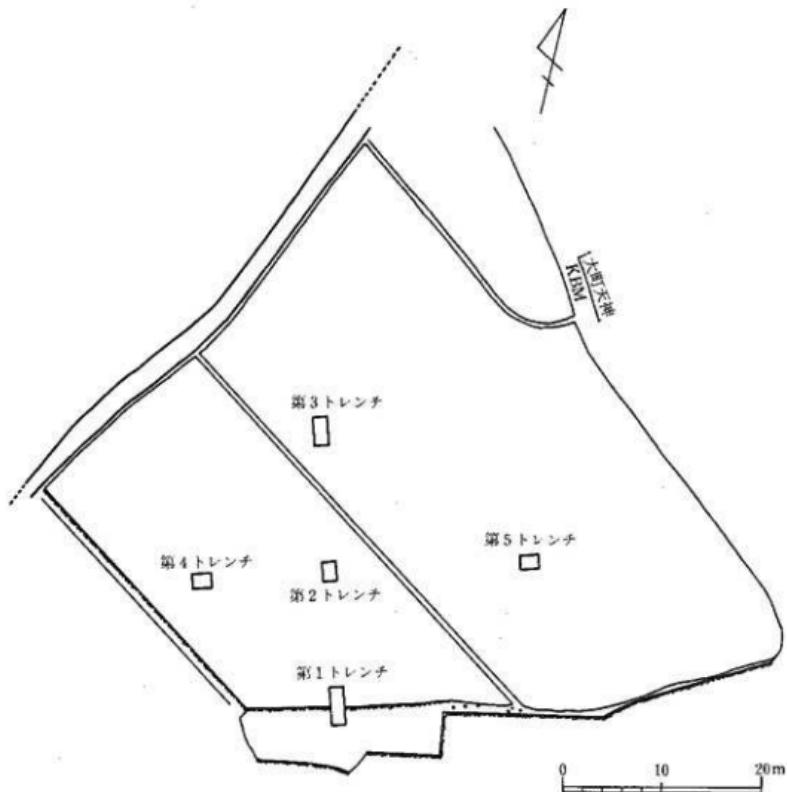
このような中で、天草在住の研究者の間で、遺跡調査の気運がおこり、平田正範氏は牛深市の竹井武助氏らと相談して教育委員会に調査の実施を働きかけられた。これを受けて牛深市教育委員会では62年度に試掘のための予算を計上して、熊本開発センターに調査を委託されることとなった。調査は富田正範氏が調査主任として全体の指導を行い、開発センター松舟博満研究員が現場の調査にあたった。調査にあたっては牛深市教育委員会唐田敬一係長が庶務および運営にあたり、牛深郷土歴史研究会の岡部親司会長をはじめ会員のみなさん、および平田正範氏・黒木雄二氏らの参加があった。

試掘調査は62年10月12日から11月8日まで、延べ21日にわたって実施した。調査トレンチは遺跡の範囲を確認し、その包含層の状態を把握するために南側の丘陵裾線に直行する南北方向に第1・第2・第3の3カ所を、また第2トレンチの東西に第4・第5トレンチを設定した。これは第1～第3トレンチで斜面部分から水田にかけて南北の遺跡の広がりを、第4・第5トレンチで東西の広がりを確認するのが目的であった。

発掘を進めると、水田部分の耕作上の下にはすこぶる硬く締まった床土があり、大変苦労を

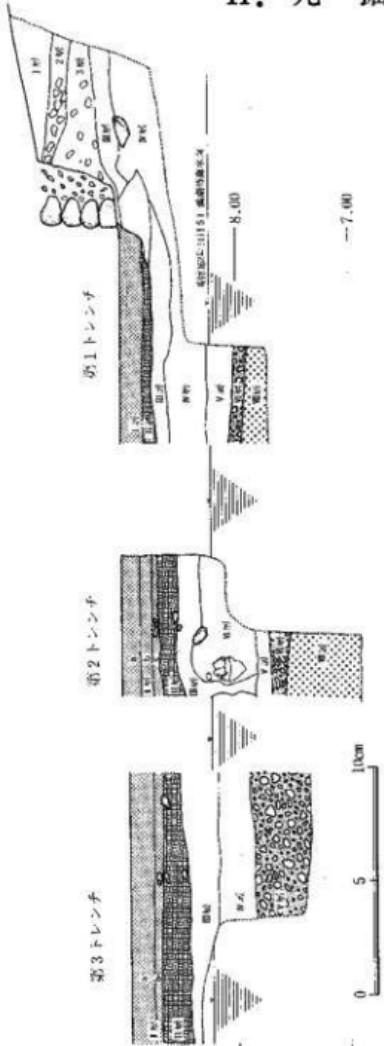
した。また、その下1層になると泥炭層となっていて多量の湧き水に悩まされた。この湧き水には水中ポンプで排水しながら発掘を続けたが、翌朝にはまた水田面まで水が溜まっており、期間中に5日あった雨天の折にはトレンチはおろか水田全体が水で覆われる状態であった。排水にあたっても、泥炭層中の有機物が吸い込み口に詰まり、作業は困難をきわめた。

また、試掘終了後の11月29日には、遺跡が海の中まで延びている可能性があるため、岡部氏の斡旋により牛深ダイビングクラブの富川光会長ほか4人による海中調査を実施して頂いた。これは熊本県初の水中考古学の実施であり、具体的成果をあげることはできなかったが、今後の研究史上で重要な試みとなることであろう。これは「熊本日日新聞」でも報道された。



第2図 トレンチ配置図

II. 発掘状況



第3図 第1・2・3トレンチ断面 南北方向東面

試掘は調査地の選定を行った後に、5カ所に試掘区を設けて実施した。トレンチは南北方向に等高線に直角に3カ所を配置し、山裾から水田の平地にかけて包含層の傾斜と広がりの状況を把握することとした。この試掘区では南側を第1トレンチ、中央を第2トレンチ、北側を第3トレンチと呼ぶことにする。

また第2トレンチの部分から1～3トレンチの主軸に直角に東西1カ所のトレンチを配置し、包含層の平地内の広がりを調べることとした。西側のものを第4トレンチ、東側のものを第5トレンチと呼ぶことにする。第1～5トレンチの配置場所は付図のとおりである。

第1トレンチ

第1トレンチは南の丘陵裾に設けた試掘区で、南北長2m・東西幅1mのものである。密柑山から水田の一部にわたるもので、山裾における包含層の状態を把握する目的で設定した。この部分では図に示すような上層がみられた。水田部分および密柑畠部分における層位は次のとおりである。

I層 現在の水田耕作土層である。

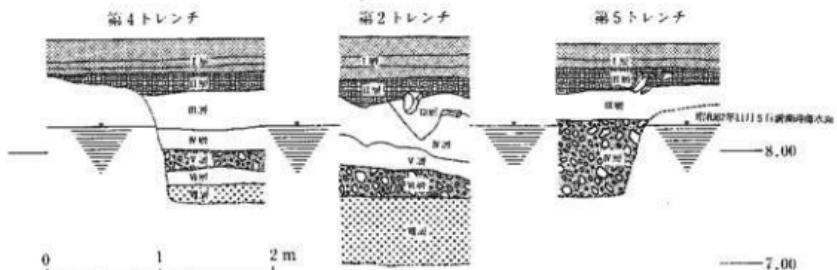
II層 黄褐色をなす上層で、水田の基盤となっており、鉄分などが沈着していく著しく硬くなっている。塊を多く含む。

- III層 暗褐色をなす上層で、炭化物が混じりよく締まっている。層中には礫や大きめの土器片がみられ、石器も多く存在した。
- IV層 褐色をなす上層で、III層に比べてやや黄身を帯び、砂を含んだ柔らかさをもった層である。礫を含み、多くの上器・石器の包含がみられた。
- V層 やや明るい暗褐色の土層で、炭化物が混じり小さな礫が含まれている。土器片が多くみられた。
- VI層 赤みを帯びた黄褐色の礫層で、角張った礫を含み、遺物の包含はみられない。
- VII層 明るい青灰色をなす土層で、砂を多く含み上部には小礫が混じる。下部は粘土質の砂層となり、木の実や小木片がみられた。木の実は割れていない状態で出土する。この有機質を含む層は上部をかすかに確認したのみで深くは掘っていない。
- 畑部分1層 黄みを帯びた灰褐色の土層で、現密柑畑の表土層である。畑造成によって盛られた土で構成されている。
- 畑部分2層 これも畑造成で盛られた層で、黄褐色の砂岩を多く用いている。
- 畑部分3層 黄みを帯びた灰褐色の土層で、畑部分1層に似る。この層には多くの礫や石器を含んでいる。
- 畑部分4層目 この層は水田部分のIII層と同じである。

第2トレンチ

第2トレンチは水田の中に設けた試掘区で、南北長1.5mで幅は1mである。包含層の厚さを確認する意味で設けたものである。しかし包含層は、予想以上に深く、その底部まで達することはできなかった。このトレンチの層序は次のとおりである。

- I層 水田の耕作土およびその基盤の一部であり、a・b・cに細分される。
- I a 灰褐色をなす土層で、現在の耕作土である。
- I b 黄褐色をなす土層で、耕作土下の沈澱層である。
- I c 明るい灰褐色の土層で、I bと同じく沈澱層であるが、やや礫を含む。
- II層 灰色がかった黄褐色の土層で、強い粘質土に礫を多く含み、非常に硬く締まっている。
- III層 暗灰褐色をなす土層で、粘質は少なく、少し炭化物を含みもろい土である。多くの遺物を包含している。
- IV層 暗褐色の土層で、炭化物を多く含む。III層に比べて、砂質が多いためか硬く締まっている。埋窓が出土している。
- V層 褐色の上層で、小さな礫を含む。上器の細片がみられた。
- VI層 赤みを帯びた黄褐色の上層で、やや細かな礫を含む。遺物の包含はない。
- VII層 黒褐色の泥炭層である。上部には炭化物が多く含まれる。その下より上器片とともに木



第4図 第4・2・5トレンチ断面 東西方向北面

の実・木の葉・木片が存在した。地表より1.90mの深さから、鯨の脊椎骨板が出土している。

第3トレンチ

南北に主軸を置くトレンチの内で、最も北部の水田の中央ちかくに設けた試掘区である。包含層の範囲を把握する目的で設定した。このトレンチの層序は次のとおりである。

I層 水田の耕作土およびその基盤の一部で、a・bに分かれる。

I a 灰褐色の土層で、水田の耕作土となっている。

I b 明るい灰褐色の上層で、耕作による沈殿層である。

II層 明るい黄褐色の土層で、礫を多く含み、粘質で硬く締まっている。土器の細片や石器が多くみられた。

III層 赤褐色の土層で、やや大きめの多くの礫と砂質を含み、遺物は少ない。

IV層 暗灰褐色の土層で、砂質で粘り気をもち礫を多く含む。遺物の包含も多い。

V層 赤みがかった黄褐色の砂疊層で、遺物の包含はみられない。地表下1.60mまで掘り下げたが、この下にもこの層が続いているものと思われる。

第4トレンチ

第4トレンチは第2トレンチの西（山寄り）に設けた東西1.5m・幅1.0mの試掘区であり、西側の包含層の広がりを確認することを目的とした。この部分では 図に示したような土層がみられた。各層位は次のとおりである。

I層 この層は水田の耕作土と基盤の一部であるが、上部により a・b・c に別れる。

I a 灰褐色をなす土層で、現在の耕作土にあたる。

I b 黄みを帯びた灰褐色をなした土層で、耕作土下の沈殿層にあたる。

I c 明るい灰褐色をなした土層で、耕作土下の沈殿層に礫を含む。

- II層 暗褐色をなすわずかに炭化物を含む土層で、粘質で礫を含み硬く締まっている。
- III層 暗褐色をなす土層で、砂質が多くサラサラしており、小礫を含む。炭化物が多く、遺物の包含も多い。
- IV層 赤みを帯びた灰褐色をなす上層で、礫が多くて締まっており、遺物も含んでいる。
- V層 黄みを帯びた灰褐色をなす土層で、礫を含む。層の上部に土器が多く見られたが、これはIV層のものがV層に食い込んだものと思われ、下部には遺物は認められない。本来は無遺物の疊層であろう。
- VI層 青みを帯びた灰褐色をなす土層で、粘質がある。炭化物が多く、遺物の包含も多く見られた。
- VII層 黒褐色をなす泥炭層で、粘質がある。層中に木の実・木の葉や網などのが存在した。この層は下部までは達していない。

第5トレンチ

第5トレンチは第2トレンチの東（海寄り）に設けた試掘区で東側の包含層の状態を把握する目的で設定した。この部分では4図に示すような土層がみられた。各土層は次のとおりである。

- I層 この土層は現在の耕作土とその下の沈殿ものの層で、a・bの2層に分かれる。
- I a 灰褐色をなす土層で、耕作土にあたる。
- I b 明るい灰褐色をなす土層で、耕作土下の沈殿物層である。
- II層 黄褐色をなす土層で、粘質を帯びて硬く締まっている。層中に多くの礫や遺物を含むが、土器は細くなつたものが多い。
- III層 暗褐色をなす上層で、礫を多く含み締まっている。層中には炭化物が多く、遺物の包含も多い。
- IV層 灰褐色をなす土層で、大小の礫を多く含み、コンクリートのようにガチガチに固まっている。トレンチの一部を深掘りしたが、遺物の包含は見られなかった。この層はまだ下に続いている。この層の下に泥炭層が存在すると考えられるがそこまでは達していない。

(参考文献)

黒木雄二「椎ノ木崎遺跡の発見・黒曜石との出逢い」

富田統一「牛深市椎ノ木崎遺跡」

「天草の伝承と民俗」7号、1987、天草伝承と文化の会

III. 出 土 遺 物

1. 土 器

今回の椎ノ木崎遺跡の発掘調査はその面積に比して多量の遺物が出土している。その中には縄文時代を中心とする多量の上器があり、一部ではあるが弥生時代や古墳時代のものも含まれている。これらの土器はごく稀に保存状態がよく器面調整までよく残っているものもあるが、大部分のものは器面が著しく荒れている。これは上器を包含している上質に關係しているようで、北西南の3方の山の地山の性質が土器の保存を困難にしたと考えられる。個々の土器の特徴などについては表として掲載したが、その中の焼成の項で良好としたものでも、台地上の遺跡から出土するものに比べるとはだらくなったりが多い。このため、器面の調整が不明瞭なものが多く、一部には文様さえ消滅しているものもある。

出土した土器をみると、各型式のものがあり椎ノ木崎遺跡において長期間にわたって人々の生活が営まれたことを知ることができる。具体的には後に述べるが、それは縄文時代中期の阿高式に始まり、後期の南福寺式・出水式・御手洗A式・鎧ヶ崎式・北久根山式・辛川I式・辛川II式・太郎迫式・鳥井原式・御領式、晩期前半の土器・黒川式まで存在している。縄文時代以外では弥生時代後期と古墳時代の遺物が若干含まれている。これらの遺物は時期の古いものがおおむねより下層から出土し、新しいものが上層にみられたが、相当に上下の層に混じっており、必ずしも層位的に出土したとはいえない。以下、それぞれの土器を型式別に紹介したい。

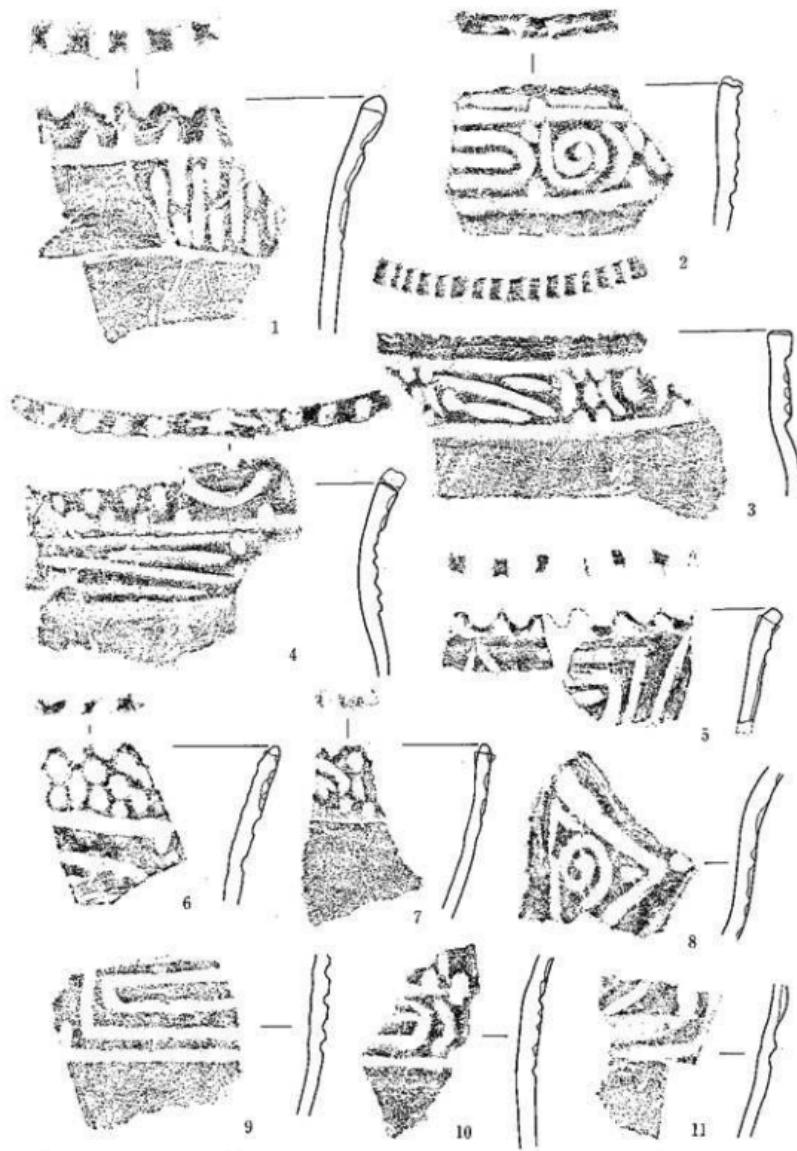
A. 阿高式

今回の調査で出土した資料のうち、一部に阿高式より先行する可能性のあるものもあるが、明瞭に確認されるものとしては遺跡が開始された時期といえる。出土量は型式別にみると最も多い。第1トレンチではIV層・V層付近に、第2トレンチではV層に、第4トレンチではVII層を中心として出土している。

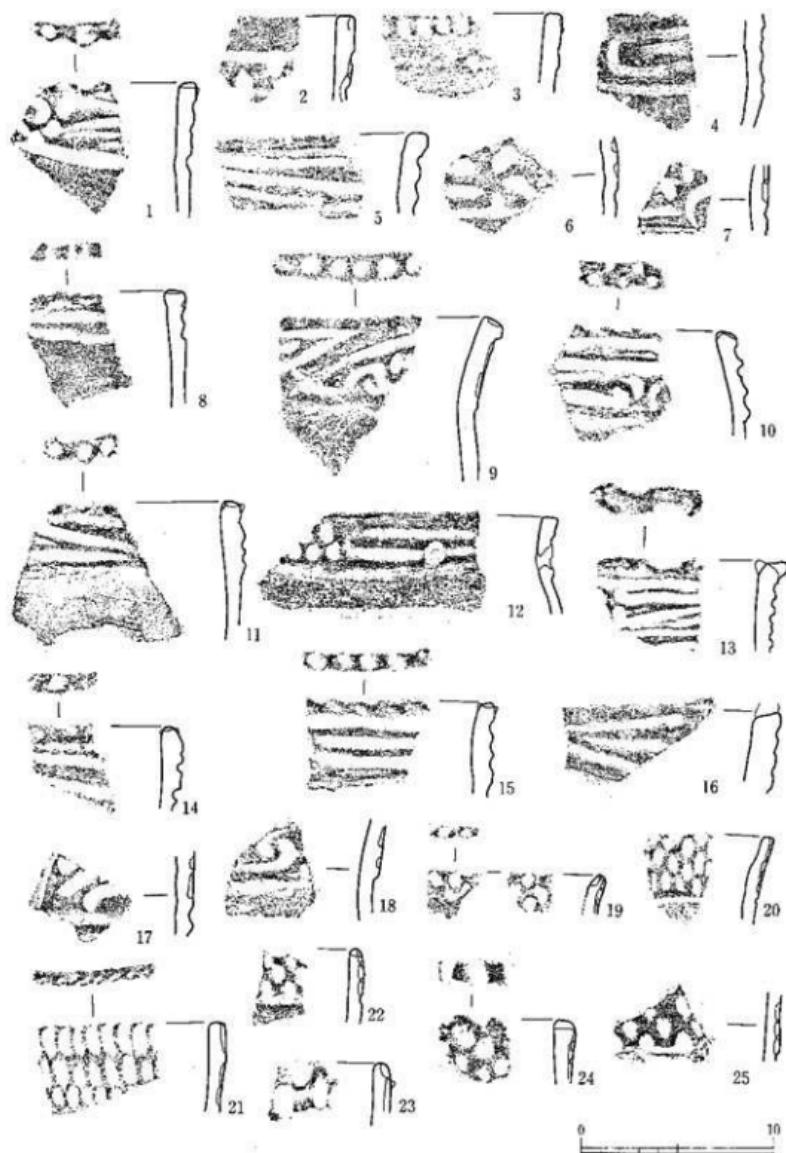
5図、6図、7図、8図1～6・9、12図1～3に示したものがそれにあたり、9図23・24や10図3～8あたりは次の南福寺式との区別が明瞭でない。文様構成は口縁下に幅の広い文様帯をもつものと、器面全体に文様をもつものとの2種が存在する。

5図1～7・9～11、6図、7図1～3に示したものは口縁下に文様帯を構成するものである。押点の列点のみで文様構成をするもの以外では、文様帯の最下部に凹線をめぐらすか文様帶部をやや肥厚させて脇の無文部とのあいだに段をつけたものが多い。

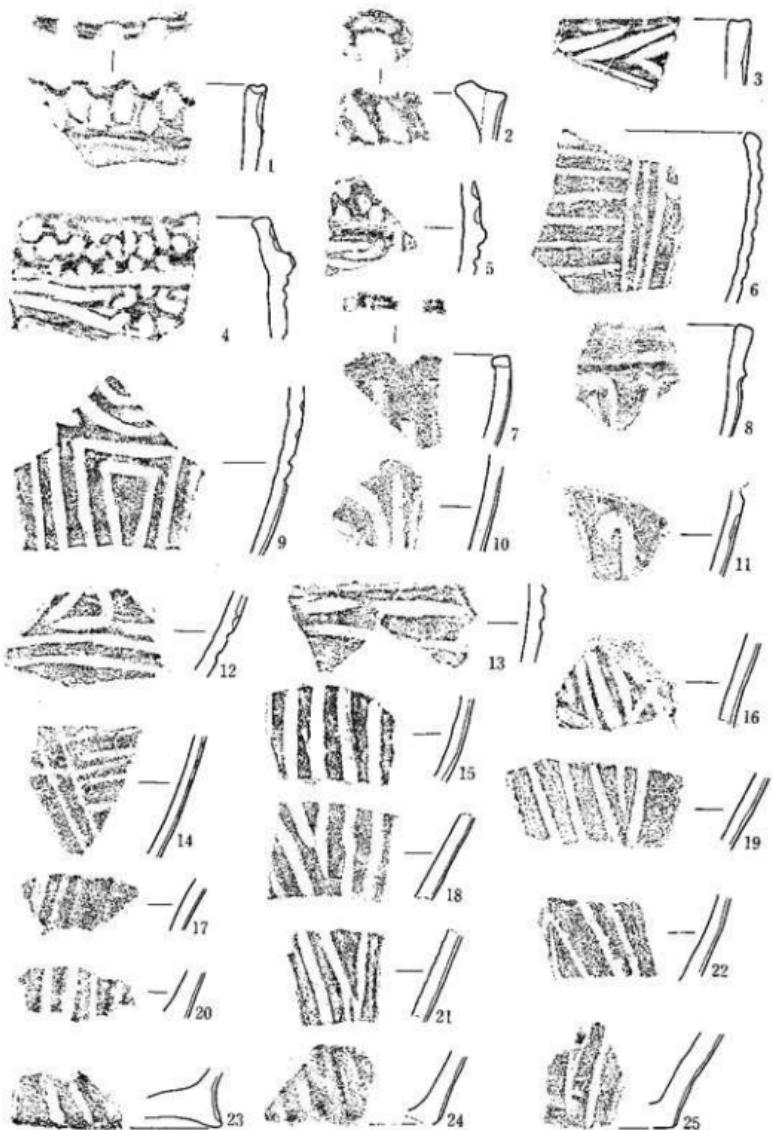
全体の文様構成がわかるほどの大破片はないが、いくつかの文様構成のパターンが知られる。5図3・4は施文集約部に弧線文や鉤手文を配し、そのあいだをゆるい斜線で埋めるのもあ



第5図 出土土器 (1)

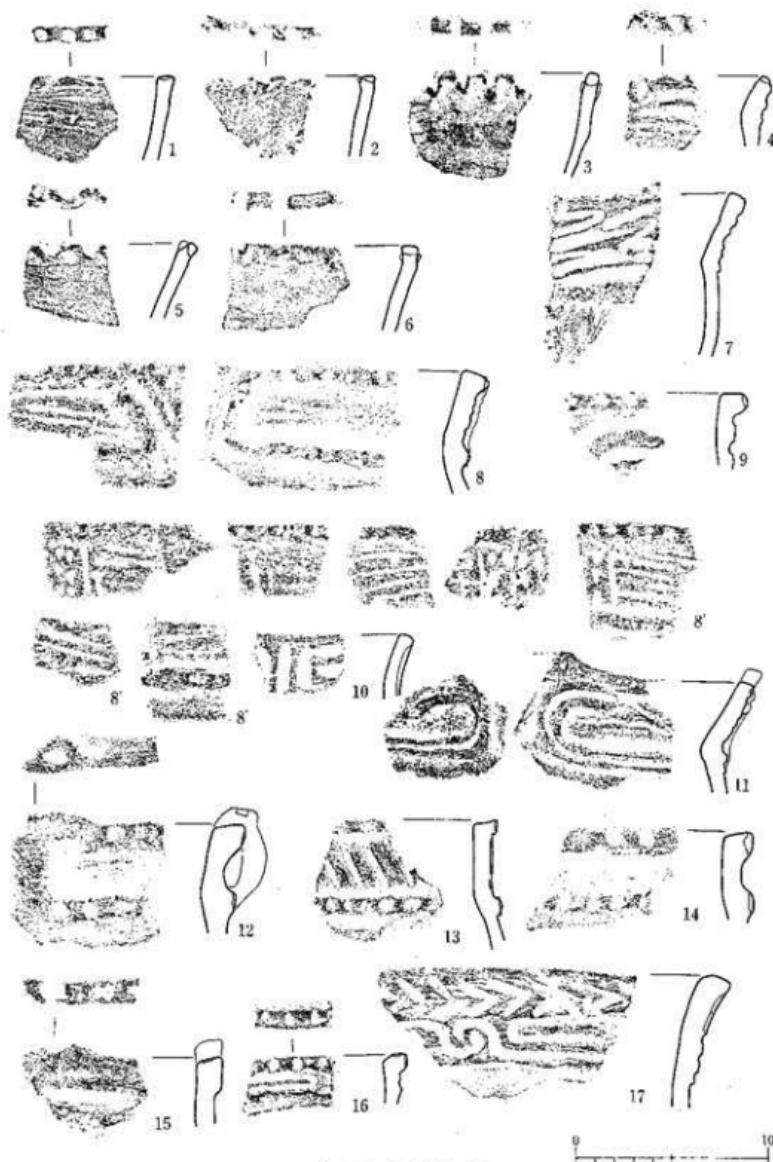


第6図 出土土器(2)



第7図 出土土器(3)





第8図 出土土器(4)

る。6図1・5・11・16などもそれにちかい構成をとるものと考えられる。6図7もこれにちかいが、こちらは施文集約部の文様を上向きと下向きの三角形で囲んだもので、斜線まで含んだものが連続するものではないかと考えられる。5図2・9・10、6図10・12・15などは施文集約部のあいだを平行線で埋めるものである。5図2では施文集約部に渦巻文と鉤手文を施文している。5図10もそれにちかいとみられるが、小破片であるために明確でない。6図12では施文集約部に集合押点を施文している。5図1はやや特異であるが、施文集約部に縦位の短直線文を集合して施文し、そのあいだは無文となっているらしい。これだけ無文空間を多くとる文様構成は椎ノ木崎遺跡以外の資料をふくめて阿高式の文様としては珍しい。

6図19～25、7図1は押点の連続だけで文様構成するとみられる一群である。正円形またはやや縱長の押点を1段または数段にわたって連続させて文様構成するのが通例である。6図19では口縁裏面にも押点がみられ、阿高式における裏面施文としていさきか変わっている。6図21では縦長の押点を施文するにあたって、破片の右方から左方に押したようにしている。そこで押点が横にずれたようになっており、口唇部にもその影響でシワが寄っている。

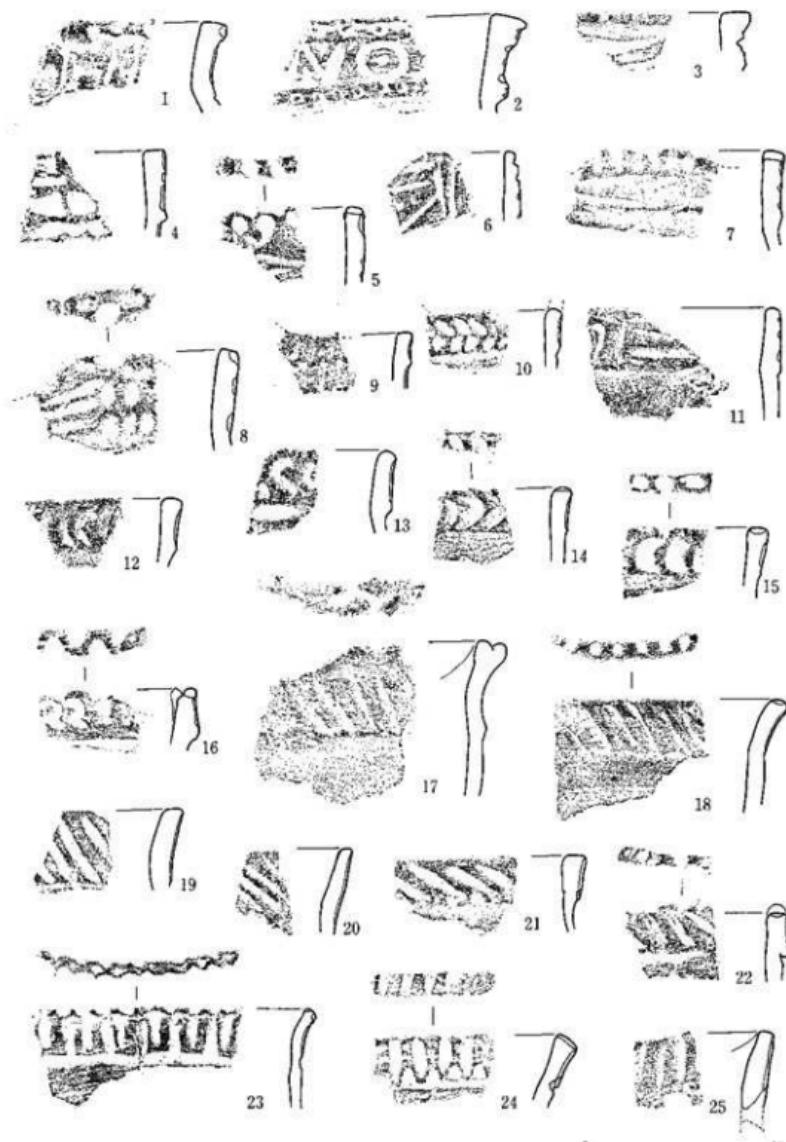
7図4～25は表面全体にわたって施文する一群である。底部ちかくでは「V」字状に重なりなって上部に向かって開きながら文様を展開する。上部の文様としては鉤手文や渦巻文などの文様を構成する7図4・9と「V」字状に開き筋手状になる7図8・10・11などがある。7図6は横線と縦線を組み合わせて文様を構成し、7図12では脇部中位を横線で区切っているらしい。7図13には無横線が連続して施文されているが、これだけで全体の文様となるのかどうかは不明である。12図1は小型で口縁が外反するもので、胴部に曲線の文様があり、この時期としてはやや異形の土器である。

8図1～3・5～6、12図2は無文の土器である。12図3も口縁外面に押点の施文をみると、口唇部の押点がやや外によったもので、同類であろう。表面・裏面ともにナデて仕上げている。この一群の上器は口縁部から底部まで無文と思われる。

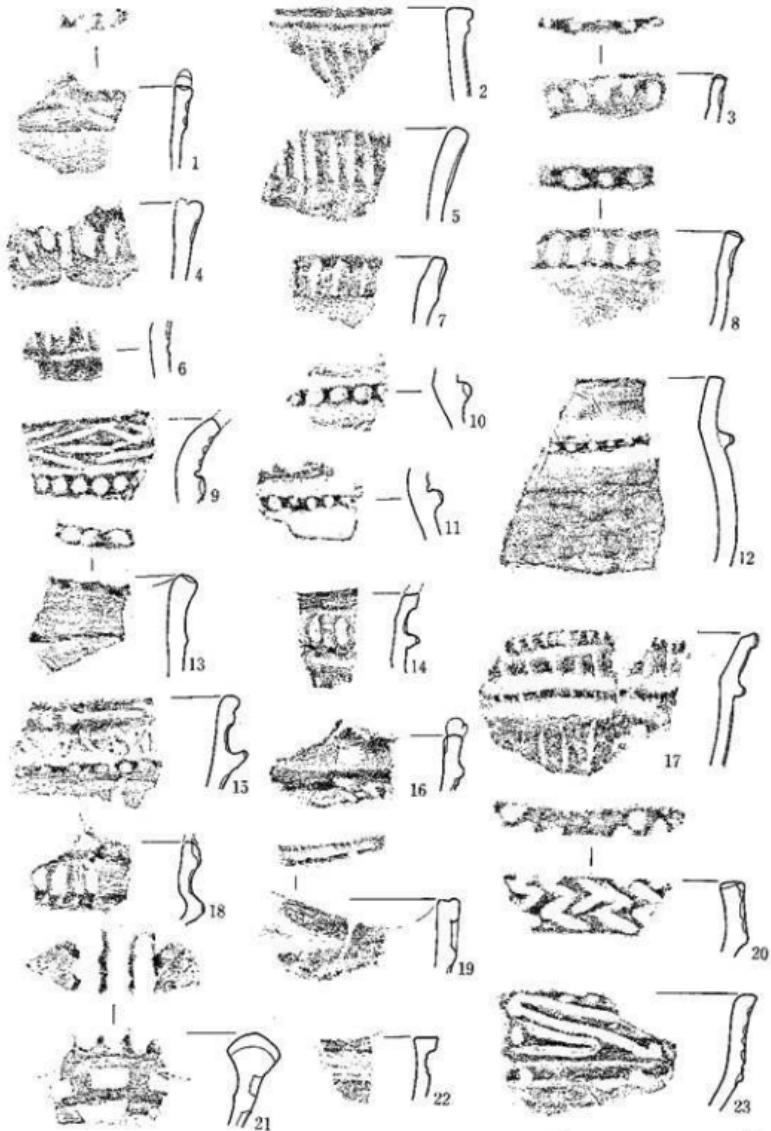
これら阿高式の土器には口唇部に刻目や押点を施文するのが通例であり、この椎ノ木崎遺跡でもその比率は大変高い。5図1・5～7にみられる押点は特に大きくて深く施文されている。5図3、6図7・14・15では口唇部の中央に押点があつて窪むだけで両側にはほとんど達していない。5図3では小さな刻目状の施文されている。これらのはか、この椎ノ木崎遺跡の特徴かとみられるのが、6図10・11・13、4図5にみられる表裏両側からの交叉の押点である。7図2もあるいはその一部の破片かもしれない。この施文には強弱の差もあり、他の遺跡と今後詳しく比較する必要があるが、この遺跡およびこの地方の地域性かもしれない。

B. 南福寺式・出水式

阿高式のながれをうけた上器で、後期初頭に位置づけられる一群である。8図7～17、9図、10図、11図、12図がそれにあたる。南福寺式と出水式の区分は一部不明瞭なものもあるが、8

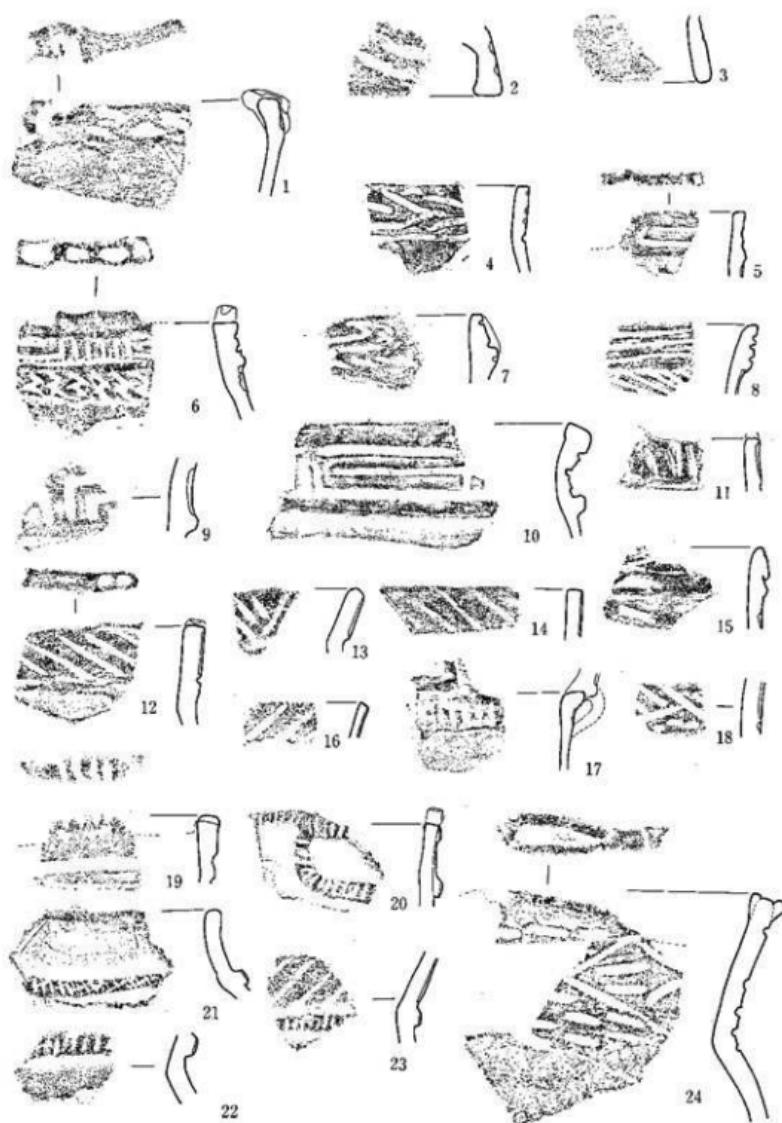


第9図 出土土器 (5)



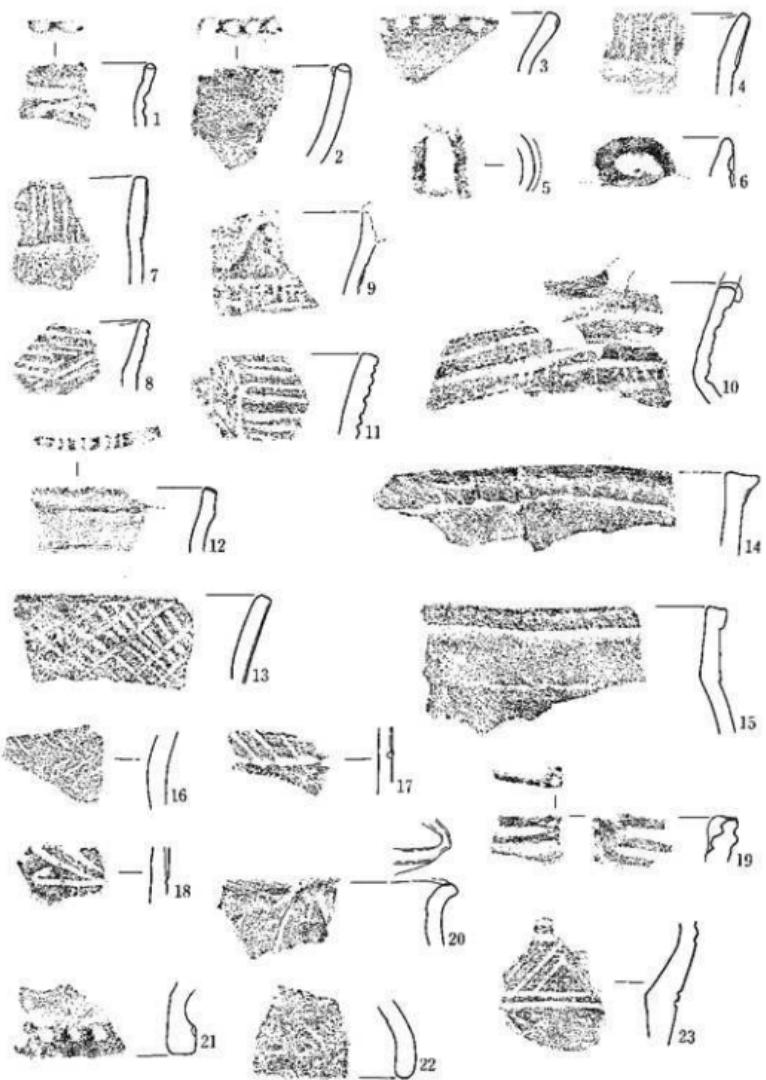
第10図 出土土器 (6)





第11図 出土土器 (7)





第12図 出土土器 (8)



第13図 出土土器(9)



図7~17、9図、10図、11図1・2あたりが南福寺式で、11図4~24、12図7・8・11~18あたりが山水式になると見える。12図10は、どちらに属させるか問題がある。

この一群の土器には深鉢形上器と浅鉢形土器の2種があるが、小破片での区別はむつかしい。施文は口縁部に集約され、次第に文様帯が狭くなる傾向にある。しかし、南福寺式の一部には10図17・21のように器面全体に施文したと考えられるものもある。

全体の文様構成が判明するほどの大破片はないが、8図8や11ではある程度の構成が推定できる。8図8および8'は同一個体の破片ではあるが、器壁が荒れているうえに接合する点が求められないものである。口縁部は外に肥厚し、口縁下にも突帯をつけそれぞれ押点を付している。この肥厚と突帯は施文集約部で弧状につながり「X」字状に反転する文様を構成すると考えられる。その他の部分にはその間に横線と縱位の列点を複数施文している。これが施文集約部間に埋める文様と副施文集約部となるものであろう。8図11では波状口縁の下に施文集約部があり、下部の突帯が上に向かって弧状に反転し左右に「X」字状に文様を構成するものと考えられる。口縁と突帯間には横線が施文されているが、器面が荒れており不明瞭である。

この一群では口縁下部を突帯状に肥厚させ押点や列目を施文したものが多い。8図8・11~14、9図2、10図9~17の南福寺式では突帯が幅広で高く、施文も大きめの押点がみられる。これに対して山水式では11図10のように大ぶりのものもあるが、一般的なのは11図20~23にみられるように低い帯状になり、縦長の刻印を施文している。

12図20は口縁部の破片で、焼成からみると阿高式系に属すると考えられるものである。この土器は正面観を断面の上に示したように正円形をなさず注ぎ口状になっており、しかも左右対称ではないらしい。これからみると何らかの器材を写した特殊な器形が考えられるが、これだけの破片ではそれ以上の推測は不可能である。

12図19は表面に幅狭な1凹線を巡らせ、内面に2本以上の凹線を施文した上器である。また、内面の施文集約部と考えられる部分には縦長の瘤状の貼付文がみられ、その口縁上には押点がつけられている。この土器は焼成や器面調整をみると阿高式系のもので、施文方法から南福寺式に属すると考えられる。このような内面施文土器は阿高式系にはきわめて稀なものである。

12図23も器形的に他に類例のないもので、あるいは阿高式系以外に属するものかもしれないが、焼成と文様構成の類似から山水式あたりに考え、ここに示した。

C. 鎌ヶ崎式土器

中九州では绳文後期初頭に瀬戸内地方の影響をうけて磨消繩文系の土器が姿を現すが、それが定着したものが鎌ヶ崎式土器である。13図1~18に示したものが鎌ヶ崎式とそれに伴う土器である。13図1はやや器面の調整や施文が他のものと異なっており、あるいは先行する中津式に属するものかもしれない。それであれば南福寺式あたりに伴った可能性が考えられる。13図1~3は磨消繩文系の鉢形土器である。13図2は一般的な鎌ヶ崎式の鉢形土器の口縁部とはや

や違っていて、13図1ほどではないが先行する可能性がある。13図5～7は浅鉢形土器の口縁から胴部にかけての破片である。13図5には、口縁部から胴部にかけての橋状把手の痕跡がみられる。13図9・10は塊形土器で、ともに横線を施文している。13図9では破片左側に施文集約部とみられる縦線が一部みられる。13図10は口縁部とその下にかけて厚手に仕上げたもので、縦に剥離面がつづき、薄い器壁の外側に粘土を張りつけて厚くしていることが判明する。

13図12～18は鐘ヶ崎式に伴う在地系の深鉢形土器である。13図12は、鐘ヶ崎式でも古手のものに伴う御手洗A式で、表面に2列・内面に1列の刺穴列点文をみる。今回の調査では1点のみの出土である。13図13・14では口縁を大きく肥厚させ、そこに綾杉状施文がみられる。この口縁肥厚は熊本平野地方にみられる同類よりも強調されている。これは伴う時期が異なるのが地域性なのかも不明瞭である。13図11は鐘ヶ崎式に伴う高坏の口縁部破片である。大きく波状になる口縁の下に鈎状の突帯があげられ、その間に短い縦沈線が施文されている。その下は不明であるが、大きな筒状の脚部をもつと考えられる。

13図19・20、14図1～4は北久根山式の土器である。今回の調査では北久根山式の特徴的な施文である口縁に「W」字状の貼付文をもつ深鉢形土器は出土していない。あるいは13図19・20はその文様をもつ深鉢の破片かもしれない。14図2は肥厚させた口縁部に横位の三角形文を繰り返し施文している。このような上器は一般的な北久根山式ではなく、あるいは他の時期のものかもしれない。

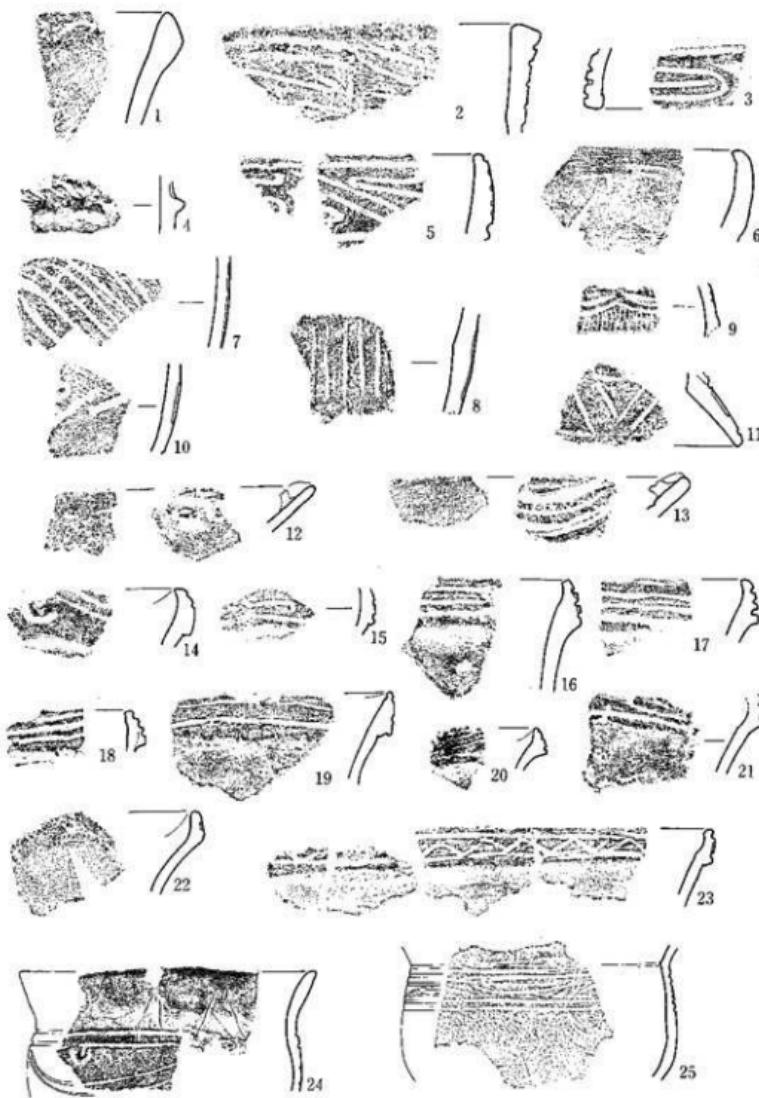
D. 辛川I式・辛川II式

14図5～13は辛川I式に属する土器である。14図5は有文の深鉢形土器の口縁部破片で斜線で区画された三角形空間に曲線文を埋めている。14図6は深鉢形土器の口縁部破片なのか、単純な塊形土器なのか不明瞭なものである。14図7～9は深鉢形土器の胴部破片である。14図11は深鉢形土器の脚台の破片で斜沈線により三角形文を構成している。10図12・13は皿形土器の口縁部破片で、ともに口縁内面に三日月形の貼付文を付している。

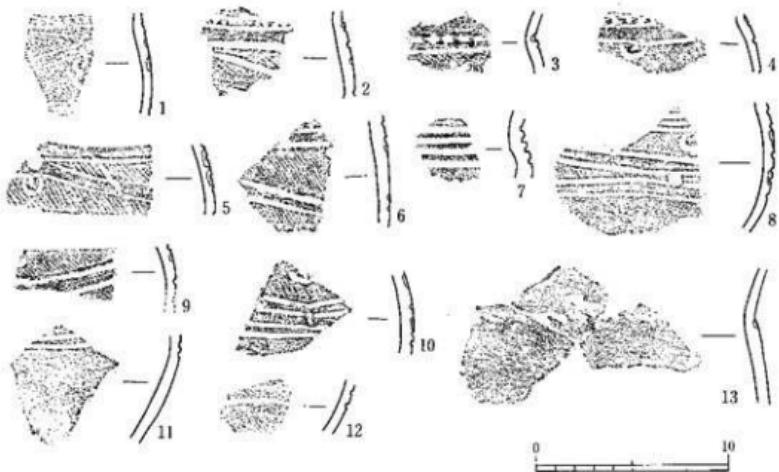
14図14～25、15図は辛川II式に属する資料である。この類の上器は中九州において最も繊細な施文をおこなう一群で、その状況は椎ノ木崎遺跡の出土資料において認められる。また、貝殻擬似縄文をみるもの（14図24）もあるが、大多数のものは磨消縄文手法をもちいている。

14図14・15・22は波状口縁をなした土器の波頂部の破片で、14図14では鉤手文が、14図15では垂下曲線文がみられる。14図22では、波頂下に小さな弧線をみると、器面が非常に磨耗しており、全体的な文様構成は不明瞭である。14図23は口縁部文様帶の上下に横線をめぐらし、その間を鉤歯文で埋めている。このような文様構成ものには施文集約部はないと考えられる。

14図24は辛川II式のなかで唯一口縁部から胴部までつながった有文の資料である。口縁部は単純に外反して文様帶を持っていない。このような例は辛川遺跡や森貝塚出土資料に完形に復原されたものがある。胴部文様帶には頭部下に2本の横線があり、その下の線が反転したと推



第14図 出土土器 (10)



第15図 出土土器 (11)

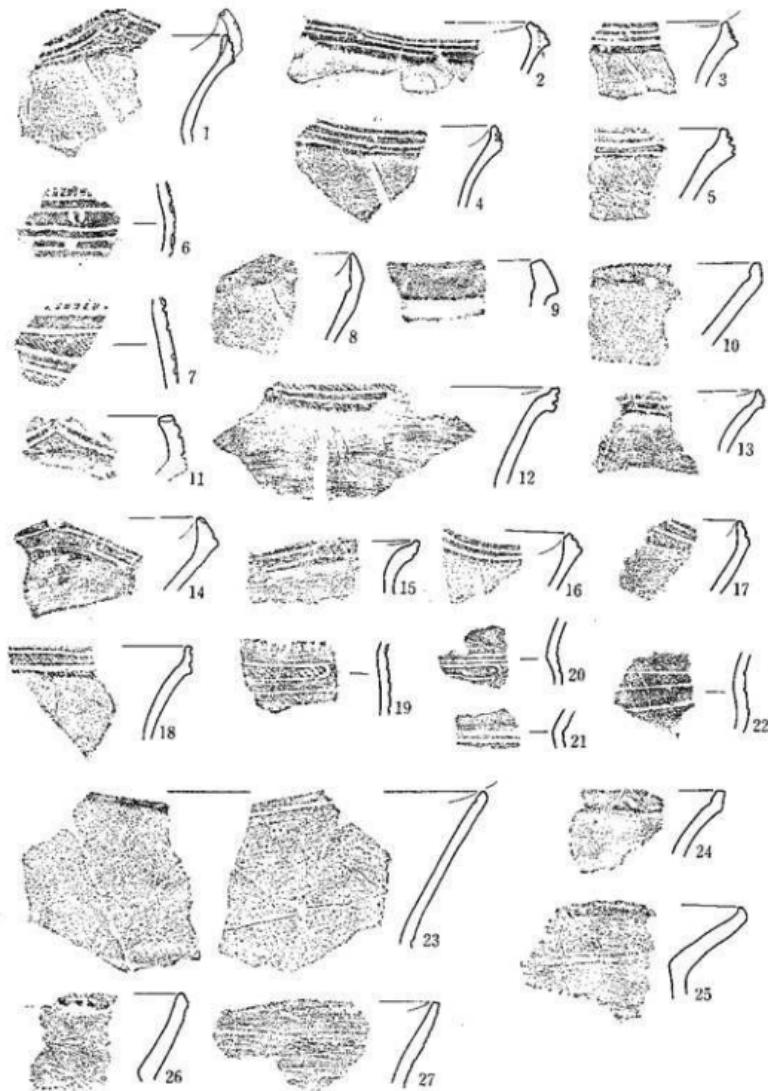
定される弓状の弧線が下部にみられる。その弧の中心で下位の横線が鉤手文を構成している。14図25も同じような器形のものであるが、口縁部に文様帯があるかどうかは不明である。胴部の文様帯には上下に2本の横線がめぐり、その間に交互に上向き・下向きとなる二重の弧線を連続して施文している。

15図は辛川II式の有文胴部破片である。15図1～4・13には頸部に列点文がみられる。文様は横線と弧線を組み合わせて三角形の空間を構成するもので、三角の中心には15図4・5のような鉤手文や「S」字状の弧線になるとみられる15図8・10の文様がみられる。15図1では「い」字状に弧線を組み合わせた文様を縦に連続させている。これは「S」字状の施文の変形であろう。15図10ではハイガイの肋尾による扇状押捺文がみられる。

E. 西平式

八代郡龍北町の西平貝塚資料を標式とする型式で、熊本県下でもまとまって出土しているのは西平貝塚のみである。熊本平野以北ではごく一部に散見されるのみで、県南部の方にどちらかといえば多いようである。この型式は辛川II式から太郎追式にかけてある時期の地域性の癖の強い一群の土器として理解されるもので、今回の椎ノ木崎遺跡調査でややまとまりをもってみられたことは天草群島の繩文後期の文化を考える上で重要である。16図1～10がそれにあたるものであるが、厳密な観察をすると若干西平貝塚資料の特徴と異なるものもある。

16図1～5は波状口縁をなす有文土器の口縁部破片である。16図1は波頂部をふくむもので、口縁部に3本の横沈線を施文し、上の2本は波状口縁に沿って上向きになり、下の1本は下端



第16図 出土土器 (12)

0 10

に沿って横走する。2本と3本日の線の間には対向弧文が付けられている。16図2～4では横走沈線間に刺突の点が付けられる。この刺突は西平式の特徴の一つであるが、典型的なものでは中位の沈線が途中で切れ、それと下位の沈線とを結ぶように施文される。これに対してこの3例では線間に丸い刺突があり、厳密にみるとやや異形といえる。16図5は沈線施文部のみの破片であるが、口縁の内面を大きく窪めており、西平式の特徴をよく表している。

16図6・7は有文の胴部破片である。16図6は横走沈線間に対向弧文の変形とも考えられる馬蹄形の弧線が施文されているためにこの類に入れたが辛川II式との区別は明瞭にはつかない。16図7も必ずしもこの類に入れる必然性はないが、シャープな沈線と頸部刺突によってこれにふくめた。16図8～10は無文土器の口縁部破片である。口縁内面に凹線をつけており、この辺は辛川II式や太郎追式より西平式に強くみられるためこれにふくめた。16図8は波状口縁をなすが、16図9・10は半口縁らしい。

F. 太郎追式

辛川II式と西平式に後続する土器で、要素としては辛川II式の要素を受けついでいる。16図11～21に示した土器がそれで、16図11～18は有文の口縁部破片、16図19～22は有文の胴部破片、16図23・24は無文の口縁部破片である。

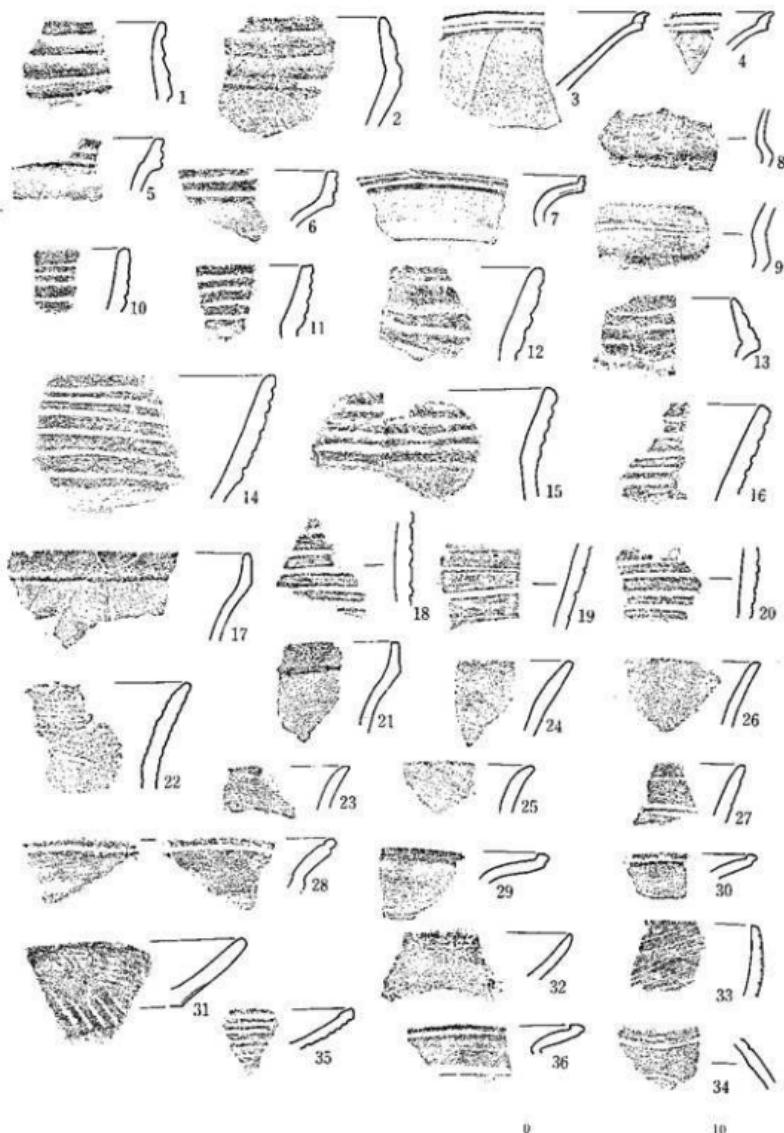
16図11～17は波状をなす口縁の一端で、16図11・14は波頂部をふくむ破片である。16図11は波頂部に上から押した押点があり、文様帶の2本の沈線が波頂のカーブと一緒に上向きになっている。16図14は波頂外側に浅い押点があり、文様帶では上位の沈線は波状に沿って上向きとなり、下位の沈線は屈折にそって横走している。16図18は平口縁をなすとみられる資料で、2本の横走沈線を施文している。

16図19～22は有文の胴部破片で、16図19にのみ地文の繩文と頸部刺突があり、他は沈線のみの施文となっている。16図19・20には太郎追式の人気な特徴の一つである横走沈線間の「X」字状反転文がみられる。

口縁部破片では、16図11～13・15は地文に繩文を施文したものが多く、しかも施文沈線が深くて粗く、太郎追式のなかではより先行するものであろう。これに対して16図14・16では繩文がなく、沈線も明瞭ではあるが割合浅く施文しており、より後出の要素と考えられる。胴部では16図19が地文の繩文と頸部の刺突がありより古手とみられ、沈線のみの16図20・21・22はより新しいと考えられる。

16図23・24は無文の破片である。16図23には口縁内面に1沈線を付け頸部にも文様の一部らしいものがあり、辛川II式の16図24にみられたものの系統につらなるかもしれない。

16図25～27は無文の鉢または深鉢形土器の口縁部破片である。波状口縁をなしたり頸部に屈折がある特徴から辛川II式から太郎追式の時期のものであろうと考えられる。しかし、これだけの破片ではどの型式に分類するか難しいのでここに一括した。



第17図 出土土器 (13)

G. 鳥井原式

磨消繩文系の上器につづく黒色磨研系の土器では、その中の最も古く位置づけられる三万田式がみられない以外は、並の多少はあるがすべての型式が存在している。17図1～4は三万田式に後続する鳥井原式の土器である。17図2は器面が荒れていて施文がやや不明瞭で、あるいは少し新しいかもしれない。17図3～4は浅鉢形で1トレンチと2トレンチ出土の破片である。両者とも器面調整が良好で、あるいは同一個体かと考えられるが接合点はない。17図8は深鉢形上器の磨耗のはげしい深鉢形上器の腹部破片である。

18図1は2トレンチIV層の断面から出土した埋甕で、ほぼ直立して検出されたものである。埋甕のための壙は不明瞭であったが、III層から掘り込んだものであろう。頭部の湾曲は弱く、胴部は丸く大きくふくらんでいる。典型的な鳥井原式といえる。

17図22～26は弓状に湾曲した頭部からそのまま外反する口縁線をもった深鉢または鉢形土器の口縁部破片である。型式を現す特徴が少ない器形のうえ、破片も小さく黒色磨研形のものであること以外には知り得ない。ただ、17図22だけは器面の調整が粗く、これは後出の要素で晚期前半の新しい時期のものと考えられる。

H. 御領式

17図5～7は鳥井原式に後続する御領式に属する資料である。17図7は器面の調整も良好な浅鉢形上器である。17図34は洞部が大きく膨らむ器形の土器で、文様があり、多分注口土器となるものであろう。小破片のため型式まで特定できないが、施文からみると御領式またはそれに後続する晚期前半くらいの時期が考えられる。

I. 晚期前半の土器

17図10～20・28～33は晩期前半に属する資料である。この晩期前半は2～3型式に分類されるが、椎ノ木崎遺跡出土の資料では資料数も少なく一括しておく。施文のようすを概観すると、晩期前半の中でも後出の要素のものが多い。

17図10～16は口縁部屈折して立ち上がる深鉢形土器の口縁部破片である。屈折の角度も統一を欠き、施文された横沈線も御領式までみられたような規則性とシャープさに欠ける。17図17・21は同一個体であるが、同様の無文上器の破片である。17図28～30は浅鉢形土器の口縁部破片であるが、屈折して立ち上がる口縁部が退化しているのが特徴である。17図31～33は塊形土器破片である。17図29は丸みをもつ体部に小さな底部がつくものと考えられる。17図33はそれよりやや深い器形をなすものであろう。表面に細い斜沈線による施文がある。17図31は大きな底部から口縁部が直線的に開きながら立ち上がる器形で、下半に斜沈線の施文をみる。他にあまり類例をみない器形と文様で、違う時期のものかとも推測したが、この時期以外には一寸考えつかない。あるいは熊本市上南部遺跡などで塊形土器II類としているものの変形であろうか。

J. 黒川式

17図35・36は晩期中ごろに位置づけられる黒川式の土器である。ともに浅鉢形土器の口縁部の破片である。17図36は器面をよく研磨している。これに対して17図35では表面に粗い条痕がみられる。椎ノ木崎遺跡の縄文時代の上器ではこの黒川式が最後で、これ以降の山ノ寺式と夜白式は出土していない。後の弥生式土器の出土も極少量だが存在するので、この遺跡では縄文文化から弥生文化に直接移行しているとはいえない。

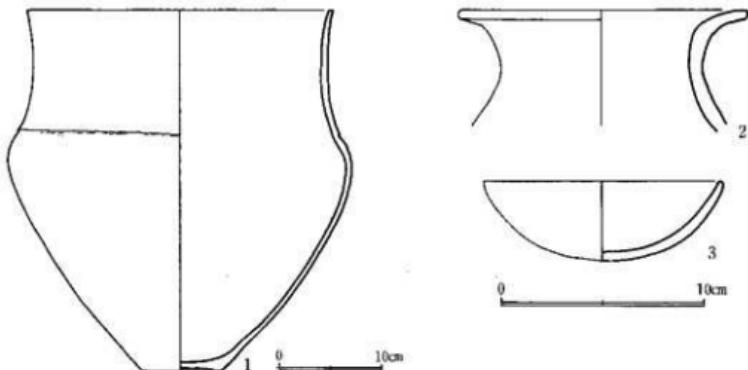
その他の土器

今回の椎ノ木崎遺跡の試掘調査では、これまで紹介してきた多岐の縄文土器のほかに少量ではあるか他の時期の上器も出土している。

弥生時代の遺物には少虫の土器と柱状抉入石斧1点がある。上器は18図2として図示したもの以外ははなはだ小片であった。18図2は壺形土器の口縁遺物破片で、復原した口縁径が14.2cmである。口縁遺物は強く外反している。器面荒れているため仕上技法不明瞭であり、時期も明確にできない。その他に、黒髪町式系の施形七器の口縁部のごく小さい破片が2点みられる。その口縁は大きく外に肥厚し、1点にはその部分に細かな刻目がみられる。また、高坏の口縁部片かとみられるものもあるが小さく不明瞭である。柱状抉入石斧は完形の資料で、肌は風化のためかやや荒れている。

古墳時代の資料として18図3に示した壺形土器が1点ある。偶体の半分ほどを残した資料で、直接接するものではないが、近くに存在するという古墳に関係する資料かもしれない。

それ以降の資料としては中世末ころと考えられる青磁の小片と瓦質の擂鉢の小片もみられた。その量は少なく、この遺跡付近に集落が存在したことなどはうかがえない程度の資料である。



第18図 出土土器 (14)

土器の特徴

区番号	表面の色調	施成	仕上技法・施文の特徴	その他の
5-1	深黄褐色	良好	ナデ仕上、表面横削り状ナデ・裏平滑、凹線施文	3トレンチIV層(灰)・III層出土、胎土に砂粒少々混入
5-2	表暗褐色、裏褐色	良好	ナデ仕上、施文は凹線	1トレンチIV層出土、胎土に砂粒混入
5-3	黄褐色～茶褐色	良好	ナデ仕上、輪郭に削り跡残る、凹線施文・空起下の二日月状施文はやや削り状	1トレンチV層出土、胎土に砂粒混入
5-4	表淡黒褐色～淡橙褐色、裏淡黒褐色	良好	ナデ仕上、表下平削り、凹線施文	1トレンチIII層出土、胎土には混人物少なし
5-5	暗青白色	良好	ナデ仕上、施文は粗い凹線・L型施文の押点は大変深く	2トレンチV層出土、胎土に小砂少々混入
5-6	表黑色、裏時黄褐色	良好	ナデ仕上、施文は指先による本型凹線	2トレンチV層出土、胎土に微砂粒と滑石粉混入
5-7	表黒褐色、裏暗褐色	良好	表横削り、裏ナデ仕上平滑	1トレンチIV層出土、胎土に小砂混入
5-8	焼がかった黄褐色(表の一部に黒色付着物)	良好	ナデ仕上、施文は網状凹線・凹線は削り状	1トレンチIV層出土、胎土に砂粒混入
5-9	黄褐色	元は良好とみられる	器面荒れ仕上技法不明瞭	3トレンチIV層(灰)出土、胎土に砂粒多混入
5-10	暗黄褐色	良好	ナド仕上、押点は指先による	1トレンチIV層出土、多少砂少々混入
5-11	表暗褐色～茶褐色、裏黒褐色～茶褐色	良好	ナデ仕上、表下と裏面は削り状	3トレンチII層出土、多少砂少々混入
6-1	表暗褐色、裏黄褐色	良好	ナデ仕上、施文凹線	1トレンチV層出土、胎土に小砂少々混入
6-2	黒褐色～黒色	元は良好とみられる	ナデ仕上らしい、凹線と押点施文	1トレンチV層出土、胎土に小砂混入
6-3	茶褐色	元は良好とみられる	器面荒れ仕上技法不明瞭、荒れのため施文は不明瞭の浅い凹線	4トレンチ黑色土出土、胎土に小砂少々混入
6-4	表淡黒色、裏黒黄色	良好	ナデ仕上、施文は粗い凹線	2トレンチV層出土、胎土に砂粒少々混入
6-5	表茶葉褐色、裏黒褐色	良好	ナデ仕上、凹線施文	4トレンチ黑色土出土、胎土に小砂混入
6-6	表淡黒褐色、裏薄黃褐色	良好	ナデ仕上、凹線施文	3トレンチIV層出土、胎土に砂粒混入
6-7	表黒色、裏時黄褐色	良好	ナデ仕上、押点は指先による施文	1トレンチV層出土、胎土に小砂と滑石を混入
6-8	表茶褐色、裏淡黄褐色	表面は荒い	ナデ仕上、凹線施文、コ縫の押点は浅い	4トレンチV層黑色土出土
6-9	茶褐色	表面やや荒い	ナデ仕上らしい、凹線施文	1トレンチV層出土、胎土に小砂少々混入
6-10	表黑色、裏茶褐色	良好	ナデ仕上、凹線施文	1トレンチIV層出土、胎土に小砂少々混入
6-11	表橙褐色、裏黄褐色～淡黒褐色	良好	ナデ仕上、施文はやや深い凹線・L型施文の内外に押点	4トレンチV層黑色土出土、胎土に小砂少々混入
6-12	表黑色、裏時黄褐色	表面やや荒い	凹線と裏ナデ仕上、表底部に横削り、凹線施文、被修復あり	1トレンチIV層出土、胎土には混人物少なし
6-13	暗茶褐色	良好	ナデ仕上、横削り・縦施文・凹線部削りは内外から大きく押す	1トレンチIV層出土、胎土に小砂少々混入

図示号	表面の色調	焼成 良 好	仕上技法・施文の特徴	その他の 事項
6-14	黄褐色	良 好	ナデ仕上らしいが器質が荒れていて不明瞭、施文はやや太めの沈線	4トレンチ黑色土出土、胎土に小砂少々混入
6-15	暗黄褐色	良 好	ナデ仕上、網状凹線施文・凹線溝は棱線をなさない	4トレンチ黑色土出土、胎土に小砂少々混入
6-16	暗黄褐色	良 好	ナデ仕上らしい、凹線施文・破片右端に突起の一部破損・粘土過乾付施文が残る	4トレンチIII層出土、胎土に小砂少々混入
6-17	表淡黒色、右端黄褐色	良 好	ナデ仕上、網状凹線施文	1トレンチV層出土、胎土に小砂少々混入
6-18	淡棕褐色	良 好	ナデ仕上、やや細な凹線施文	1トレンチIV層出土、胎土に砂粒少々混入
6-19	棕褐色	良 好	ナデ仕上らしい、刻突斜点施文・刻突は指先による	4トレンチ黑色土Ⅶ層出土、胎土には混入物少なし
6-20	淡黄褐色	良 好	ナデ仕上、指先による施文	4トレンチ黑色土Ⅷ層出土、胎土に小砂少々混入
6-21	表墨褐色～普褐色、裏 黄褐色	良 好	ナデ仕上、施文は指先による押点で押し引き状となる	4トレンチ黑色土Ⅸ層出土、胎土に漂石少々混入
6-22	淡黄褐色	良 好	ナデ仕上、指先による押点施文	4トレンチV層出土、胎土には混入物少なし
6-23	暗黄褐色	良 好	ナデ仕上、施文は押点と凹線・口部の浮点は倒向から	2トレンチV層出土、胎土に砂粒少々混入
6-24	黑褐色～茶褐色	やや悪い	ナデ仕上、施文は指先による押点	1トレンチIII層出土、胎土に砂粒少々混入
6-25	墨褐色	良 好	ナデ仕上、指先による押点施文	1トレンチIV層出土、胎土に漂石混
7- 1	表墨色一部黃白色、裏 黃白色	良 好	ナデ仕上、大きな押点連続施文	2トレンチV層出土、胎土には混入物少なし
7- 2	棕褐色	良 好	ナデ仕上、口縁部の一部が内側に大きく張り出す・凹線施文	1トレンチIV層出土、胎土に小砂少々混入
7- 3	赤褐色	良 好	ナデ仕上、シャープな横狭凹線施文	1トレンチV層出土、胎土に小砂少々混入
7- 4	表墨黃褐色、一部黒色、 裏赤褐色	良 好	ナデ仕上、施文は横狭凹線・指先による割目	1トレンチV層出土、胎土に算母粉少々混入
7- 5	灰褐色～黑色	良 好	ナデ仕上、指先による割突と幅広でシャープな凹線施文	2トレンチV層出土、胎土に漂石粒多混
7- 6	表赤褐色、裏暗黃褐色 或いは月ぼりか?	良 好	表ナデ・裏剥離によるナデ仕上、輪狭凹線施文	4トレンチ黑色土Ⅷ層出土、胎土に漂石粒多混
7- 7	淡墨褐色	良 好	ナデ仕上らしい、凹線施文	3トレンチV層出土、胎土に砂粒混
7- 8	表淡墨褐色、裏黑色	良 好	ナデ仕上、凹線施文	4トレンチ黑色土Ⅶ層出土、胎土に小砂少々混入
7- 9	表墨褐色、裏淡黑色	良 好	ナデ仕上らしいが器面荒れ仕上、技法不明瞭、凹線施文	2トレンチV層出土、胎土に砂粒混・漂石粒多混
7-10	表西燈褐色、裏黒褐色	良 好	ナデ仕上、凹線施文	3トレンチII層出土、胎土に小砂少々混入
7-11	表暗茶褐色、裏淡黑色 元は良好ら しい	良 好	ナデ仕上らしい、凹線施文	3トレンチIV層(灰)出土、胎土に砂粒混・漂石粒多混
7-12	淡黑色	良 好	ナデ仕上らしい、やや吸抜な凹線施文	3トレンチIV層(灰)出土、胎土に砂粒少々混入
7-13	明黄褐色、表面に塊状 色斑	良 好	ナデ仕上らしい、鋭な横凹線施文	3トレンチII層出土、胎土に小砂少々混入

図番号	器皿の色調	施成	仕上技法・施文の特徴	その他
7-14	表淡褐色、裏淡黒色、凹縁内に赤色跡残る	良 好	器面全体仕上げ技法不明瞭、輪郭の凹線施文	4トレンチⅤ層出土、胎土に滑石粉多混
7-15	表暗褐色、裏黒褐色	良 好	ナデ仕上、やや細い凹線施文	2トレンチⅤ層出土、胎土に滑石粉多混
7-16	淡黒色	良 好	ナデ仕上、器身による凹線施文	2トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
7-17	淡黒褐色	良 好	ナデ仕上、浅い斜凹線施文	1トレンチⅤ層出土、胎土に小砂混
7-18	表淡褐色~暗黃褐色、裏暗黃褐色	良 好	器面丸れ仕上げ技法不明瞭、深さ不均一な凹線施文、破片の上下は開口線らしい	4トレンチⅣ層出土、胎土に滑石粉少々混入
7-19	表暗橙褐色、裏淡黒色	良 好	ナデ仕上らしいが器面丸れ仕上技法不明瞭、輪郭でシャープな凹線施文	2トレンチⅤ層出土、胎土に滑石粉多混
7-20	表暗黃褐色、裏白色(白色付着物)	良 好	白色付着物で仕上げ技法不明瞭、凹線施文	4トレンチⅤ層出土、胎土に白色粉と小砂少々混入
7-21	表淡黒色、裏暗黃褐色	良 好	ナデ仕上、深さ不均一な凹線施文	4トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
7-22	暗黄褐色	良 好	不規~な凹線施文	4トレンチⅤ層出土、胎土に砂粒少々混入
7-23	黃褐色(白色付着物)	良 好	ナデ仕上らしい、底または身の近凹線施文	3トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
7-24	表黃褐色、裏淡白色	元は良好とみられる	器面仕上げ技法不明瞭、浅い凹線施文	3トレンチⅣ層出土、胎土に滑石粉混
7-25	表茶褐色、裏暗黃褐色	良 好	ナデ仕上らしい、縫の構造比摩施文	3トレンチⅤ層出土、胎土に滑石粉混
8-1	淡黒色	良 好	表彫削りの後に一部焼全直~実ナデ仕上半削、口唇部押点施文	1トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
8-2	黒褐色	良 好	表彫削り、裏ナデ仕上半削、口唇部外側押点	1トレンチⅤ層出土、胎土に砂粒混
8-3	黒色(黑色付着物)	良 好	ナデ仕上、口唇部押点は範囲のもので切り目状につく	2トレンチⅤ層出土、胎土に砂粒少々混入
8-4	淡茶褐色	元は良好らしい	ナデ仕上らしい、凹線施文	3トレンチⅣ層出土、胎土に砂粒混、滑石粉も多混
8-5	表暗茶褐色、裏茶褐色	良 好	ナデ仕上、口唇部押点は口唇部側面内より	1トレンチⅤ層出土、胎土には滑石粉なし
8-6	黒色	良 好	ナデ仕上、口唇部押点は器具による	2トレンチⅤ層出土、胎土に砂粒少々混入
8-7	黑褐色	良 好	ナデ仕上、頭部にやや削り跡が残る、凹線施文	1トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
8-8	黃褐色~黃褐色、一部淡茶褐色(白色付着物)	元は良好らしい	ナデ仕上、頭部にやや削り跡が残る、凹線施文	1トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
8-9	黃褐色	良 好	ナデ仕上、口縁に浮点その下に曲線施文	1トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
8-10	表淡茶褐色、裏淡黒色	良 好	ナデ仕上、指先によるとおもわれる凹線施文	3トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
8-11	表黃褐色~黑褐色、裏黃褐色(白色付着物)	良 好	ナデ仕上らしい、施文帯はりつけ、下部に浅い凹線	1トレンチⅤ層出土、胎土に小砂少々混入
8-12	表黃白色、裏茶褐色	元は良好らしい	器面丸れ仕上げ技法不明瞭、口縁と突端に深い平点、把手の部分はやや高くなり深い浮点を施文	4トレンチⅤ層出土、胎土に砂粒混

試験番号	器皿の色調	地成	仕上技法・施文の特徴	その他の
8-13	淡黄褐色、裏淡黃褐色	良 好	ナデ仕上、底に浅い押点・削目 の特徴も浅い施文	4トレンチ黒色土出土、胎土 に小砂少々混入
8-14	淡褐黃褐色	良 好	ナデ仕上、施文と押点は指先に よるらしい	4トレンチ黒色土出土、胎土 に砂粒混入
8-15	暗黄褐色	良 好	ナデ仕上	4トレンチ一括、胎土に小砂 少々混入
8-16	表淡褐色、裏淡褐色	良 好	ナデ仕上、表に縦下彫削り、幅 広四線施文、口縁の上と横に浅 い押点	4トレンチⅧ層出土、胎土に 砂粒点々混入
8-17	表淡黑色～暗黄褐色、 裏黄褐色	良 好	ナデ仕上、やや幅広四線施文	1トレンチⅣ層出土、胎土に 砂粒点々混入
9-1	淡黑色	良 好	ナデ仕上、確な四線施文	4トレンチ一括、胎土に砂粒 混入
9-2	表淡褐色～暗黄褐色、 裏淡黃褐色	良 好	ナデ仕上、削りで三角形に類似 する文様や円文を施文・口縁下 と窓等による押点突起点	4トレンチ黒色土出土、胎土 に砂粒混入
9-3	黒褐色	良 好	文様は面を取ったようになって おり、削りによる施文の一帯か ら	4トレンチ黒色土出土、胎土 に小砂多混入
9-4	黄褐色～淡黑褐色	良 好	ナデ仕上、二角形削りだし文施 文	1トレンチⅣ層出土、胎土に 砂粒混入
9-5	淡黃褐色	良 好	ナデ仕上、指先による押点と四 線施文	1トレンチⅣ層出土、胎土に 滑石粒多混入
9-6	淡黃褐色	良 好	ナデ仕上、幅狭四線施文	1トレンチ一括、胎土には混 入物少なし
9-7	茶褐色～淡黑褐色	良 好	ナデ仕上、幅不統一な四線施文	出土トレンチ不明、胎土に 小砂混入
9-8	表黑色、裏暗黑褐色	良 好	表面荒れ仕上技法不明瞭、口縁 隆起部の剥片・縦狭四線施文	1トレンチⅨ層出土
9-9	淡褐色(白色付着物)	良 好	ナデ仕上、指先による押点施文	1トレンチⅩ層下出土、胎土 に小砂少々混入
9-10	黑色	良 好	ナデ仕上、やや厚厚した口縁に 棱形状になる押点施文、破片左 右は隆起部	1トレンチⅨ層出土、胎土に 小砂極少々混入
9-11	表淡黑褐色、裏黑色	良 好	表面荒れ仕上技法不明瞭、内 面は平滑、削りで浅い四線施文	4トレンチ黒色土出土、胎土 には個人物少なし
9-12	表黑褐色、裏淡茶褐色	良 好	ナデ仕上・口縁下削り	4トレンチ黒色土出土、胎土 に小砂混入
9-13	黑色～黒褐色	良 好	ナデ仕上、浅い四線施文	2トレンチ一括、胎土に小砂 少々混入
9-14	黄褐色	良 好	ナデ仕上、表の口縁下には平滑 な横削り、浅い四線施文	1トレンチⅤ層出土、胎土に 砂粒混入
9-15	淡黑褐色	良 好	表面荒れ仕上技法不明瞭、指先 による施文か	出土トレンチ不明、胎土に は個人物少なし
9-16	表褐色、裏黒褐色	良 好	ナデ仕上、口縁虫食の剥片ら しい・浅い毛氈四線施文・口縁 剥片点に外因影響から	2トレンチⅤ層出土、胎土に 小砂混入
9-17	黒褐色～黑色(白色付 着物)	良 好	ナデ仕上、浅い四線施文・波 浪形四線施文	1トレンチⅨ層出土、胎土に 砂粒少々混入
9-18	表淡黑褐色、裏淡褐色 ～黃褐色	良 好	ナデ仕上、口縁削り以外は平滑、 縦狭四線施文	1トレンチⅤ層出土、胎土に 小砂少々混入
9-19	暗褐色	良 好	ナデ仕上良好、斜の四線施文を シャープに施文	4トレンチ黒色土出土、胎土 に小砂少々混入

区番号	要西の色調	状成	仕上法・施文の特徴	その他の
9-20	暗茶褐色(白色付着物)	元は良好とみられる	表面荒れ仕上技術不明瞭、幅広な削刮跡施文	1トレンチ田畠出土、粘土に小砂少々混入
9-21	暗褐色	良 好	ナデ仕上、突起部には彫削りらしい痕跡あり、凹面施文	4トレンチ墨色土出土、粘土に小砂少々混入
9-22	黄褐色	良 好	ナデ仕上、浅い凹面施文・突起は造り直し	4トレンチ墨色土出土、粘土には無人物少なし
9-23	表暗黄色に黒色斑、裏暗褐色	良 好	ナデ仕上、突起上に小押点・突起部上の施文はシャープ	2トレンチV層出土、粘土に砂粒少々混入
9-24	表暗黄色、裏暗褐色	良 好	ナデ仕上、幅広削刮、その下に模様のものの縁を歩めにして押点施文	4トレンチ墨色土出土、粘土に小砂少々混入
9-25	表茶褐色、裏茶色	良 好	ナデ仕上らしい、底ア隕施文	1トレンチIV層出土、粘土に小砂少々混入
10-1	暗茶褐色(内面に黑色付着物)	良 好	ナデ仕上、浅い凹面施文	4トレンチ墨色土出土、粘土に小砂混入
10-2	表暗茶褐色～淡黒色、裏暗褐色	良 好	ナデ仕上らしいが不明瞭、やや粗朶な沈挫施文	1トレンチ田畠出土、粘土に砂粒少々混入
10-3	表暗茶褐色、裏暗黒褐色	良 好	ナデ仕上、指先による押点施文	4トレンチ一系、粘土に滑石粉少々混入
10-4	表黒褐色、裏黒褐色(白色付着物)	良 好	ナデ仕上、口縁に継長押点施文	1トレンチ一系、粘土に砂粒混入
10-5	表暗茶褐色、裏淡茶褐色	良 好	表面荒れ仕上技術不明瞭、程に浅い凹面施文	4トレンチ墨色土出土、粘土に小砂少々混入
10-6	黄褐色(赤色顔料?)	良 好	ナデ仕上らしい、指先によるとみられる旋回の押点と幅広化線施文	1トレンチ田畠出土、粘土に小砂少々混入
10-7	淡黃褐色	元は良好とみられる	ナデ仕上らしい、度で横に削いたような鋸刃線施文	1トレンチV層出土、粘土に小砂少々混入
10-8	表淡黃褐色・一部黒色斑、裏暗褐色	良 好	表面荒れ仕上技術不明瞭、脇部には彫りらしい、大きな押点施文	4トレンチ暗褐色土、粘土に小砂少々混入
10-10	極褐色	良 好	ナデ仕上、突起上に大きな押点施文	2トレンチ一系、粘土に小砂少々混入
10-11	表褐色、裏黒褐色	良 好	ナデ仕上、突起上にシャープな沈挫施文	2トレンチ一系、粘土に小砂少々混入
10-12	表暗茶褐色(大部分に黒色付着物)、裏暗茶褐色	良 好	突起上に小押点施文	1トレンチ一系、粘土に小砂混入
10-13	表棕褐色、裏茶褐色	良 好	ナデ仕上、口縁部に浅い押点施文	1トレンチV層出土、粘土に小砂少々混入
10-14	茶褐色	良 好	ナデ仕上、押点にちかい縮凹線施文	1トレンチIV層出土、粘土に滑石粉混入
10-15	赤褐色	良 好	ナデ仕上・内側は彫削り状となる。浅い凹面施文	4トレンチ墨色土出土、粘土に滑石粉多量
10-16	表墨褐色、裏棕褐色	良 好	ナデ仕上、波状口縁に彫りたった斜面相をつける。その部分は裏を三角形に浅く削り落める。表口縁下尖端の下には斜面削痕を施文するらしい。	1トレンチIV層出土、粘土に小砂少々混入
10-17	暗褐色	元は良好とみられる	ナデ仕上、底に浅い幅広沈挫施文	1トレンチIV層出土、粘土に砂粒混入

回番号	器 因 の 色 調	焼 成	仕上技法・施文の特徴	そ の 他
10-18	淡黒褐色	良 好	ナデ仕上、底に不規則な凹部施文・破片左上部は突起部落	4トレンチⅧ層出土、胎土に白化粧(貝殻か)少々混入
10-19	表黒褐色～黒色、裏面 茶褐色	良 好	ナデ仕上、軸上部に突起部を作り、隠んだ部分は削り落す 表えていろいろしい・大きな波状口縁の一節	4トレンチⅧ層出土、胎土に小砂混入
10-20	黄褐色一部淡黑色斑	良 好	ナデ仕上、凹部施文	1トレンチⅣ層出土、胎土に砂粒少々混入
10-21	表黒褐色、裏淡黒褐色	良 好	ナデ仕上、四角や三角の削り出し文施文・突起は大きくなれる	1トレンチⅨ層出土、胎土には混入物少なし
10-22	青褐色	良 好	ナデ仕上らしい・削り落して凹部施文	1トレンチⅣ層出土、胎土には混入物少なし
10-23	明黄褐色	良 好	ナデ仕上、指先による押点施文・凹部施文の中に1本の筋あり指先による施文か	1トレンチⅧ層出土、胎土には混入物少なし
11-1	暗棕褐色	良 好	ナデ仕上、凹部施文、破片左端や後起し溝書き文施文	4トレンチ黒色土出土、胎土に小砂少々混入
11-2	黄褐色	良 好	ナデ仕上、凹部施文	1トレンチⅨ層出土、胎土に小砂少々混入
11-3	黃褐色	良 好	ナデ仕上	1トレンチ黄褐色土出土、胎土に砂粒少々混入
11-4	表淡黒色、裏明黄褐色	良 好	ナデ仕上、シャープな幅広沈痕を確実に施文	2トレンチⅤ層出土
11-5	表黒褐色、裏黄褐色	良 好	ナデ仕上、浅い彫痕凹線施文・突起部の破片	1トレンチ一括、胎土に小砂少々混入
11-6	表黒褐色、裏米褐色	良 好	ナデ仕上、深い沈線で輪廊に沿り・脚部には細かい沈線施文	1トレンチⅣ層出土、胎土には混入物少なし
11-7	橙褐色～淡黄褐色	良 好	窑窓荒れた上枝法不明瞭、深い沈線施文・突起部の破片	4トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
11-8	濃茶褐色	良 好	ナデ仕上、シャープな沈痕施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
11-9	黄褐色	良 好	ナデ仕上、先端がしかくな施文具で深い沈線施文・断面は凹状になる	4トレンチ黒色土出土、胎土に三色砂粒混入
11-10	黒色～墨褐色	良 好	ナデ仕上、シャープで深い沈線施文・施文具は先端に凹凸のあるもの	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂少々混入
11-11	暗茶褐色	良 好	ナデ仕上、難に幅狭凹線施文、破片左上は突起部の裏部	4トレンチ出土、胎土に小砂少々混入
11-12	暗黄褐色、表面の一部 に淡黒色斑	良 好	ナデ仕上、シャープナデ仕上、凹線施文	4トレンチ黒色土出土、胎土に砂粒混入
11-13	表黒褐色、裏暗青褐色	良 好	ナデ仕上、口唇部肥厚・斜切直線施文・施文具は半截竹管状で先端が2叉	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
11-14	表黒褐色、裏茶褐色	良 好	ナデ仕上、やや幅広斜沈線施文	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂少々混入
11-15	茶褐色	良 好	表器面荒れ仕上技法不明瞭・裏には器耳による擦ナゲがあり、粘土細粒付文の上に軽縦施文	4トレンチ黒色土出土、胎土に滑石と砂粒混入
11-16	表深茶褐色、裏黄褐色 ～墨色	元は良好と みられる	ナデ仕上、輪郭の斜凹線施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
11-17	黒褐色	良 好	ナデ仕上らしい・粗い波状沈痕施文・口縁欠損を含む破片	4トレンチⅦ層出土、胎土に柔らかそうな砂粒少々混入

区番号	器の色調	焼成	生上技法・施文の特徴	その他の
11-18	明黄褐色	良 好	ナデ仕上、形態施文と押点施文	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
11-19	表黒褐色、裏淡黒褐色	元は良好とみられる	ナデ仕上らしい、四線施文・破片は1号の隆起部で割目を見る	3トレンチⅡ層出土、胎土に小砂少々混入
11-20	表黄褐色～淡黒褐色、裏淡黒褐色(白色付着物)	良 好	器面荒れ仕上技法不明瞭、突唇に小さな刻印施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
11-21	表橙褐色～明黄褐色、裏性褐色～淡黑色	やや脱い	器面荒れ仕上技法不明瞭(ナデ仕上らしい)、突唇に細則目施文	4トレンチ黑色土出土、胎土に小砂少々混入
11-22	表橙褐色、裏明黄褐色	良 好	ナデ仕上、頸部の突唇に割目施文	1トレンチ出土、胎土には混入物少なし
11-23	明黄褐色～淡橙褐色	元は良好らしい	器面荒れ仕上技法不明瞭、幅広斜沈縦施文・突唇に小刻目	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
11-24	橙褐色	良 好	ナデ仕上良好、光澤のない施文具で複数施文、口縁は小さな突起状となりその波頂部に跡巻きのように粘土粒を書き肥厚させる	4トレンチ黑色土出土、胎土に砂粒多混
12-1	黒色	良 好	ナデ仕上、曲塊かとみられる円錐施文らしい、口唇部に増長押立	1トレンチ出土、胎土に小砂少々混入、阿高式土器の小型三脚
12-2	表黄褐色～黒褐色(黑色付着物)、裏淡褐色～黄褐色(白色付着物)	良 好	ナデ仕上、口唇部押立施文	1トレンチ出土、胎土には混入物少なし
12-3	淡黒褐色(表裏ともに白色付着物)	良 好	白色付着物のため器面変形不明瞭、押点施文	1トレンチⅢ層出土胎土に小砂少々混入
12-4	橙褐色	良 好	ナデ仕上、浅い沈縦施文	1トレンチ出土、胎土に砂粒少々混入
12-5	表明黄褐色、裏淡黒色	良 好	ナデ仕上、両袖式らしい把手の痕跡	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
12-6	淡黄褐色	良 好	ナデ仕上、突起部の破片、四線施文内凹痕	4トレンチ黑色土Ⅶ層出土、胎土に小砂少々混入
12-7	表黒褐色、裏黒褐色	良 好	ナデ仕上、浅い底広斜沈縦施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
12-8	表橙褐色、裏黄白色～淡黒色	元は良好らしい	器面荒れ仕上技法不明瞭、斜沈縦施文	1トレンチⅢ層出土
12-9	表橙褐色～黒褐色、裏橙褐色(表裏とも白色付着物)	良 好	ナデ仕上、極狭底端と割目施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
12-10	橙褐色(表裏ともに白色付着物)	良 好	ナデ仕上らしい、網状凹縫と絞長刻目施文、頸部のしまった壺形土器になるらしい	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
12-11	表黒褐色、裏茶褐色	良 好	ナデ仕上、施文具は先端が鋭いものを使用、底際に繊維の束あり	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
12-12	茶褐色(表に白色付着物)	元は良好とみられる	ナデ仕上、若干陥入した施文強調部に小さな刻目を見るのみ	4トレンチ黑色土出土、胎土に小砂多混
12-13	表淡黒色～淡茶褐色、裏米褐色(表裏ともに白色付着物)	良 好	ナデ仕上らしい、表面に軽い斜沈縫で格子目の文様構成	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂混
12-14	表淡黒色、裏黄白色	良 好	ナデ仕上、口縁下縫に浅い押点施文	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし

団番号	器 面 の 付 製	燒 成	仕上技術・施文の特徴	そ の 他
12-15	表赤褐色～黒褐色(黑色付着物)、裏橙褐色～黄褐色(白色付着物)	良 好	ナゲ仕上	1トレンチⅢ層(下)出土、胎土に小砂少々混入
12-16	表黒褐色、裏淡黒色	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、細かい沈縫で斜線文施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
12-17	黒褐色～茶色	良 好	ナゲ仕上、深い斜沈縫と深い押点列直縫文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
12-18	黒褐色～淡棕褐色	良 好	ナゲ仕上うらしい、幅広沈縫文	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
12-19	暗褐色	良 好	ナゲ仕上うらしい、表裏り状沈縫・裏に深い沈縫・口縁内側に突起あり	4トレンチ黑色土出上、胎土に極小砂少々混入
12-20	黄白色～暗淡黒色道 先は良好と みられる	良 好	ナゲ仕上うらしい、焼成なし、口縁に注ぎうららしい袋り出しがあるが左右対称の難形ではなく、異形の土器らしい	3トレンチ一括、胎土には混入物少なし
12-21	淡茶褐色	良 好	ナゲ仕上、押点直縫文	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
12-22	黒褐色	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、施文なし	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
12-23	表淡黒褐色、裏黄灰色	良 好	ナゲ仕上うらしい、細広直縫施文・斜縫の施文具は先端2又のもの	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
13-1	橙褐色～黒褐色(白色付着物)	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、幅広沈縫施文・施文に細文刻文	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
13-2	暗青白色	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、やや幅広でシャープな沈縫施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
13-3	表黒色、裏暗黃褐色	やや悪い	ナゲ仕上、幅広沈縫の内側は直立・先端の平らな施文具による焼成・突起部上に細刻目	4トレンチ黒色土出土、胎土に小砂混
13-4	表青苔褐色、裏暗黄褐色(黑色付着物)	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、幅広沈縫施文	1トレンチⅢ層(下)出土、胎土に小砂少々混入
13-5	黒色～淡茶色	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、把手付け根の上の瘤にS字状施文・地文縫文	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒混
13-6	黒色	良 好	研磨仕上うらしい、破片左端が施文集約部・調査状の施文あり	1トレンチ黒褐色土壤出土、胎土に小砂混
13-7	暗青褐色	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、深くしてシャープな沈縫を複数施文	1トレンチⅢ層(下)出土、胎土に小砂多混
13-8	淡棕褐色、裏淡黒褐色	元は良好と みられる	器面荒れ仕上技術不明瞭、シャープな沈縫施文	1トレンチ黒褐色土出上、胎土に小砂少々混入
13-9	表半褐色、裏暗青色(白色付着物)	良 好	器面荒れ仕上技術不明瞭、幅広凹縫施文・口縁内側浅く窪む	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
13-10	淡玉褐色(表裏に六色付着物)	良 好	白色付着物で仕上技術不明瞭、幅広沈縫施文	1トレンチⅢ層(下)出土、胎土に砂粒少々混入
13-11	下地は暗青褐色で赤色 斜糸織布	良 好	仕上不明瞭、短縫沈縫施文・高糸織の折部破片	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
13-12	表淡黒色、裏青白色(白色付着物)	良 好	仕上不明瞭、短縫沈縫施文・施文は表に割裂点2列・裏に1列	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒混
13-13	表赤みがかった茶褐色、裏黑褐色	良 好	ナゲ仕上	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
13-14	暗青褐色	良 好	ナゲ仕上、口縁を前面三角形に凹厚させ直縫の斜縫文施文	1トレンチ一括、胎土に小砂少々混入

同番号	器の色調	構成	生上法・施文の特徴	その他の
13-15	黒褐色～黒色	良好	ナメ仕上	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
13-16	表黒褐色、裏茶褐色～黒褐色	良好	ナメ仕上	1トレンチⅣ層出土、胎土に砂粒少々混入
13-17	黒褐色	良好	表面荒れ仕上法不明瞭、法状をなす口縁でやや肥厚する	3トレンチⅡ層出土、胎土には混入物少なし
13-18	淡褐色(背面に白色付着物)	良好	仕上法不明瞭、口縁は断面三角形に削厚させ法状となるものの頂部かくの破片、胎部上面に其形状による軋突刃点あり	1トレンチⅡ層出土、胎土には混入物少なし
13-19	暗褐色・一部淡黑色	良好	表柔軟・裏ナメ仕上、肥厚した口縁に短斜沈線施文	1トレンチⅡ層出土、胎土に砂粒少々混入
13-20	淡褐色	良好	表面荒れ仕上法不明瞭・裏研磨仕上、地文に鵝文、やや粗な沈線施文、対向弧文に上の沈線と重なり馬蹄形に見える	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
14-1	黄褐色	良好	表面荒れ仕上法不明瞭、口縁部に貝殻口唇で削突かとみられるが不明瞭	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
14-2	暗黃褐色～淡黑色	良好	表面荒れ仕上法不明瞭、やや粗な沈線施文	4トレンチ黒色土出土、胎土に砂粒混
14-3	黄褐色(赤色顔料塗布)	良好	ナメ仕上、深い沈線施文、沈線の端は削突で止めている	4トレンチ黒色土出土、胎土には混入物少なし
14-4	表茶褐色、裏淡黑色	良好	ナメ仕上	1トレンチⅢ層(下)出土、胎土には混入物少なし
14-5	黑色、一部暗黒褐色	元は良好らしい	表面荒れ仕上法不明瞭、規則的な沈線施文、左の破片は同一側体だが接合できない	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂少々混入
14-6	黒褐色	良好	表面研磨仕上か、裏ナメ仕上、無文	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
14-7	淡黄褐色	良好	表面荒れ仕上法不明瞭、難な削化線施文	1トレンチⅢ層出土、胎土には混入物少なし
14-8	淡黑色	良好	表面仕上か、裏研磨仕上か、複沈線施文	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂少々混入
14-9	明黄褐色～暗黄褐色	良好	表面荒れ仕上法不明瞭、沈線は薄だがシャープ、地文に貝殻質似鵝文、表面下端に明顯な擬口縁あり	2トレンチⅢ層出土
14-10	黄褐色	元は良好らしい	短斜線と曲線文施文、地文に鵝文らしいが不明瞭	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
14-11	明黄色	良好	ナメ仕上らしい、斜沈線施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒混
14-12	淡黄褐色、表の一部淡黑色	良好	表面荒れ仕上法不明瞭、内面に耳次の貼付文あり	1トレンチⅢ層出土、胎土に砂粒少々混入
14-13	表黄褐色、裏黒褐色～黄褐色	良好	深い研磨仕上、内面に耳状貼付文とその下に1沈線施文、内凹部分に鵝文施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
14-14	黄褐色～暗黑色味	良好	表面荒れ仕上法不明瞭、口縁は複数で2沈線、底面部に擬口縫文施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
14-15	表褐色、裏淡黑色	良好	研磨仕上、沈線施文、地文には鵝文なし	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂少々混入

図番号	器皿の色調	焼成	仕上技法・縁文の特徴	その他の
14-16	淡黄褐色～淡黒褐色	良 好	研磨仕上か、深い沈線縁文・縁文葉均部にS字状文様	1トレンチ田畠出土、胎土に小砂少々混入
14-17	表淡黒色～暗黃白色、裏淡黒色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、深くて軽い沈線縁文	1トレンチ田畠出土、胎土に砂粒混入
14-18	淡黒色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、シャープな沈線縁文	4トレンチⅠ層出土、胎土に微粒混入
14-19	白色～淡黒色	良 好	研磨仕上らしい、浅い沈線縁文・地文に縁文なし	1トレンチ田畠出土、胎土に砂粒混入
14-20	表暗黄褐色、裏黒褐色	良 好	仕上不明瞭、シャープな沈線縁文・2本の沈線施文が波浪で3点になる・地文に縁文	胎土不明、胎土に小砂少々混入
14-21	淡黒色	良 好	研磨仕上らしい、深い沈線縁文・地文に縁文	1トレンチ田畠出土、胎土に小砂少々混入
14-22	表暗黄褐色、裏淡黒色	良 好	表器皿底流れ仕上技法不明瞭・裏研磨仕上、施文は磨耗して不明瞭、波浪に縁文手があり元は沈線施文とみられる	1トレンチⅡ層出土、胎土に小砂少々混入
14-23	黄褐色～黒褐色	良 好	ナデ仕上、平行弦状間に削開状に加熱焼施文	1トレンチ黒褐色土出中、胎土には混入物少なし
14-24	淡黒色	良 好	研磨仕上、沈線縁文・腹部剥突は施文後にナデしていく一部つぶれる・地文にやや粗い縁文	砂粒少々混入
14-25	表淡黒色、裏黄褐色～黒褐色	良 好	研磨仕上らしい、シャープな沈線縁文・地文に縁文	1トレンチ出土、胎土には混入物少なし
15-1	黄褐色～淡黒色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、浅い沈線縁文・地文に縁文	1トレンチ田畠出土、胎土には混入物少なし
15-2	淡黒色	元は良好とみられる	胎土上不取締、裏面に研磨仕上らしい、施部の墨折は既状にならぬ・地文に縁文	1トレンチ田畠出土、胎土に小砂少々混入
15-3	表淡黒色、裏暗黄白色	良 好	仕上技法不明瞭、腹部削開部点は浅い、地文に縁文	1トレンチⅡ層出土、胎土には混入物少なし
15-4	淡黒色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、腹部剥突部点は浅い・地文に縁文	1トレンチⅡ層出土、胎土には混入物少なし
15-5	表黒色(黒色付着物)、裏暗黄白色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、施文は丁寧に縁文・地文に縁文	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂少々混入
15-6	表淡黒色～暗黄褐色、裏淡黒色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、丁寧な沈線縁文・地文に小程の縁文	1トレンチ出土、胎土に砂粒少々混入
15-7	黒色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、深く大きい沈線縁文	1トレンチ田畠下(下)出土
15-8	黒色～淡黒色(一部赤褐色)	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭・裏研磨仕上、沈線は輪の状折はあるが良好、破れ右端は縁子文になるらしい	1トレンチ田畠出土
15-9	黒色～黒褐色	良 好	表器皿底流れ仕上・裏器皿底流れ仕上技法不明瞭、施文された縁文は小程	1トレンチ田畠出土、胎土に小砂少々混入
15-10	表淡黒色～暗黄褐色、裏暗黄色	良 好	器皿底流れ仕上技法不明瞭、地文に縁文、押点はハイガイの跡痕の跡跡による	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入
15-11	表黒褐色～暗褐色、裏暗黄白色	良 好	表研磨仕上・裏ナデ仕上、やや不統一な沈線縁文・地文に縁文縁文は不明瞭	1トレンチⅢ層出土、胎土に小砂少々混入

器番号	器面の色調	焼成	仕上技法・施文の特徴	その他の
15-12	橙褐色	良 好	赤面施れ仕上技法不明瞭、シャープな沈線施文、地文に施文	1トレンチ出土、胎土に砂粒多混
15-13	淡黒褐色～黄褐色	良 好	研磨仕上らしい、施文は頭領部炎のみ	1トレンチ出土、胎土に小砂少々混入
16- 1	青白色～黃褐色	良 好	研磨仕上、横沈線と楚手文施文、地文に施文、波頂には先端の2尖の刺突あり	1トレンチ目層出土、胎土には混人物少なし
16- 2	黑色～黒褐色	良 好	研磨仕上、3本の沈線を丁寧に施文、地文に施文	胎土区別明、胎土に小砂少々混入
16- 3	表黄褐色～淡黑色、裏淡黑色(黒色付骨物)	良 好	研磨仕上シャープな沈線施文	2トレンチIV層出土、胎土に小砂ごく少々混入
16- 4	暗黄褐色	良 好	研磨仕上らしい、均整のとれた沈線施文、沈線間に刺突、地文に施文	1トレンチII層出土、胎土には混人物少なし
16- 5	黑色	良 好	研磨仕上、シャープな沈線施文、地文の施文不明瞭	2トレンチIV層出土、胎土に砂粒少々混入
16- 6	淡出色	良 好	表端面施れ仕上技法不明瞭、裏研磨仕上、やや複雑な沈線施文、地文に施文	1トレンチIII層出土、胎土に小砂少々混入
16- 7	表淡黑色、裏明黄褐色～淡黑色	元は良好とみられる	裏面丸れ仕上技法不明瞭、頭部刺突は深くて小さい、地文に施文	1トレンチ黑色土出下、胎土に砂粒混
16- 8	黄褐色	元は良好とみられる	元々無文らしい、裏が頭内面に凹線状の窪み	1トレンチIV層出土、胎土に小砂少々混入
16- 9	青白色、淡黑色底	良 好	翠面丸れ仕上技法不明瞭、無施文、口縁内面やや窪む	4トレンチIII層出土、胎土に小砂混
16-10	暗黄褐色	良 好	研磨仕上らしい、口縁部折部内面に凹線状の窪み	1トレンチ黑色土出下、胎土には混人物少なし
16-11	青白色	良 好	翠面丸れ仕上技法不明瞭、口縁2沈線施文、波頂には押めた上に2打点	2トレンチI層出土、胎土には混人物少なし
16-12	表淡黑色、裏淡黑色～暗黄褐色	良 好	研磨仕上、やや複雑な深い沈線施文、地文に施文	1トレンチII層出土、胎土に砂粒少々混入
16-13	表暗黃褐色、裏黒褐色	良 好	研磨仕上らしい、2本の沈線施文、地文は施文なし	1トレンチII層出土、胎土に小砂少々混入
16-14	暗黄褐色～淡黒褐色	良 好	研磨仕上、沈線施文、波頂に小押点、地文に施文なし	1トレンチII層出土、胎土に小砂少々混入
16-15	表黑色、裏暗茶褐色、裏黑色	良 好	研磨仕上らしいが不明瞭、不統一な2沈線施文	1トレンチII層出土、胎土に砂粒少々混入
16-16	黑褐色	良 好	研磨仕上らしい、シャープな沈線施文、地文に施文なし	1トレンチII層出土、胎土に小砂少々混入
16-17	黑褐色～暗褐橙褐色	良 好	研磨仕上らしいが不明瞭、沈線施文、地文に施文、波頂にちかい部分の破片	1トレンチII層出土、胎土には混人物少なし
16-18	黑褐色～黑色	良 好	研磨仕上らしい、均整のとれた沈線施文、地文に施文	1トレンチII層出土、胎土には混人物少なし
16-19	黑褐色～黑色	良 好	研磨仕上、均整のとれた沈線施文、地文に施文	1トレンチV層出土、胎土に小砂少々混入
16-20	表淡黑色、裏淡黑色～暗黒褐色	良 好	研磨仕上、浅い沈線施文、地文には施文なし	1トレンチII層出土、胎土に微粒混のみ
16-21	青白色	良 好	翠面丸れ仕上技法不明瞭、浅い沈線施文	4トレンチ黑色土出下、胎土に小砂少々混入

図番号	器 面 の 色 調	度 成	仕上技法・縫文の特徴	そ の 他
16-22	暗青褐色～淡黒褐色	良 好	研磨仕上らしいが不明瞭、細い 沈縫施文	1トレンチⅡ層出土、胎土に 小砂少々混入
16-23	表淡黒色、裏暗黃褐色	良 好	表面荒れ仕上技法不明瞭、口縁 内面に沈縫施文	1トレンチⅡ層出土、胎土に 大小砂粒混入
16-24	暗黄褐色	良 好	ナデ仕上らしい、無文	1トレンチⅡ層出土、胎土に 砂粒少々混入
16-25	表深褐色、裏赤褐色	良 好	ナデ仕上らしい	1トレンチⅡ層出土、胎土に 砂粒少々混入
16-26	黒褐色～黑色	良 好	ナデ仕上	1トレンチⅡ層出土、胎土に 小砂少々混入
16-27	淡黒褐色	良 好	ナデ仕上	1トレンチⅢ層出土、胎土に 砂粒少々混入
17-1	暗黄褐色	良 好	研磨仕上、沈縫施文	1トレンチⅡ層(下)出土、胎 土に小砂少々混入
17-2	表黃白色～淡黑色、裏 淡黑色	元は良好と みられる	器西刃部仕上技法不明瞭、沈縫 施文	胎土に小砂混入
17-3	淡黑色	良 好	研磨仕上良好、丁寧な沈縫施文	1トレンチⅣ層出土、胎土に小砂 少々混入
17-4	黒褐色～赤褐色	良 好	研磨仕上良好、幅広のシャープ 沈縫施文	2トレンチⅣ層出土、胎土に 小砂少々混入
17-5	湖白色	良 好	研磨仕上げらしいが器面荒れ仕 上技法不明瞭、沈縫施文	4トレンチⅠ層出土、胎土に 小砂少々混入
17-6	橙褐色～明黄褐色	良 好	表面はあてているが研磨仕上ら しい、尋常としない沈縫施文	4トレンチ出土、胎土に小砂 少々混入
17-7	表淡黒色、裏黒色	良 好	研磨仕上良好、沈縫施文	4トレンチⅡ層出土、胎土に 小砂少々混入
17-8	淡黑色	良 好	器面荒れ仕上技法不明瞭、無文	3トレンチⅢ層出土、胎土に 小砂ごく少々混入
17-9	黑色	良 好	研磨仕上らしいが器面荒れ仕上 技法不明瞭、難部に粗糸な沈縫 施文	4トレンチⅠ層出土、胎土に 小砂少々混入
17-10	黃褐色	元は良好と みられる	器西刃部仕上技法不明瞭、細い 沈縫施文	1トレンチ黒褐色出土、胎 土には混入物少なし
17-11	表黒褐色、裏暗黃褐色	良 好	器面荒れ仕上技法不明瞭、沈縫 施文	1トレンチⅡ層出土、胎土に 小砂少々混入
17-12	表黒色、裏暗黃褐色	良 好	器面荒れ仕上技法不明瞭、凹縫 施文、底盤里式的な文様構成か ら	1トレンチⅢ層出土、胎土に 小砂混入・大粒の砂も点々あり
17-13	暗黃白色	元は良好と みられる	器面荒れ仕上技法不明瞭、難な 沈縫施文	1トレンチ表Ⅳ層出土、胎土に 小砂少々混入
17-15	表黒色・檻褐色、裏黃 褐色～暗褐色	元は良好と みられる	器面荒れ仕上技法不明瞭、幅広 い沈縫施文	4トレンチ黒褐色出土、胎土 に砂粒少々混入
17-16	淡褐色	良 好	研磨仕上らしいが不明瞭、沈縫 施文	1トレンチ表Ⅳ層出土、胎土に は混入物少なし
17-17 21	黒褐色	良 好	研磨仕上らしいが不明瞭、無文 21は17の右に接合	1トレンチ黒褐色出土、胎 土に小砂少々混入
17-18	淡黑色	良 好	ナデ仕上、シャープな沈縫施文	1トレンチⅢ層出土、胎土に は混入物少なし
17-19	表暗黃褐色、裏淡茶褐 色	良 好	研磨仕上、幅に広狭ある沈縫施 文	1トレンチ表Ⅳ層出土、胎土に 小砂ごく少々混入
17-20	黄褐色～黒褐色	良 好	ナデ仕上か研磨仕上か不明瞭、 シャープな沈縫施文	1トレンチⅡ層出土、胎土に は混入物少なし

回番号	器皿の色調	焼成	仕上技法・施文の特徴	その他
17-22	表暗黄褐色、裏黒褐色 (黑色付着物)	良好	条痕仕上	1トレンチ黒色土山上、胎土に砂粒混入
17-23	黄褐色	良好	研磨仕上	1トレンチ田辺出土、胎土には混入物少なし
17-24	暗黄褐色	元は良好とみられる	器面丸れ仕上技法不明瞭、黒色磨研を観	1トレンチ表土山上、胎土に小砂少々混入
17-25	黒褐色	良好	研磨仕上や不明瞭	5トレンチ土塙出土、胎土に小砂少々混入
17-26	淡黄褐色	良好	元は平滑仕上らしいが器蓋荒れ仕上技法不明瞭、無文	1トレンチ田辺出土、胎土には混入物少なし
17-27	黒褐色	良好	ナゲ仕上らしい、浅い沈線施文、沈線施文後にナゲており縦がつぶれる	1トレンチ日廣出土、胎土には混入物少なし
17-28	淡黄褐色～淡黒色	良好	器面荒れ仕上技法不明瞭、沈線施文	2トレンチ日廣出土、胎土に小砂少々混入
17-29	表黄白色、裏淡黒色	良好	研磨仕上らしいが不明瞭、口縁に沈線施文するが器蓋荒れのため不明瞭	2トレンチ出土、胎土には微粒混のみ
17-30	淡黄白色	ややもろい	研磨仕上らしいが不明瞭、口縁に浅い沈線施文、内側は段になる	4トレンチ日廣出土
17-31	暗黄褐色、淡黒色蓋	良好	研磨仕上、浅い斜沈線施文	4トレンチ田廣出土、胎土に小砂少々混入
17-32	黒褐色、表裏ともに黑色付着物	良好	研磨仕上らしい	1トレンチ日廣出土、胎土に小砂少々混入
17-33	黒褐色	良好	ナゲ仕上、斜の傾くて細い沈線施文	4トレンチ田廣出土、胎土に小砂少々混入
17-34	表邊黄褐色、裏黒色	良好	器面丸れ仕上技法不明瞭、不統一な沈線施文、注口土器とみられる	1トレンチ日廣出土、胎土には微粒混のみ
17-35	暗黄褐色、表に黒色付着物	元は良好とみられる	表柔直仕上、裏研磨仕上か不明瞭	2トレンチⅠ層出土、胎土には混入物なし
18-1	表・底部黒褐色・胴上部黒褐色～黒色・胴下部灰白色、裏・口縁部淡黒色・胴部淡黄褐色・底部米褐色	良好	ナゲ仕上、明瞭な研磨仕上はないが、頭部内面のみ横方向の深い研磨仕上らしい痕跡がみられる	2トレンチⅣ層出土埋甕、胎土には混入物少なし
18-2	赤褐色(表裏ともに一部黑色付着物)	やや悪い	器面丸れ仕上技法不明瞭	4トレンチ田廣出土、胎土砂粒混入
18-3	青白色(表底部に淡黒色斑)	良好	ナゲ仕上、内面はもとは研磨仕上かとも思われる	2トレンチⅣ層出土、胎土に混入物少なし

2. 石 器

遺跡から数多くの石器類が採集されている。これらはいずれも、本渡市の黒木雄二氏と、牛深市の牛深郷上歴史研究会（岡部親司会長）会員によって採集されていたもので、今回の確認調査のきっかけをつくった石器と言う事ができる。

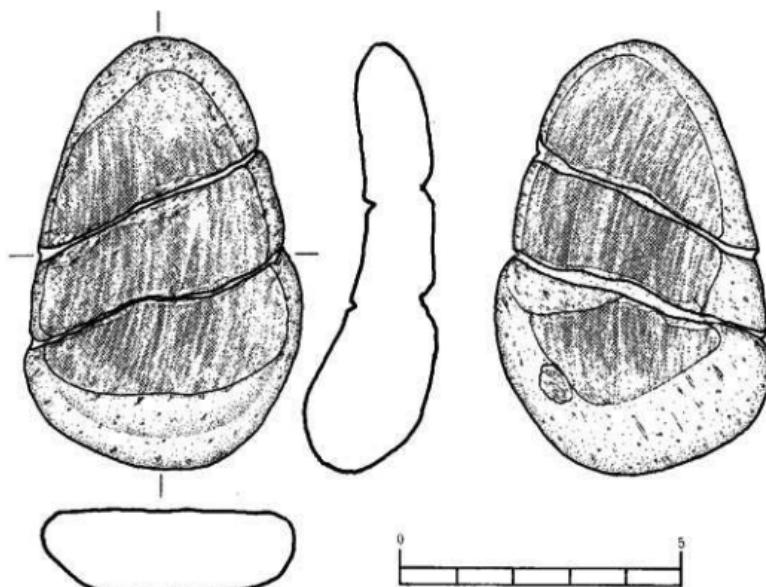
採集された遺物は、蜜柑畑と田地との界に石積みされている巾からのものであり、これら遺物を黒木氏・牛深郷上歴史研究会の了解の許に、調査による出土品と共に報告書に記載させて頂いた。

尚石器の数の多さから、今回の報告書には、石器として完成されたものを主として記載した。

1. 器面調整具

軽石製で熊本県では初出と思われ、軽石製品の多く出土している鹿児島県の文化課の新東晃一氏に教授頂き、軽石製の土器面調整具とした。

第2トレンチVII層（泥炭層）出土で最長7.7センチ・最長幅4.8センチ・最大厚み2.0センチ・重さ17.19グラムを計測する。

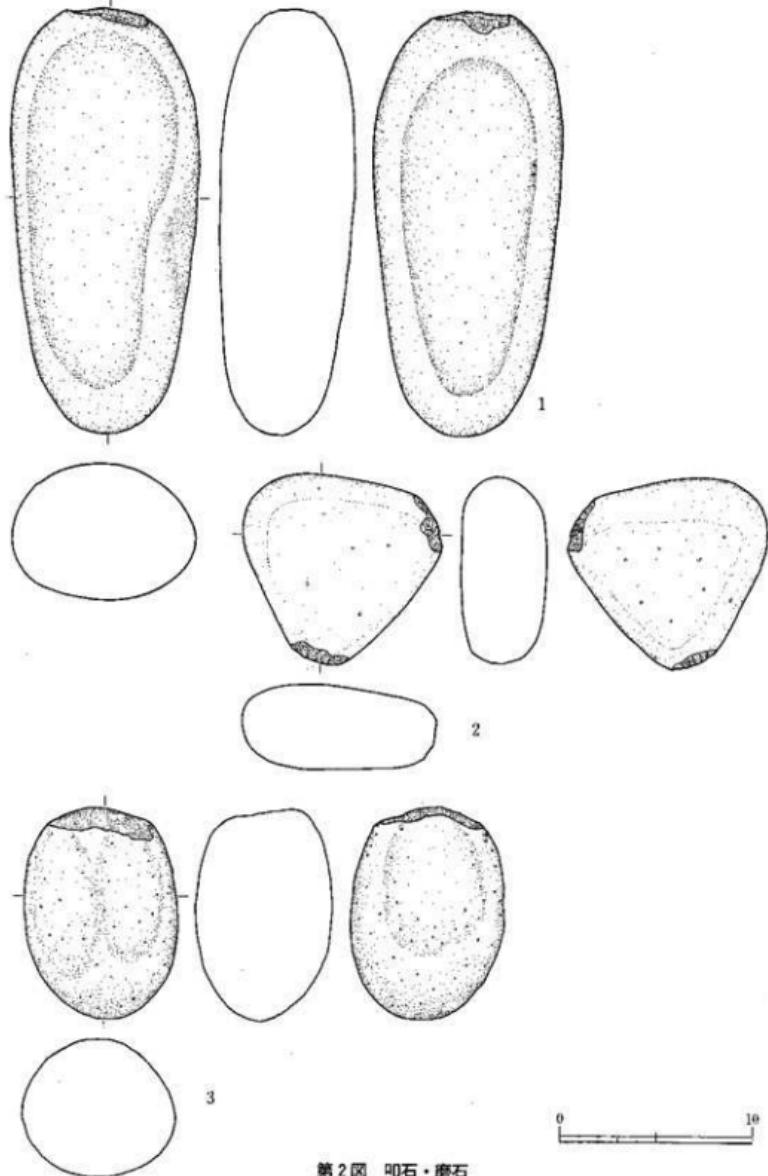


第1図 器面調整具

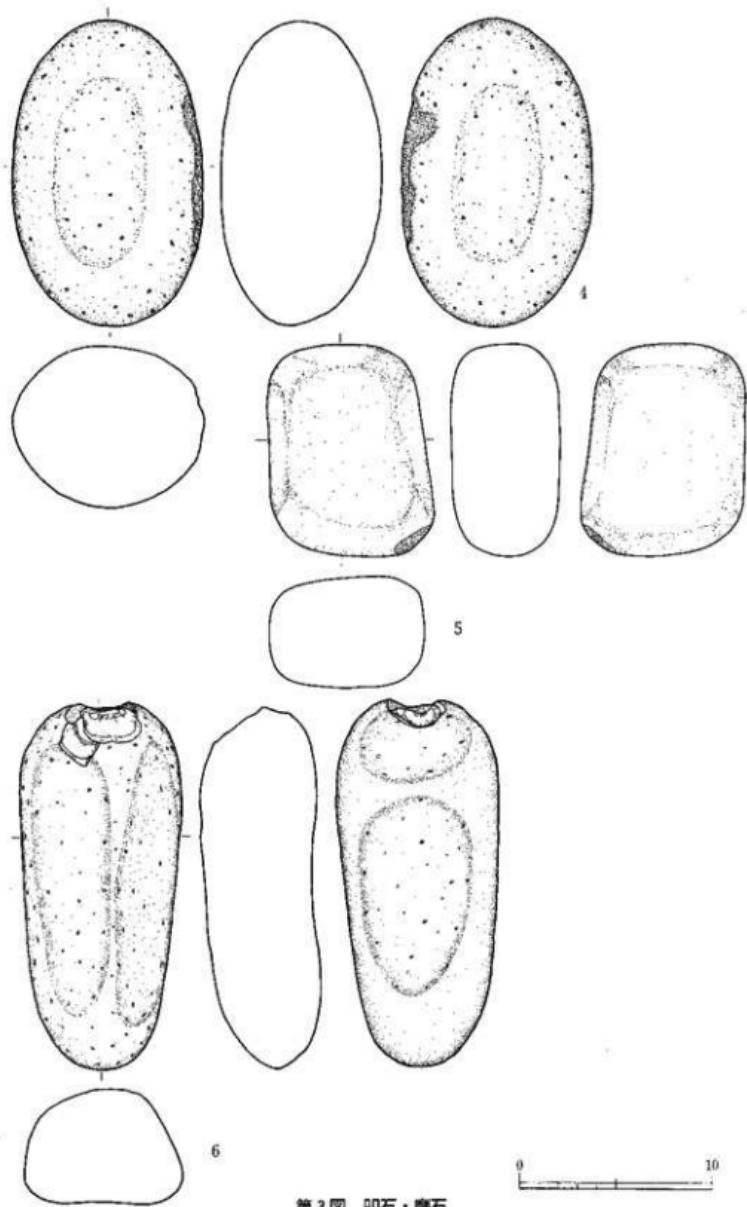
2. 叩石・磨石

遺跡から、採集品14点・出土品35点を含む、49点の叩石・磨石を確認した。これらの石器は大きく分けて、叩石のみに使用されたものをI類とし、叩石と磨石が併用されたものをII類として、さらに細分を試みた。

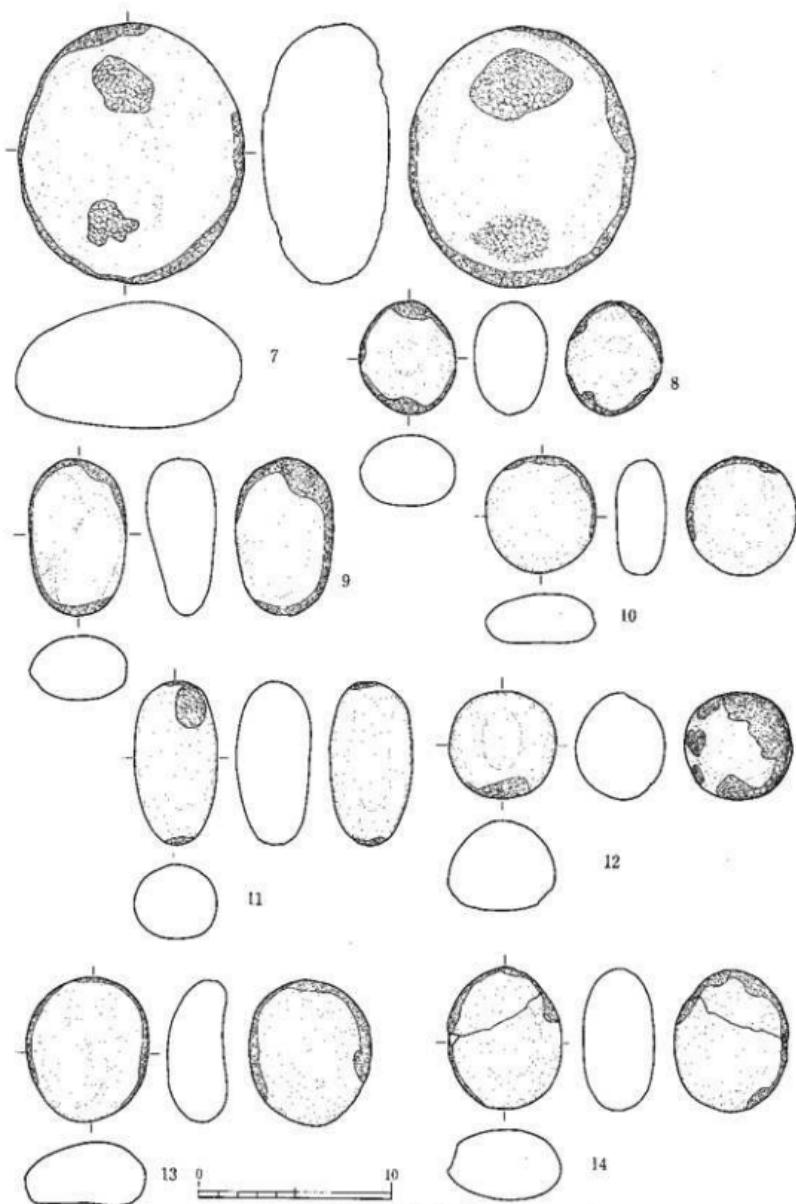
叩 石	I a	長軸・多角面の自然縁を利用し、先端部で敲打をおこなったもの。1, 2, 3, 4, 5, 6, 11
	I b	ほぼ丸みを持ったやや扁平な自然縁を利用し、側辺部に部分的な敲打をおこなったもの。8, 9, 10, 12, 13, 14
	I c	丸みを持ったやや扁平な自然縁を利用し、側辺部に敲打をおこない、更に平坦面にも敲打をおこなったもの。7, 17, 19
	I d	長軸でやや扁平な自然縁を利用し、全側辺部に敲打をおこなったもの。15, 16, 18, 22
	I e	丸みを持ったやや扁平な自然縁を利用し、全側辺部に敲打をおこなったもの。19, 20, 21
	I f	ほぼ球をなすように全面に敲打がおこなわれているもの。26には研磨面もみられる。26, 27
	I g	その他、石材の違いから、23, 24, 25、を別にあつかう。23は石英の長軸で断面が角ばった自然縁を利用し、両先端部と中央部二カ所で敲打をおこなっている。24は蛇紋岩で磨製石斧欠損の再利用と思われ研磨面がみられ両先端部と片側辺部に強い敲打をおこなっている。25はチャートの自然縁を利用し、側辺部に部分的な敲打をおこなっている。
	II a	側辺部すべてに敲打がみられ、全面に凸レンズ状の研磨がなされているもの。28, 29, 30, 31, 32, 33, 3, 35, 36, 37, 38, 39
	II b	自然縁の片面中央部に弱い研磨面がみられ側面は自然面が残り、両先端部に敲打がみられるもの。43 側辺部すべてに敲打がみられるもの。41 側辺部に部分的な敲打がみられるもの。40, 42
	II c	自然縁の片面中央部に弱い研磨面がみられ側面は自然面が残り、側辺部すべてに敲打がみられるもの。44
	II d	側辺部すべてに敲打がみられ、両面とも一度凸レンズ状の研磨がなされた後に平面的な研磨がみられるもの。45, 46
	II e	側辺部すべてに敲打がみられ、両研磨面に敲打がみられるもの。47
	II f	凹み石として使用した後に磨石とされたもので、側辺部すべてに敲打がみられる。48, 49



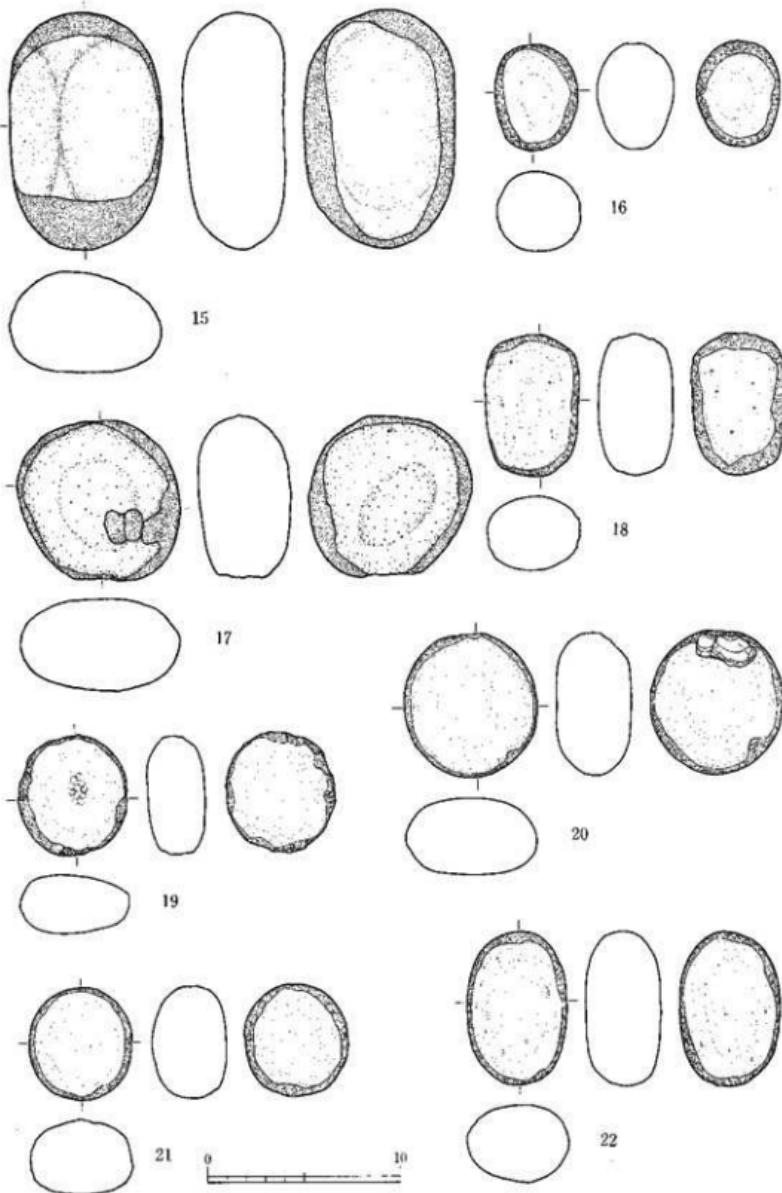
第2図 印石・磨石



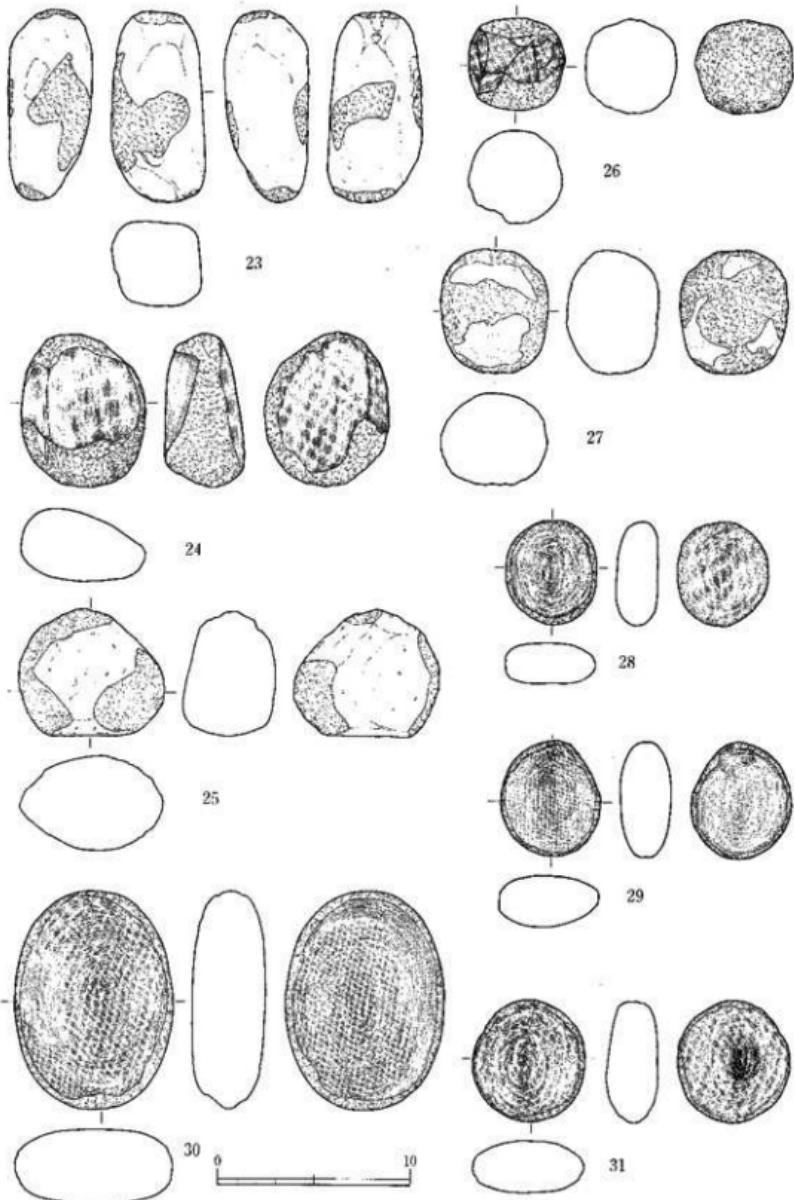
第3図 叩石・磨石



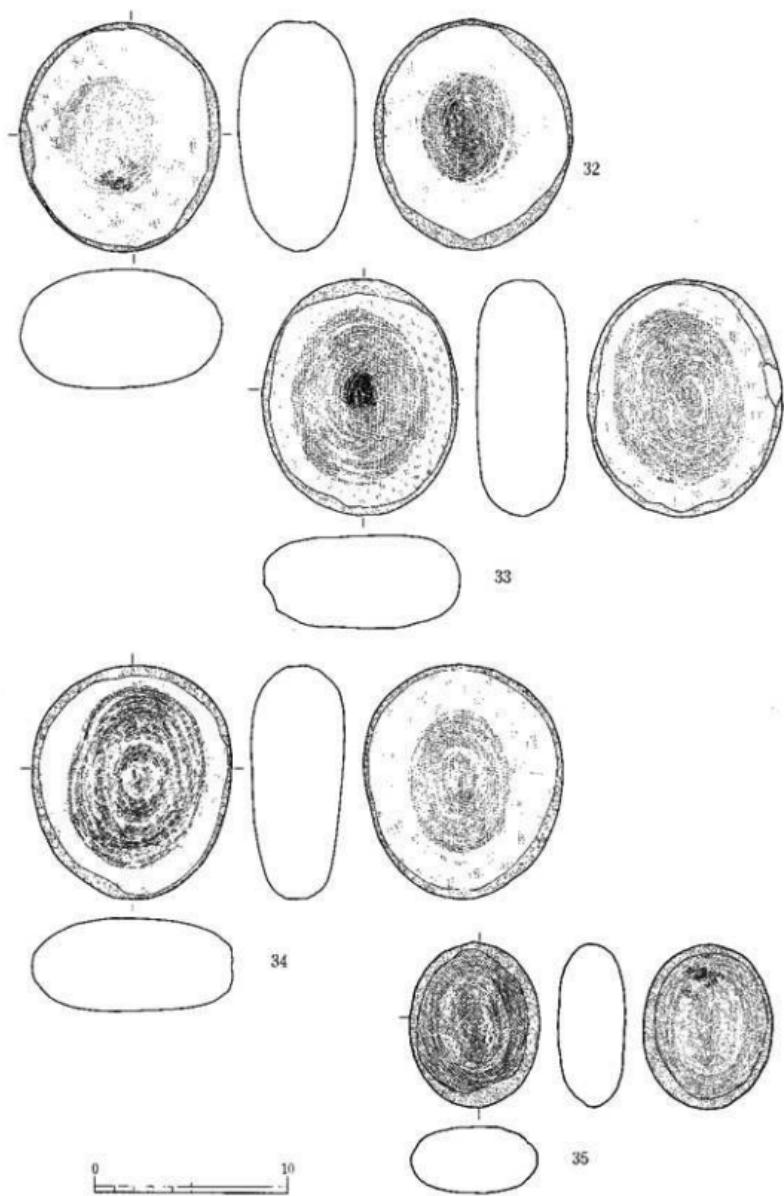
第4図 叩石・磨石



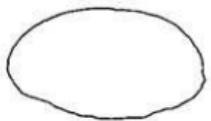
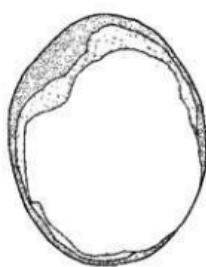
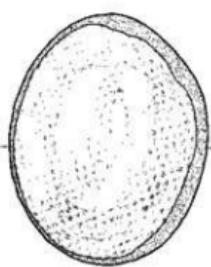
第5図 叩石・磨石



第6図 叩石・磨石



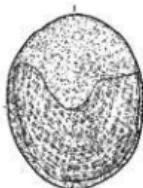
第7図 叩石・磨石



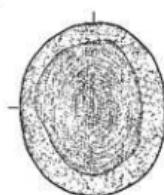
36



37



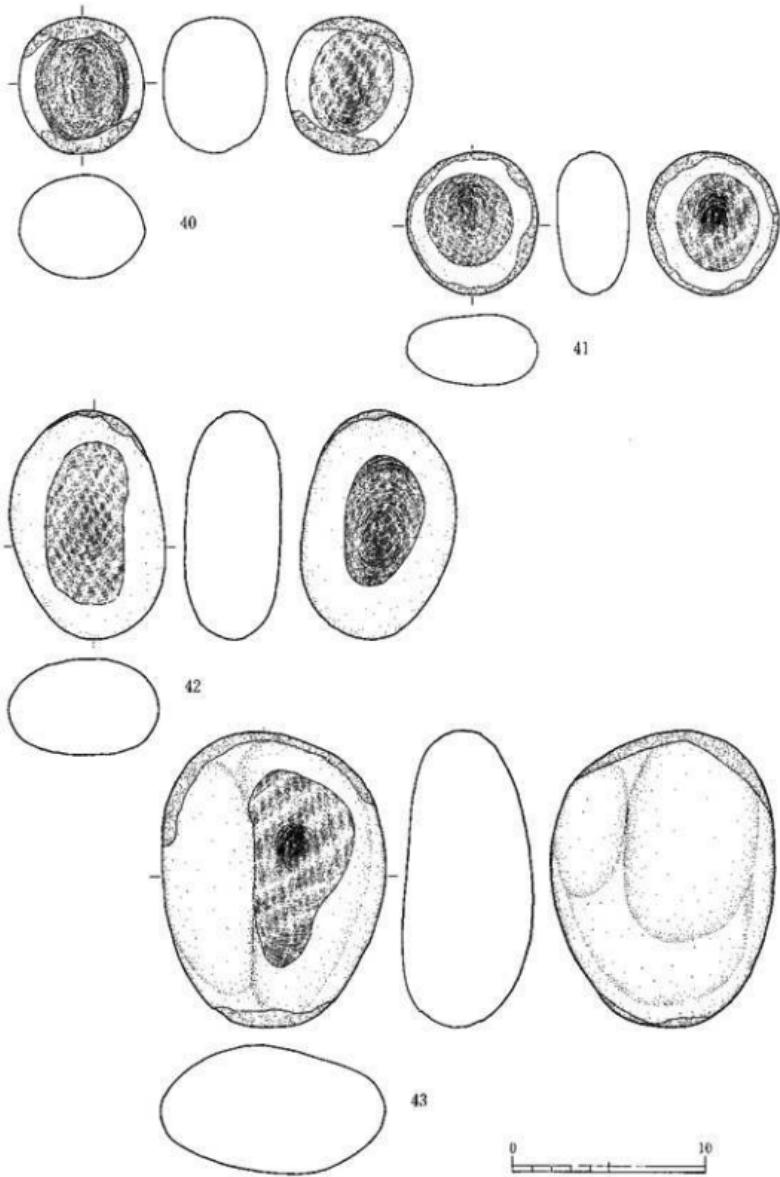
38



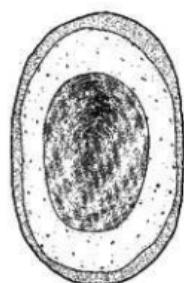
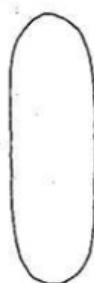
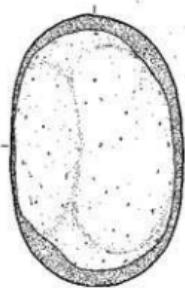
39



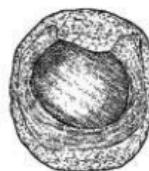
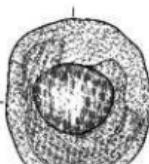
第8図 叩石・磨石



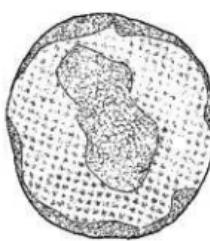
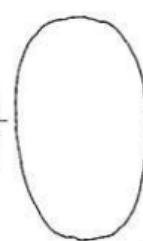
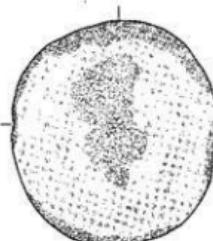
第9図 叩石・磨石



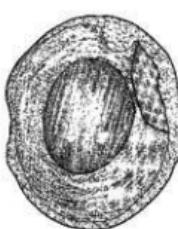
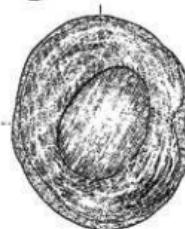
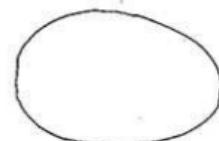
44



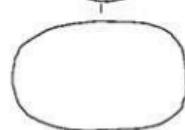
45



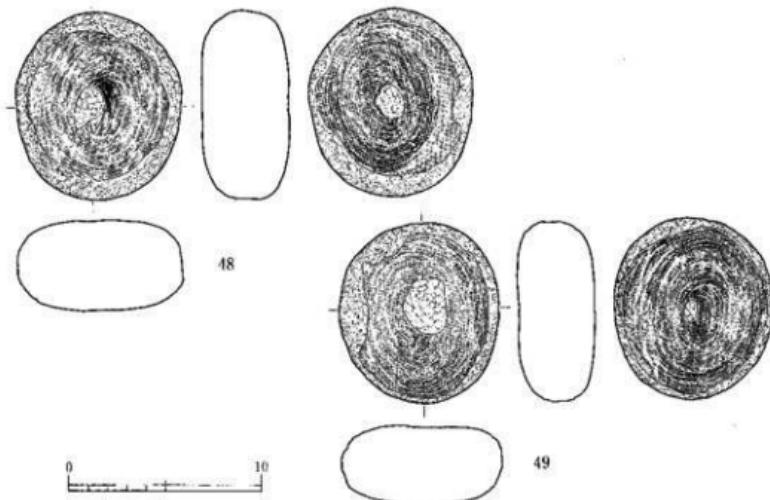
47



46



第10圖 叩石・磨石



第11図 印石・磨石

印石・磨石計測表

No	出土点	長さ(?)	幅(?)	厚み(?)	重さ(?)	石材	備考
1	表面採集	22.0	9.9	7.0	2241.69	砂岩	一先端部、叩き
2	3 TII層	9.7	10.4	4.5	652.58	凝灰岩	先端部、二ヵ所に打き
3	1 T一括	11.0	8.0	7.2	929.04	凝灰岩	一先端部に叩き
4	表面採集	15.9	10.0	8.4	1833.11	凝灰岩	一側辺に叩き
5	1 T一括	11.0	8.5	5.7	977.89	砂岩	一先端部、叩き
6	表面採集	18.7	8.4	6.1	1478.29	凝灰岩	一先端部、叩き
7	1 TIV層	13.5	11.3	6.6	1445.05	砂岩	表表面に打き、側面部分打き
8	3 TIV層	5.9	5.0	3.8	150.38	砂岩	部分叩き
9	4 TIV層	8.2	5.0	3.6	199.77	砂岩	部分敲打
10	表面採集	6.1	5.7	2.7	136.08	砂岩	部分敲打
11	4 TIV層	8.5	4.3	3.8	208.67	砂岩	両先端部の敲打
12	5 TII層	5.6	5.6	4.6	193.02	砂岩	集中的な部分敲打
13	表面採集	7.5	6.3	3.1	236.30	砂岩	部分敲打
14	5 TII層	7.4	5.9	3.7	213.38	砂岩	部分敲打
15	4 TII層	12.2	7.9	5.3	813.72	砂岩	全側辺敲打
16	1 T一括	5.5	4.4	4.1	140.12	砂岩	全側辺敲打
17	表面採集	8.2	8.3	4.7	478.49	粗粒砂岩	全側辺敲打
18	表面採集	7.4	4.9	3.9	229.58	凝灰岩	全側辺、強烈敲打
19	5 T一括	6.2	5.7	3.0	147.51	砂岩	全側辺敲打、工具痕あり
20	4 TVII層	7.4	6.9	3.9	304.80	砂岩	全側辺敲打
21	2 TIV層	5.8	5.4	3.9	175.34	砂岩	全側辺敲打
22	表面採集	8.0	5.2	3.9	248.68	凝灰岩	全側辺敲打
23	表面採集	9.7	4.9	4.4	357.53	石灰	両先端部と中央部に打き
24	表面採集	12.9	6.5	4.2	306.75	蛇紋岩	右側の内側面、両先端に打き

叩石・磨石計測表

No.	出土点	長さ(?)	幅(?)	厚み(?)	重さ(?)	石 材	備 考
25	4 T VII層	6.6	7.6	4.8	338.23	チャート	側面左部の部分敲打
26	1 T IV層	4.8	5.0	4.7	152.82	凝灰岩	全面敲打後に研磨
27	表面採集	6.4	5.6	4.8	238.25	砂岩	ほぼ全面敲打
28	2 T III層	5.5	4.7	2.2	83.26	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
29	表面採集	5.9	5.3	2.7	126.08	砂岩	全面敲打、両面磨り
30	3 T II層	11.4	8.3	3.8	563.60	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
31	表面採集	6.4	5.9	2.7	141.84	砂岩	全面敲打、両面磨り
32	4 T II層	11.9	10.4	6.1	1031.53	砂岩	全面敲打、両面磨り
33	4 T III層	12.3	10.3	5.3	1003.98	砂岩	全面敲打、両面磨り
34	1 T 拙	12.1	10.3	4.9	922.78	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
35	4 T III層	8.5	6.7	3.5	296.27	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
36	2 T III層	13.0	10.3	5.7	1127.13	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
37	2 T IV層	13.7	8.8	5.1	972.55	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
38	4 T IV層	9.1	7.1	3.8	324.16	砂岩	全面敲打、両面磨り
39	1 T IV層	9.0	7.5	3.3	350.50	砂岩	全面敲打、両面磨り
40	3 T IV層	7.1	6.6	5.4	365.86	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
41	1 T IV層	7.4	6.9	3.7	270.07	砂岩	全面敲打、両面磨り
42	5 T II層	11.9	7.9	5.0	695.29	砂岩	全面敲打、両面磨り
43	2 T 拙	15.4	11.7	6.8	1749.74	砂岩	全面敲打、両面磨り
44	表面採集	14.1	9.0	4.4	911.15	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
45	1 T IV層	8.5	7.5	4.6	497.86	砂岩	全面敲打、両面磨り
46	2 T III層	11.1	9.1	5.5	886.30	砂岩	全面敲打、両面磨り
47	2 T VII層	11.7	10.7	6.9	1326.24	凝灰岩	全面敲打、両面磨り
48	1 T III層	9.7	8.6	4.6	616.42	砂岩	全面敲打、両面磨り
49	4 T I層	9.4	8.4	4.6	522.97	砂岩	磨石としている

3. 石 鍤

遺跡から、表面採集品43点・出土品34点を含む、77点の石鍤を確認した。石鍤は自然縦を利用し、わずかに紐掛け部を欠いたもので、小型のものと大型のものに大別できた。大型の石鍤は、定置網的なものに使用されたものと思われる。

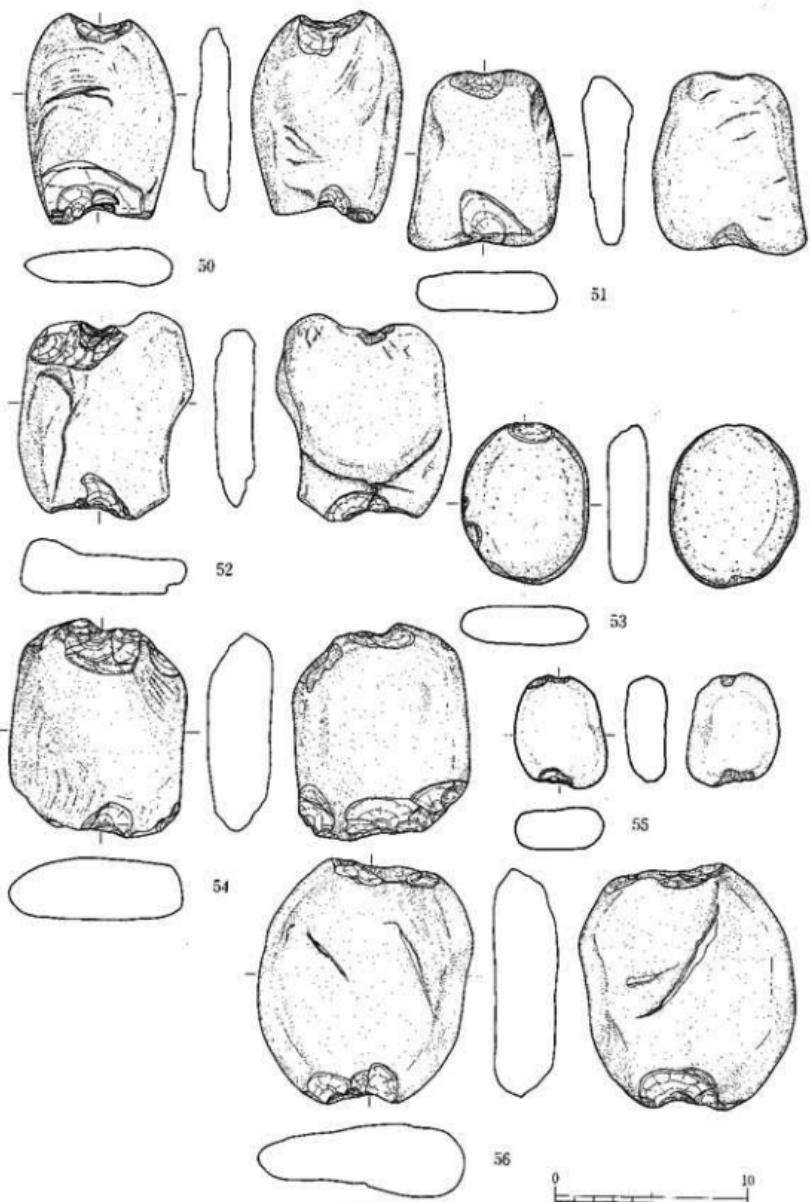
I a. 縦型 長軸の先端部に紐掛け部を欠いたもの。50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 95, 96, 97.

I b. 横型 短軸部に紐掛け部を欠いたもの。94, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113.

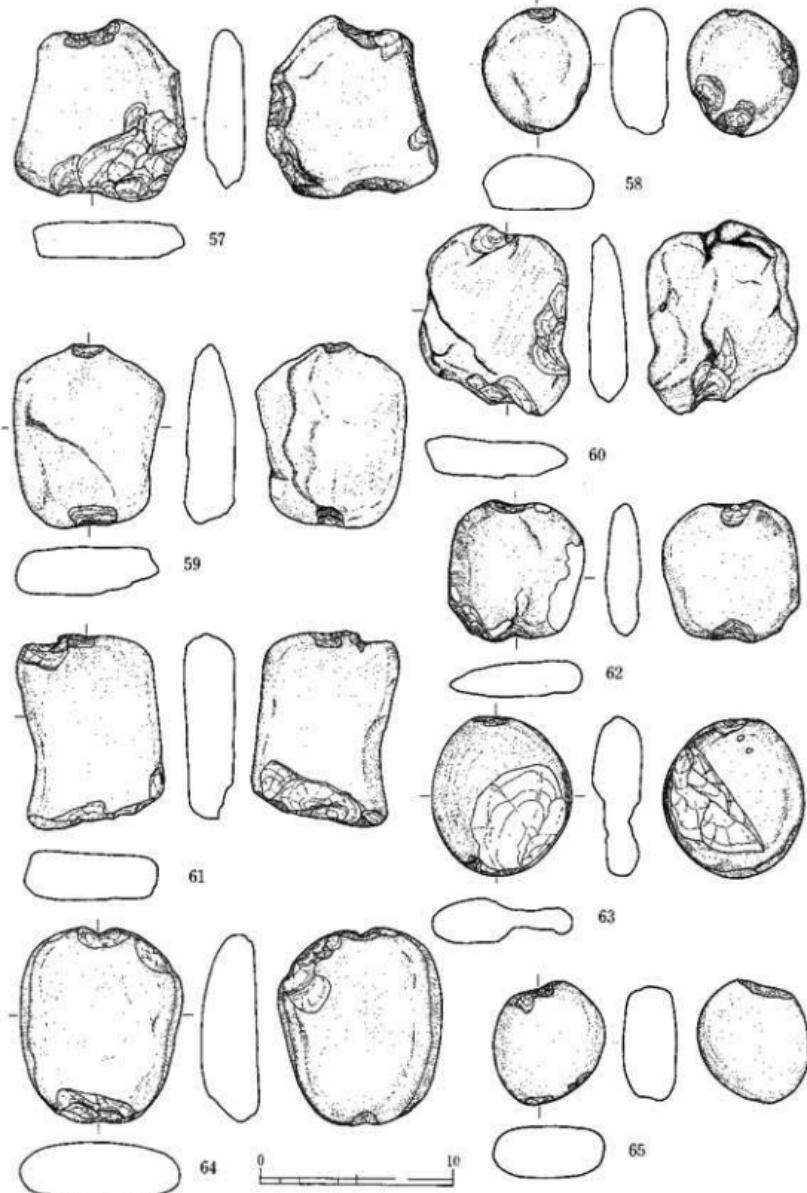
I c. 二カ所以上の紐欠け部を持つもので十字に紐掛けがなされたもの。114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121.

II. 3キログラム以上の大型のもので、定置網や網の両角に設置されたものとおもわれる。124, 125, 126, 127.

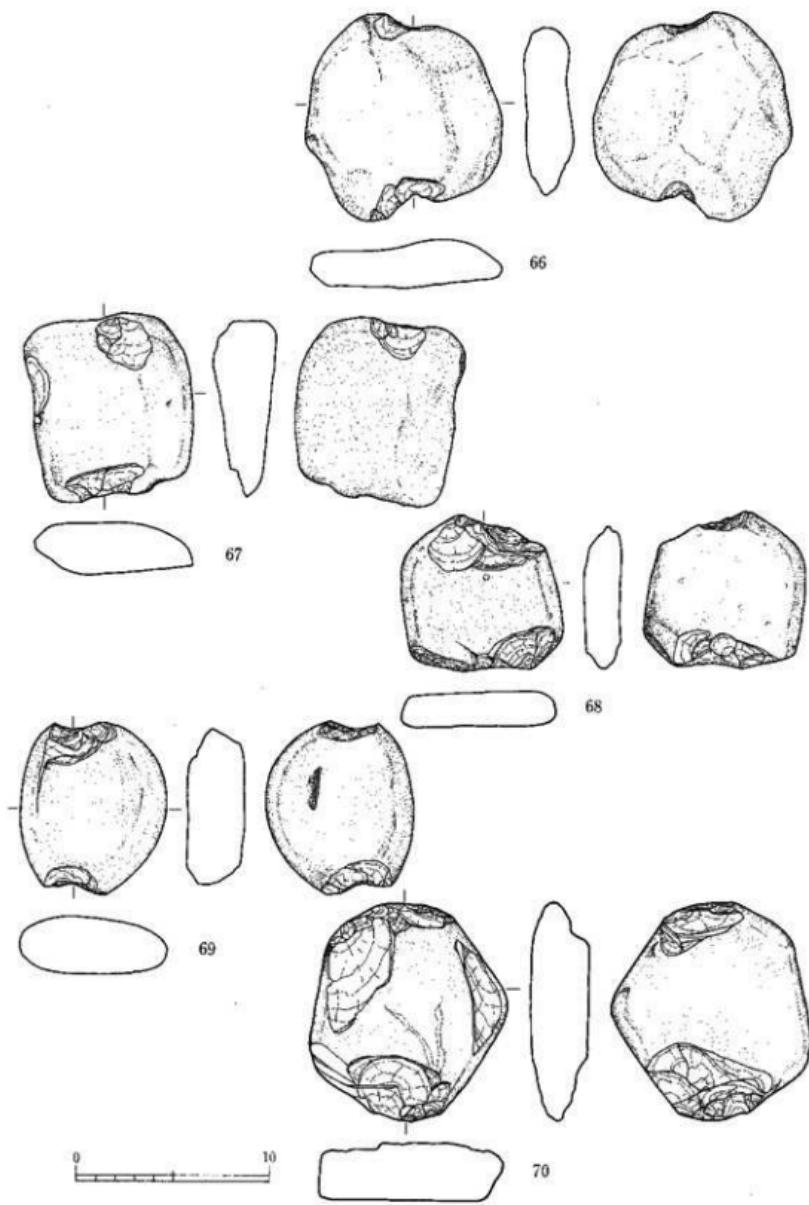
その他として叩石を石鍤にしたもの。122, 123.



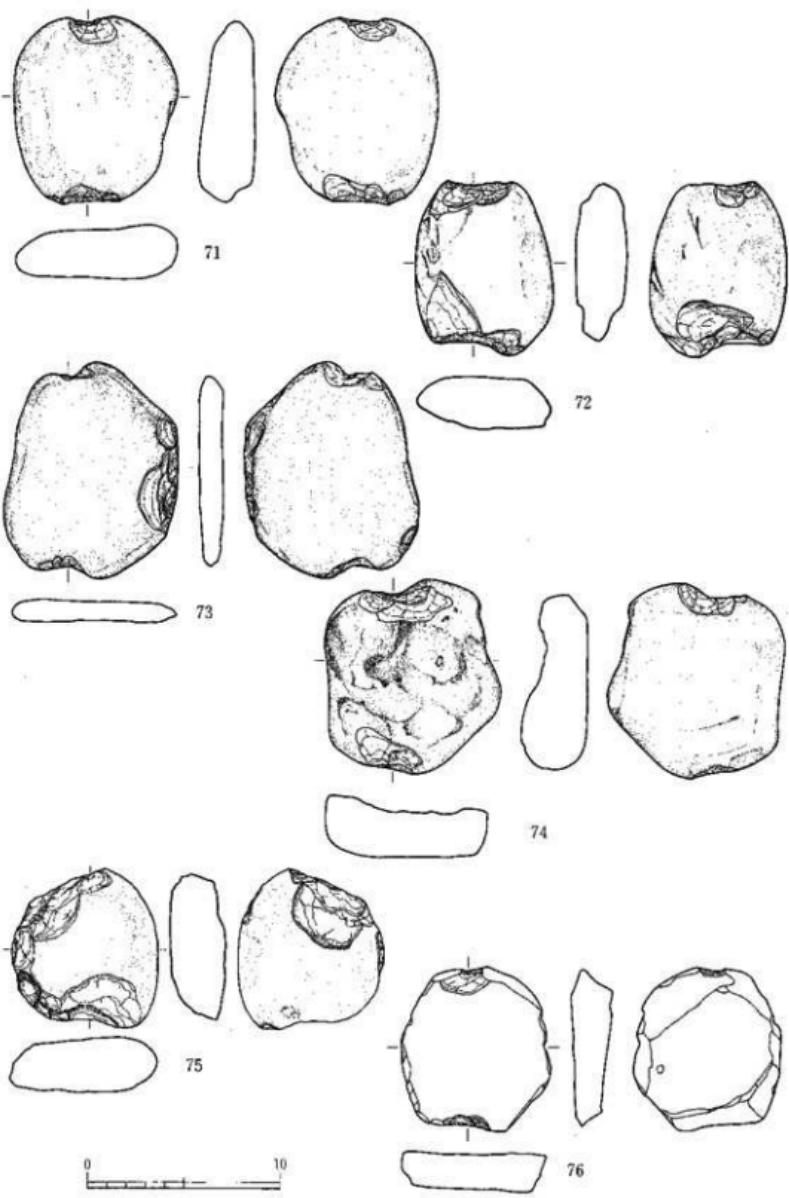
第12図 石錘



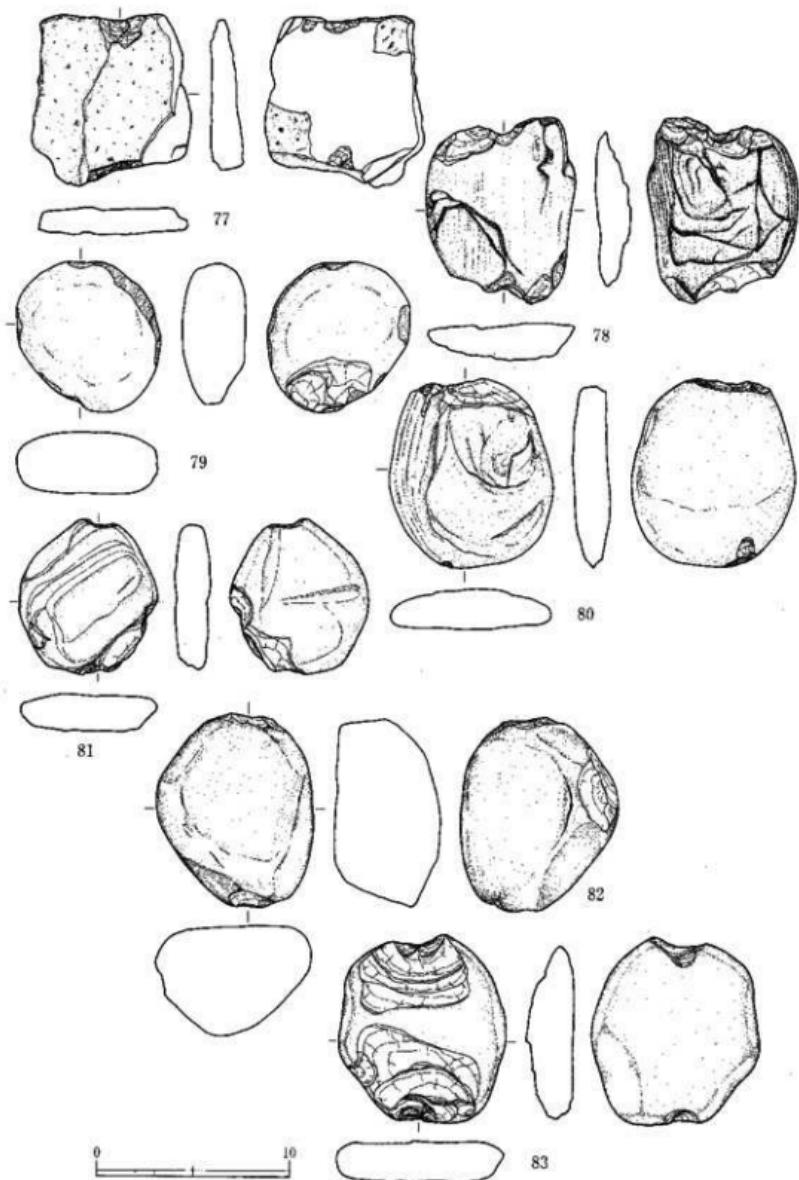
第13図 石器



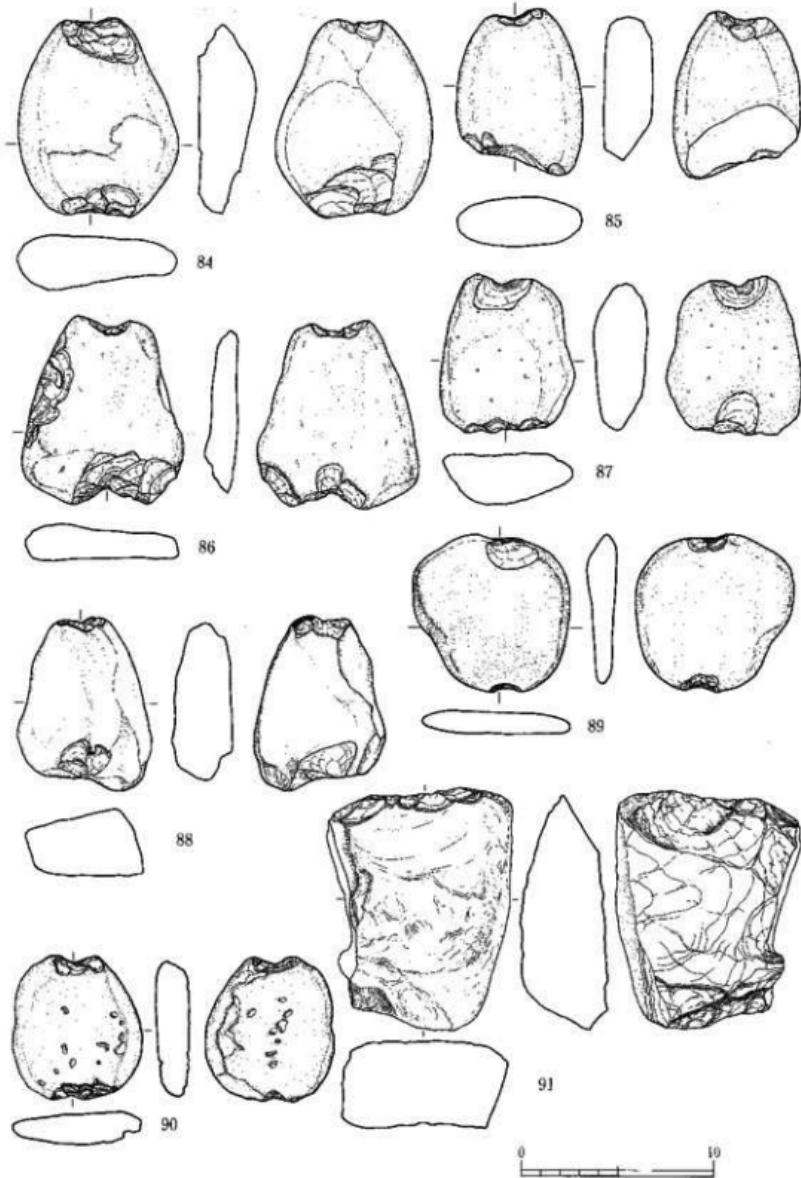
第14図 石錐



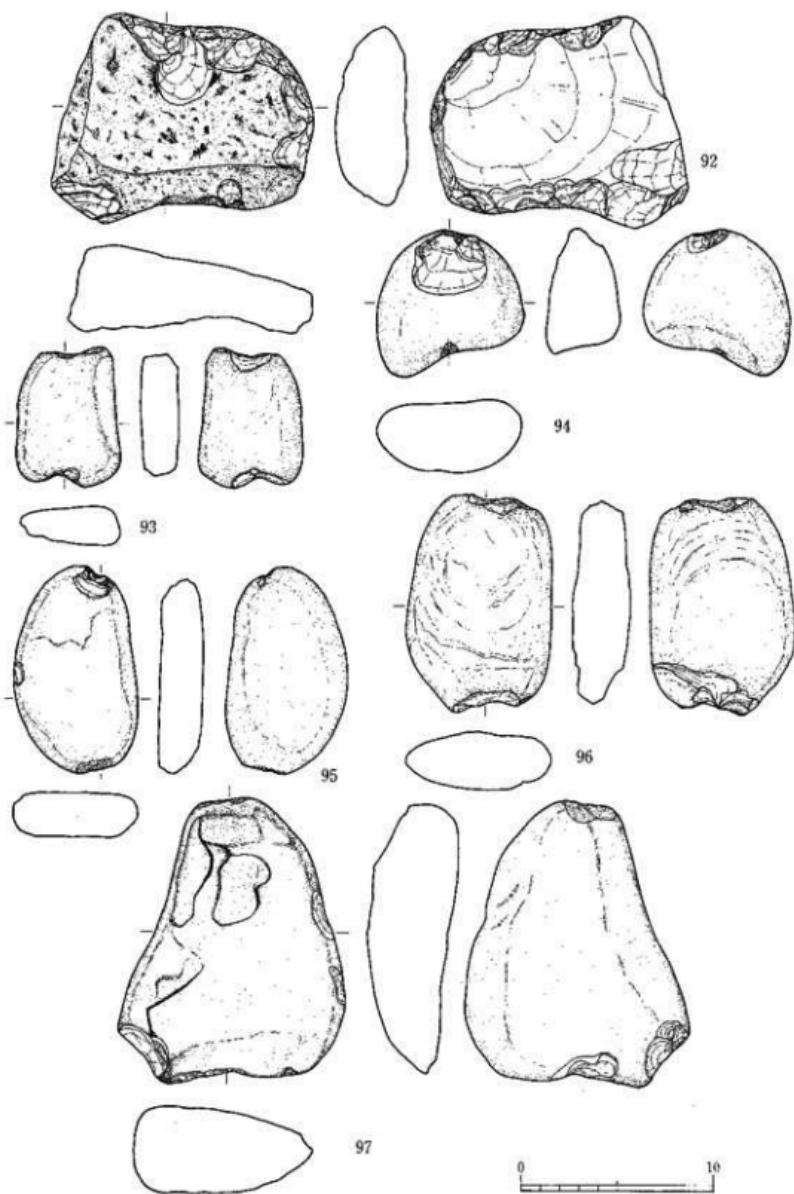
第15図 石錘



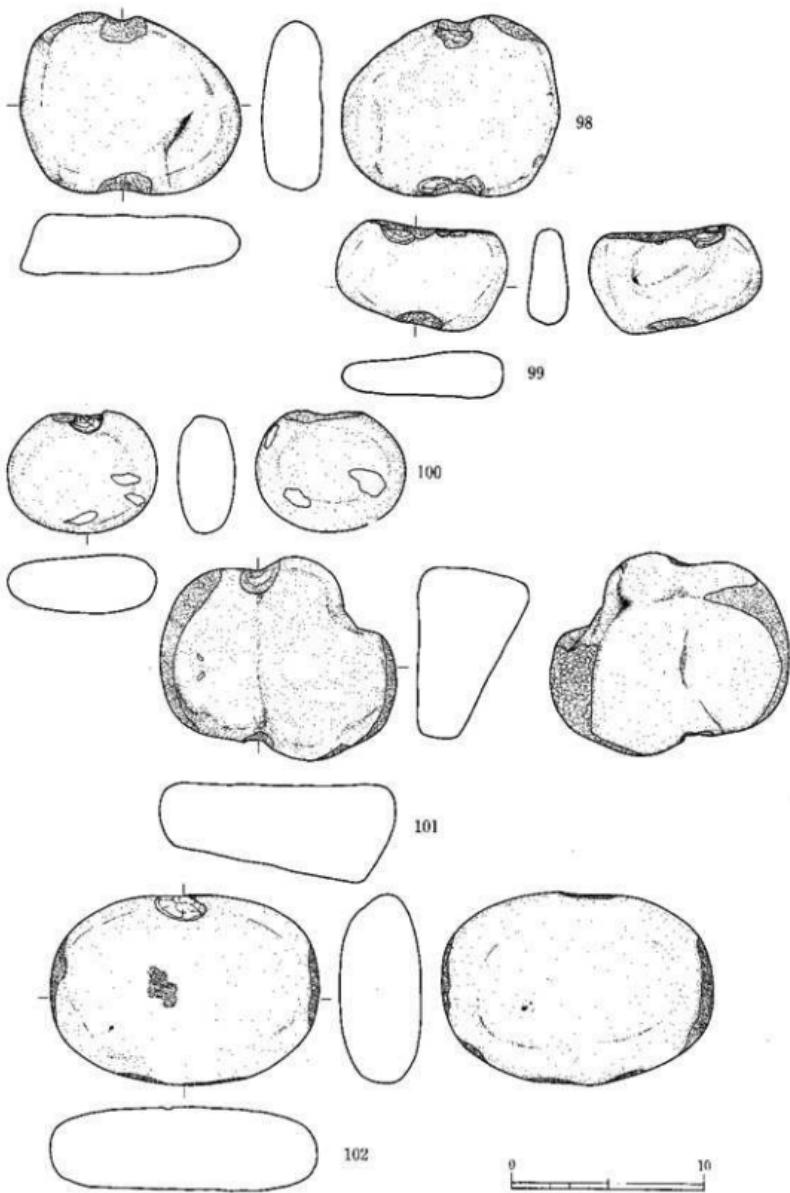
第16図 石錐



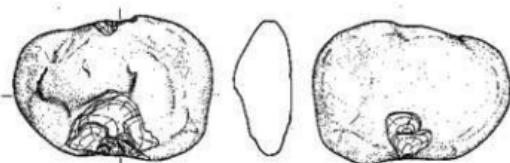
第17図 石錘



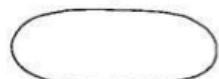
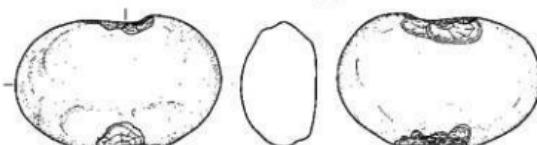
第18図 石錐



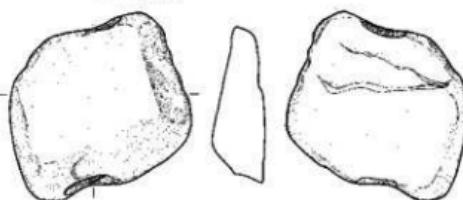
第19図 石錐



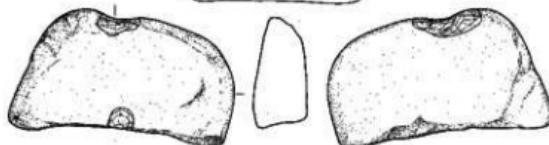
103



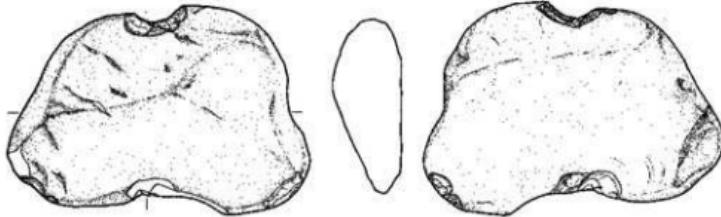
104



105



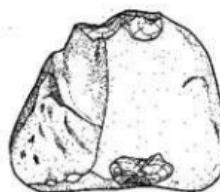
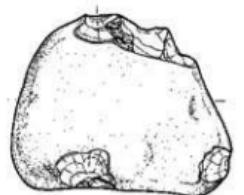
106



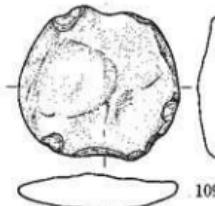
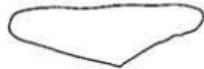
107



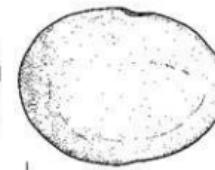
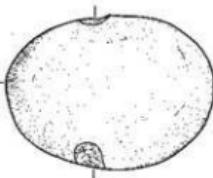
第20図 石錠



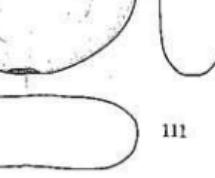
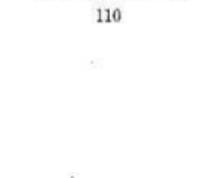
108



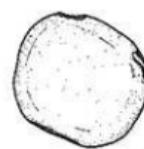
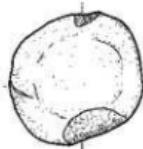
109



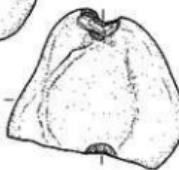
110



111



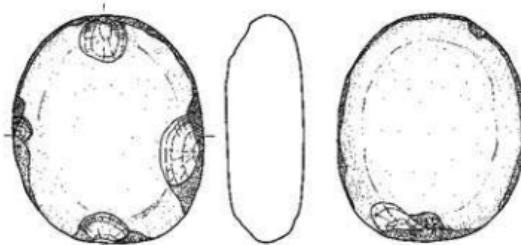
112



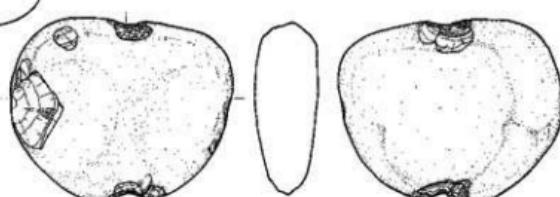
113



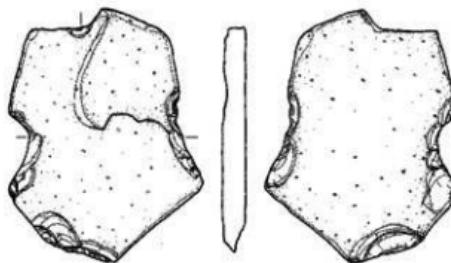
第21図 石鏃



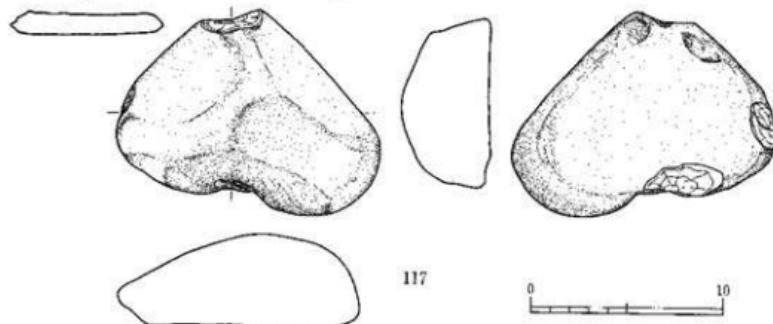
114



115



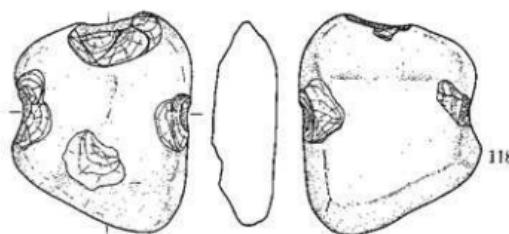
116



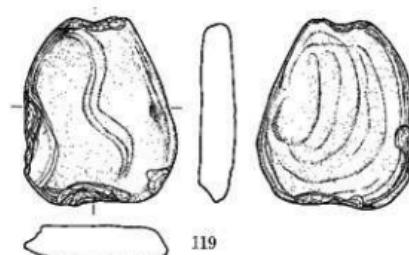
117



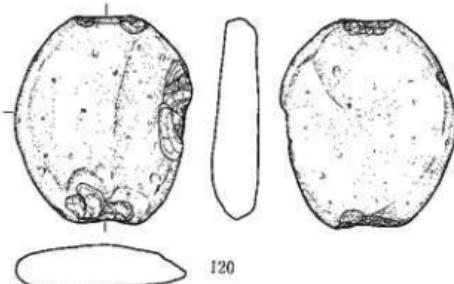
第22図 石錐



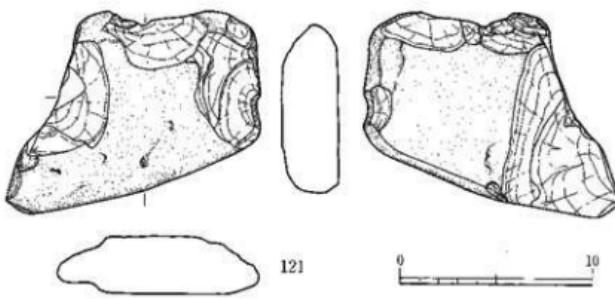
118



119



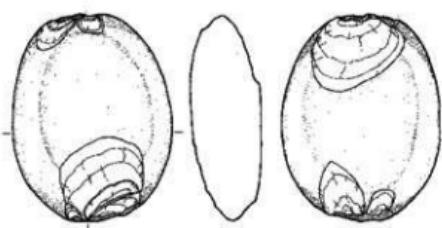
120



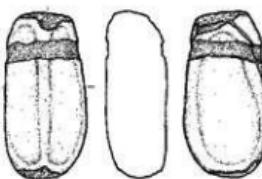
121



第23図 石錐

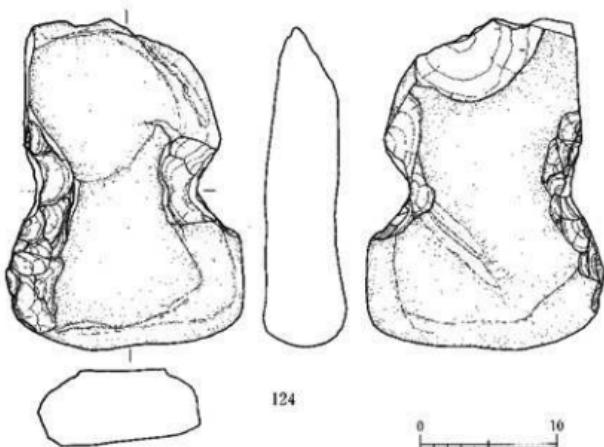


122



123

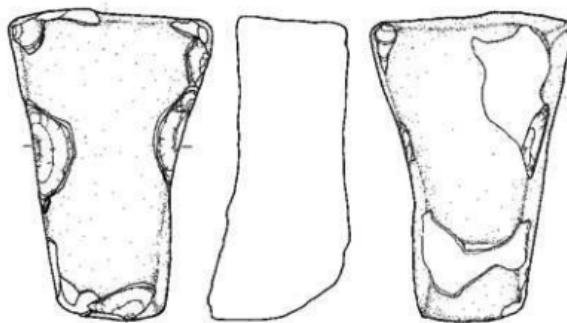
0 10



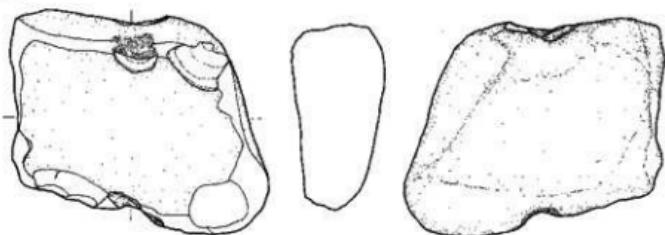
124

0 10

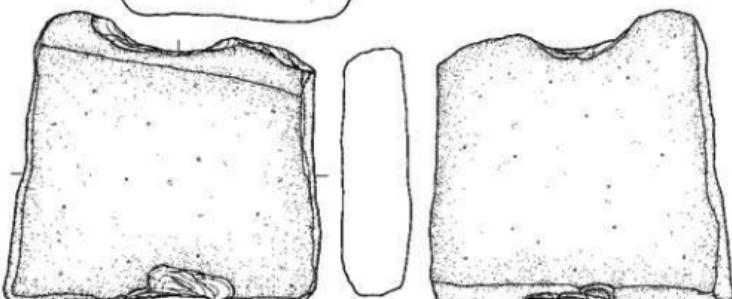
第24図 石鍤



125



126



127



第25図 石錘

石錘 計測表

No	上部	長さ(寸)	幅(寸)	厚み(寸)	重さ(磅)	石材	備考
50	4 T III層	10.8	7.6	1.85	234.65	砂岩	綱型
51	表面採集	8.8	7.4	2.55	287.73	砂岩	綱型
52	4 T III層	10.8	8.8	1.95	327.09	砂岩	綱型
53	2 T III層	8.4	6.55	2.1	198.32	砂岩	綱型
54	表面採集	10.4	8.9	3.2	341.03	砂岩	綱型
55	2 T IV層	5.5	4.6	2.1	92.94	凝灰岩	綱型
56	表面採集	2.7	10.8	3.1	753.91	砂岩	綱型
57	表面採集	9.25	8.25	2.05	269.22	砂岩	綱型
58	表面採集	6.5	5.6	2.8	160.83	砂岩	綱型
59	表面採集	9.45	7.8	2.5	281.94	砂岩	綱型
60	表面採集	9.3	7.3	1.95	320.21	砂岩	綱型
61	1 T II層	9.95	6.8	2.5	336.43	砂岩	綱型
62	3 T I層	7.3	7.0	1.8	139.10	砂岩	綱型
63	1 T I括	8.2	7.2	3.0	185.16	砂岩	綱型
64	表面採集	10.25	8.5	2.9	354.81	砂岩	綱型
65	1 T I括	6.0	5.7	2.4	151.50	砂岩	綱型
66	表面採集	10.6	10.1	2.5	333.30	砂岩	綱型
67	表面採集	9.3	7.85	3.2	351.40	砂岩	綱型
68	表面採集	8.0	7.9	1.9	216.78	凝灰岩	綱型
69	1 T III層	8.9	7.7	3.0	301.62	砂岩	綱型
70	2 T IV層	11.3	10.0	3.05	520.69	砂岩	綱型
71	表面採集	9.6	8.4	2.85	373.43	砂岩	綱型
72	5 T II層	8.9	7.0	2.3	255.49	砂岩	綱型
73	表面採集	11.3	8.8	11.5	186.71	砂岩	綱型
74	1 T III層	10.0	8.85	3.4	428.34	砂岩	綱型
75	1 T II層	8.0	7.6	2.9	239.00	砂岩	綱型
76	表面採集	8.4	7.55	2.2	197.43	砂岩	綱型
77	5 T II層	8.6	8.2	1.5	184.63	凝灰岩	綱型
78	表面採集	9.6	7.5	1.85	161.85	砂岩	綱型
79	表面採集	7.7	7.4	3.05	279.94	砂岩	綱型
80	2 T II層	9.65	8.6	1.9	258.21	砂岩	綱型
81	表面採集	6.25	10.9	2.2	263.03	砂岩	綱型
82	表面採集	9.35	8.1	5.7	590.63	砂岩	綱型
83	3 T II層	9.7	8.6	2.4	292.42	砂岩	綱型
84	表面採集	10.1	8.2	2.95	341.63	砂岩	綱型
85	表面採集	8.25	6.3	2.6	194.01	砂岩	綱型
86	表面採集	9.9	8.3	1.7	197.87	凝灰岩	綱型
87	表面採集	8.1	7.0	2.85	193.94	凝灰岩	綱型
88	表面採集	8.5	7.0	3.2	267.18	砂岩	綱型
89	表面採集	8.0	8.2	1.5	125.27	砂岩	綱型
90	2 T I層	7.25	6.9	1.7	126.99	砂岩	綱型
91	表面採集	12.2	9.6	4.5	841.70	砂岩	綱型
92	表面採集	10.6	12.9	3.6	783.37	砂岩	綱型
93	表面採集	6.9	5.4	2.05	136.84	砂岩	綱型
94	表面採集	6.8	7.7	3.7	287.67	砂岩	綱型
95	表面採集	11.3	7.6	3.05	371.26	砂岩	綱型
96	表面採集	14.2	11.3	4.5	857.59	砂岩	綱型
97	表面採集	9.8	11.4	3.2	543.13	砂岩	綱型
98	表面採集	5.3	8.9	2.05	152.87	砂岩	綱型
99	1 T IV層	6.3	7.8	2.9	223.35	砂岩	綱型
100	表面採集						

石錐計測表

No	出土点	長さ(寸)	幅(寸)	厚み(寸)	重さ(oz)	石材	備考
101	3 TIV層	10.4	12.15	5.9	938.69	砂岩	横型
102	表面採集	9.8	13.9	4.3	986.85	砂岩	横型
103	4 THI層	7.3	11.0	3.0	331.56	砂岩	横型
104	2 TIV層	7.0	10.6	3.9	421.18	砂岩	横型
105	4 THII層	8.6	9.5	2.7	296.14	砂岩	横型
106	4 TIV層	6.0	11.6	2.9	325.04	砂岩	横型
107	表面採集	10.6	15.7	3.55	749.29	砂岩	横型
108	1 THII層	9.1	11.45	3.0	442.22	砂岩	横型
109	1 T一括	7.8	8.3	1.9	152.73	砂岩	横型
110	表面採集	8.1	10.7	3.55	499.12	砂岩	横型
111	表土採集	8.15	10.3	3.5	491.96	砂岩	横型
112	表面採集	6.6	6.8	3.0	209.70	砂岩	横型
113	1 TIV層	7.4	9.1	1.8	185.17	砂岩	横型
114	表面採集	11.7	10.	4.0	781.03	砂岩	二カ所以上
115	1 TIV層	9.6	11.5	3.35	542.70	砂岩	二カ所以上
116	3 THII層	13.2	10.15	1.15	234.46	砂岩	二カ所以上
117	4 TIV層	10.0	9.5	2.7	296.14	砂岩	二カ所以上
118	4 T一括	9.1	11.4	3.3	504.33	砂岩	二カ所以上
119	表土採集	9.5	7.75	1.85	217.12	砂岩	二カ所以上
120	2 TIV層	10.75	8.75	2.45	333.79	砂岩	二カ所以上
121	2 T一括	9.8	11.35	2.8	484.44	砂岩	二カ所以上
122	3 THII層	10.6	8.25	3.5	423.10	砂岩	叩石後に石錐
123	表面採集	8.6	4.2	3.15	167.11	砂岩	周囲敲打の凹め
124	表面採集	24.5	17.15	7.1	3500.00	砂岩	大型
125	3 T一括	22.4	15.0	9.3	4600.00	砂岩	大型
126	表面採集	15.45	18.2	7.1	3000.00	砂岩	大型
127	表面採集	21.4	22.3	5.05	5600.00	砂岩	大型

4. 凹み石

遺跡において、採集品を含め、23点の凹み石が確認された。いずれも掌大の大きさで移動に可能な大きさであった。ここで山間部にみられる凹み石との比較をすると、山間部の物は凹みの径も大きく深さがあり、使用されている石材も大きめになり、中には使用により底部に穴の空いた物も確認されている。このような事から山間部の凹み石は、使用により凹みの状態は進行していくものと思われる。これに対して、海の凹み石は、扁平な石材を使用し敲打の集中によって浅い凹みを造り出している。このことから、山の凹み石は、使用により凹みが進行していくが、海の凹み石は、凹みの進行を考慮することなく扁平な石材を使用した物と思われる。

1. 自然顕に敲打による凹みを施したもの。 136
2. 磨石・叩石に敲打による凹みを施したもの。 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144
3. 叩石に敲打による凹を施したもの。 147, 148, 149, 150
4. えぐり入り縫隙に敲打による凹みを施したもの。 145,
5. 円盤状石器に凹みを施したもの。 146

6. 自然縫に部分敲打をおこない、凹みを施したもの。129, 130, 131.

7. 全体に敲打がおこなわれた後に、凹みを施したもの。128.

8. 全側邊敲打がおこなわれ、凹みを施したもの。132, 133, 134, 135.

このように、複合的な石器として捕らえる事ができるが、ここでは最終的に凹み石として使用された物を凹み石として取り上げた。磨石、叩石の項で取り上げた48・49にも敲打痕が認められるが凹み石として使用された後に磨石として使われているために別項とした。

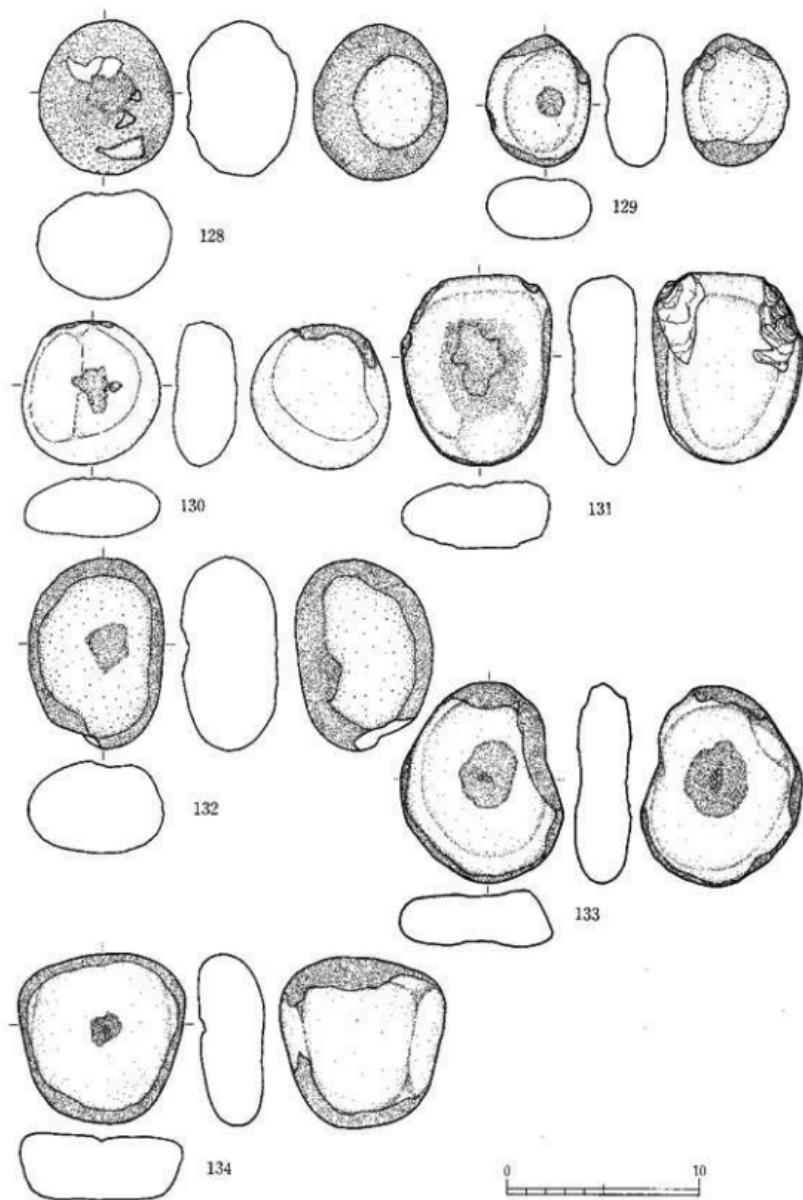
実験

海の凹み石には進行性がないものと思われ、更に山の凹み石は出土点数が少ないが、海の凹み石は出土点数が多い事を考え合わせ、遺跡における凹み石は漁撈具のひとつと考え、実験を試みた。

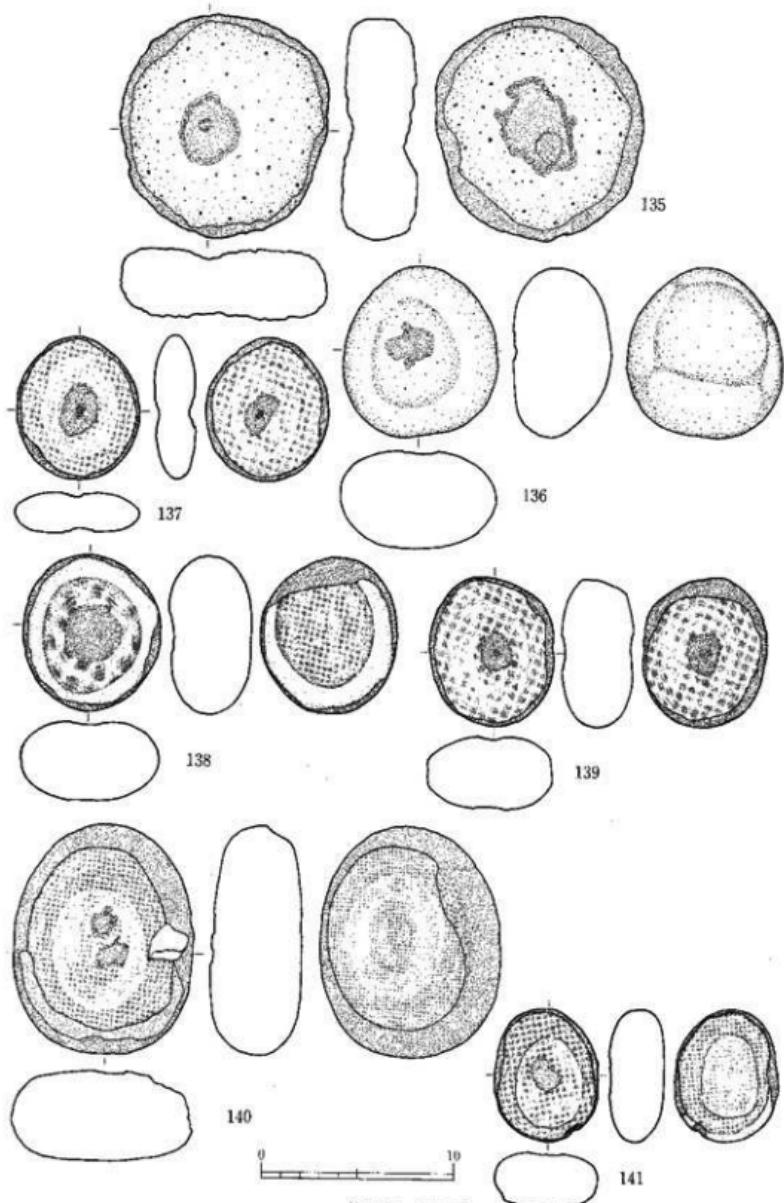
これらの石器は、大きさからして掌に乗せて、移動しながら使用する物と考え、巻き貝を集め、最初は扁平な石を掌に乗せてそのうえに巻き貝をおき、掌大の石で貝を叩き潰してみると、軽く叩けば巻き貝は潰される事なく外に、はじき出される事があった。強く叩いてもはじき出る事もあったが結果として、その貝を海水で洗っても身に貝がらが入ったり、身がばらばらになってしまったのであった。その後、扁平な石の中央部を敲打して僅かな凹みを着けて、同じように実験してみると、台としての凹み石を掌に乗せて使用するため、叩く方の加減で、容易に巻き貝を割ることができた。このような結果から、海における漁撈具の一つとしてとらえた。



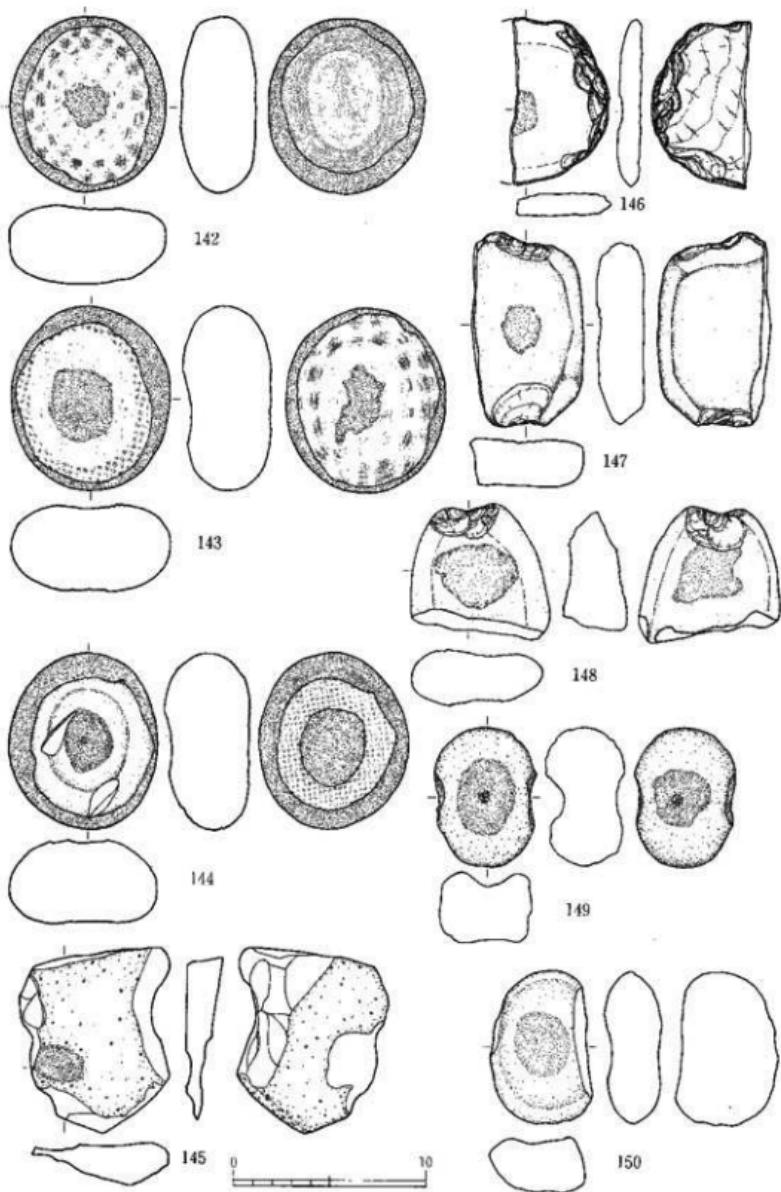
凹み石使用想像図



第26図 凹み石



第27図 凹み石



第28図 凹み石

凹み石 計測表

No	出土点	長さ(?)	幅(?)	厚み(?)	重さ(?)	石材	備考
128	表面採集	8.0	7.0	5.5	414.62	砂岩	全体叩き、片面凹み
129	表面採集	6.8	5.4	3.3	169.58	砂岩	自然隙部分敲打、片側
130	表面採集	7.4	7.1	3.2	224.18	砂岩	自然隙部分敲打、片側
131	表面採集	9.9	7.8	3.6	373.72	砂岩	自然隙部分敲打、片側
132	5T一括	9.9	7.1	5.0	489.18	砂岩	全側面敲打、片側凹み
133	表面採集	10.3	8.3	2.9	363.88	砂岩	全側面敲打、片側凹み
134	表面採集	8.9	8.6	3.4	427.59	砂岩	全側面敲打、片側凹み
135	表面採集	11.6	10.8	3.7	626.39	凝灰岩	全側面敲打、片面凹み
136	1TⅢ層	8.8	8.0	5.0	505.50	砂岩	自然隙に片面凹み
137	5T一括	7.4	6.4	2.2	148.19	凝灰岩	全側面敲打、片面凹み
138	5TⅠ層	8.1	7.2	4.0	375.70	砂岩	全側面敲打、片面凹み
139	1T一括	7.7	6.5	3.8	298.66	凝灰岩	全側面敲打、片面凹み
140	表面採集	11.9	9.4	4.7	842.24	砂岩	全側面敲打、片面凹み
141	表面採集	6.9	5.4	3.9	162.88	砂岩	全側面敲打、片面凹み
142	表面採集	9.0	8.1	3.9	449.94	砂岩	全側面敲打、片面凹み
143	表面採集	9.6	8.3	4.5	558.01	砂岩	全側面敲打、片面凹み
144	1T一括	9.1	7.8	4.3	447.92	砂岩	全側面敲打、片面凹み
145	4TⅡ層	9.2	7.1	2.2	207.32	凝灰岩	えぐり入りで、片面凹み
146	表面採集	8.6	4.9	1.2	76.54	砂岩	円盤状石器、片面凹み
147	表面採集	10.0	5.9	2.4	239.49	砂岩	石鍬、片面凹み
148	表面採集	6.8	7.2	3.3	216.93	砂岩	石鍬欠損、片面凹み
149	表面採集	7.2	5.4	4.1	206.44	砂岩	石鍬、片面凹み
150	表面採集	7.9	5.0	2.9	191.70	砂岩	えぐり、風化で片側のみ確認

5. えぐり入り砾器

遺跡における半生石器として数多く出土し、又は採集された遺物である。出土品は、第1トレンチ17点、第2トレンチ2点、第3トレンチ5点、第4トレンチ7点、第5トレンチ4点で総数35点。石材は凝灰岩29点、安山岩1点、砂岩5点が、発掘調査によって出土した。表面採集品は凝灰岩43点、砂岩16点で、合わせて凝灰岩72点、砂岩21点、安山岩1点、総計94点であった。

石器の素材として凝灰岩の使用例は少なく、凝灰岩の持つ石器としては、欠点であるひらかさをいかした石器ということもできよう。採集遺物と出土遺物によって、つぎの形状分類を試みた。

- I. 自然縫を利用し、えぐり部を作り出し、えぐりの両先端部には側面からの加工がみられないもの。
- II. 自然縫を利用し、えぐり部を作り出し、側面に片面だけの部分的な加工がなされているもの。
- III. 局部縫を切断した後に、えぐり部を作り出し、切断によってできた稜縫部を部分的に加工したもの。

IV. 端平隣を切削した後に、えぐり部を作り出し、側辺部に両面から加工を施し直線的な刃部を部分的に作り出すもの。

V. 表裏面ともほぼ全面に平坦削利が施されているもの。

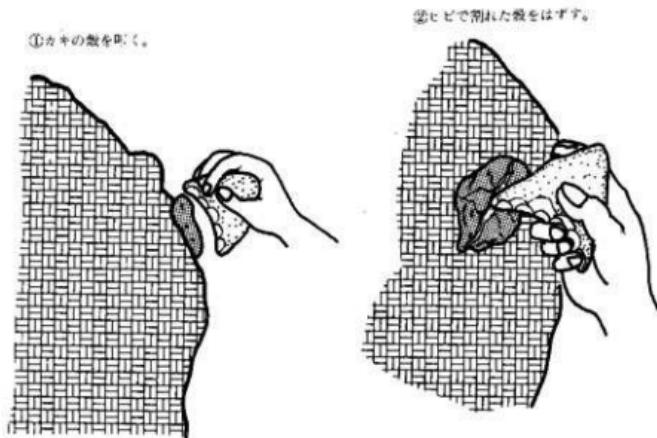
VI. えぐり部分を一面以上もつものの。

今回の調査において、五和町の沖の原遺跡にみられる、三角錐状の尖頭状石器（単頭式）と呼ばれるものが一点も確認されなかった事は、ここで言う「えぐり入り砾器」とは、異なった使用目的があったものと考えられるのではないか。

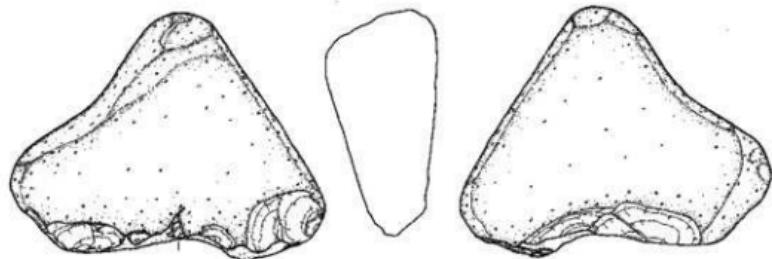
実験

古くは、江坂輝弥氏によって、熊本県宇土市森貝塚出土の遺物を「打製純型石器」とされ、松藤和人氏は「双角状石器」として、取り上げられている。また長崎県の報告書では「砾器」とされ、天草郡五和町の沖ノ原遺跡では「尖頭状石器」として報告がなされている。

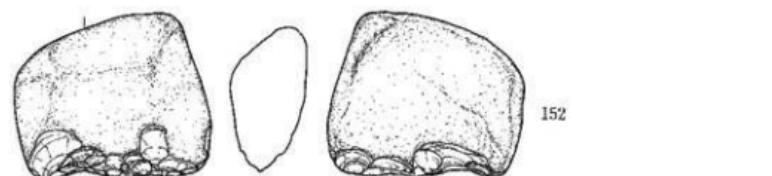
これらの石器が、沖の原遺跡の報告書では尖頭状石器と呼ばれていることと、アワビ起こしの説に疑問を持ち、海岸部で、先頭状石器の双頭式と呼ばれているものを製作し、岩に着いているカキを打ってみた。石器のえぐりの部分にカキが入るようにして叩くと、尖り部分がストッパーの役目を果たし、カキは完全につぶれる事なく殻を割ることができる。次に先頭部でカキの殻をこじ空け、中の身を取り出す事ができたことによって、沖の原遺跡の「アワビ起こし」説につづき、椎ノ木崎遺跡に置いては、実験の結果から「カキ打ち」説を取り上げた。また、凹み石との併用を持ってすれば、二枚貝をも割る事が可能と考えられる。



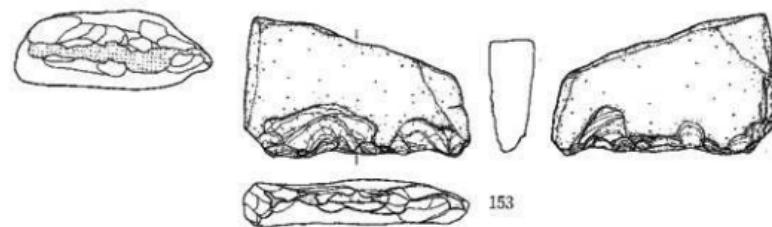
えぐり入り砾器使用想像図



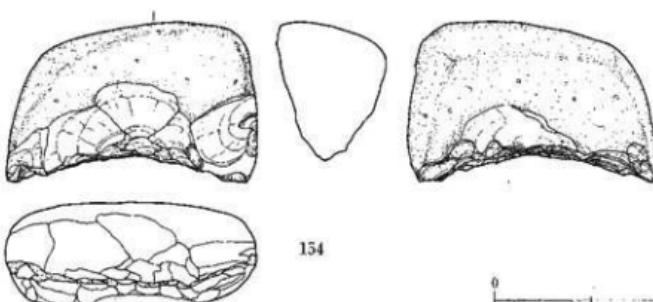
151



152



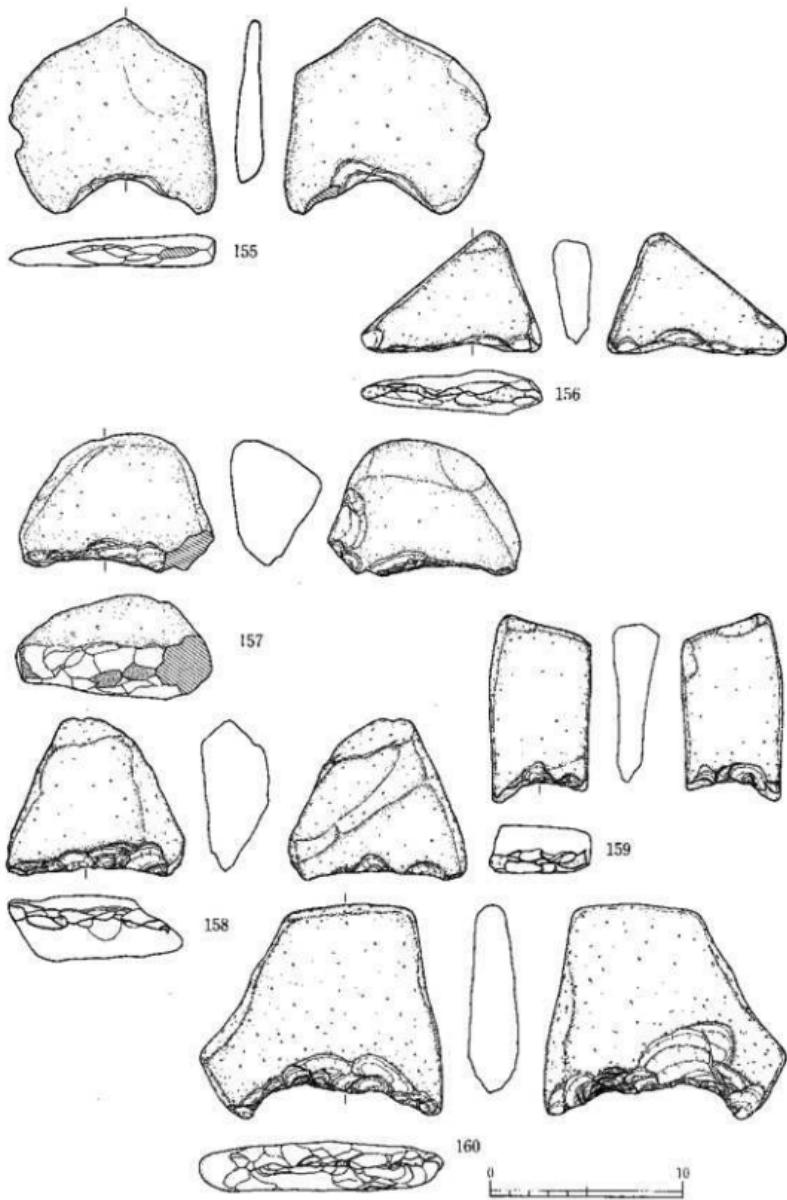
153



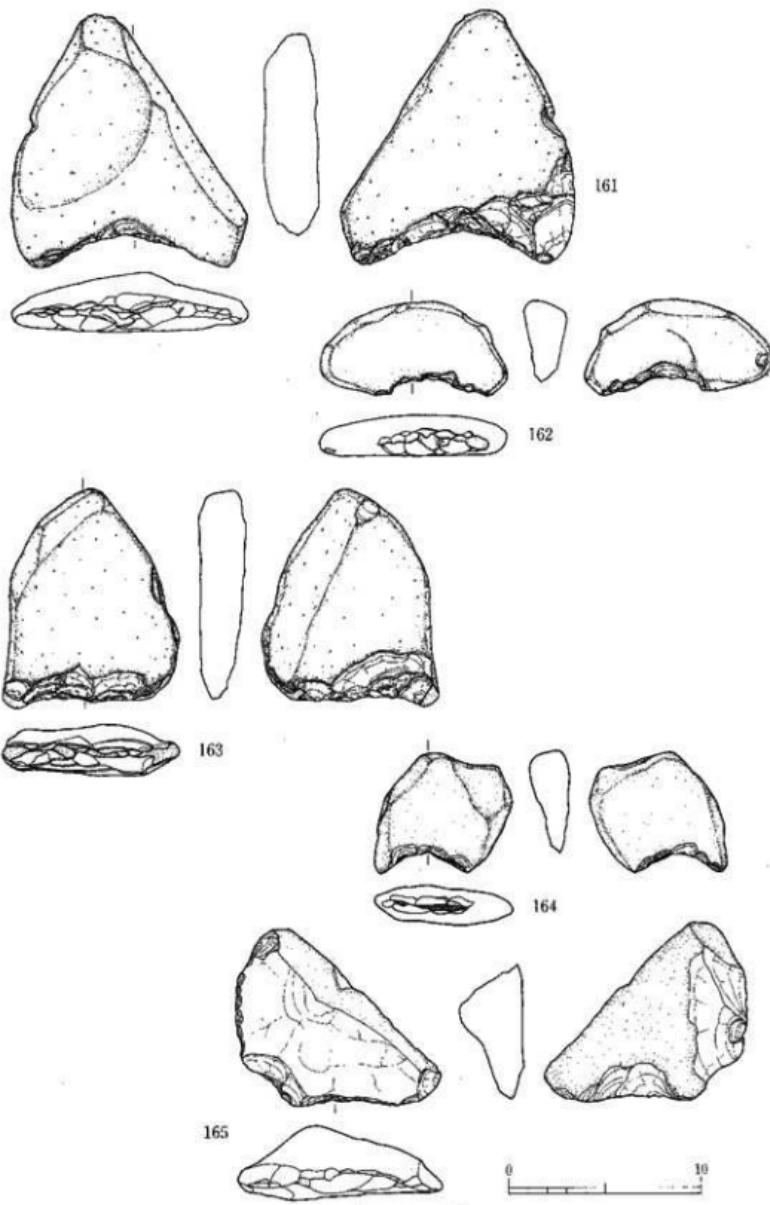
154



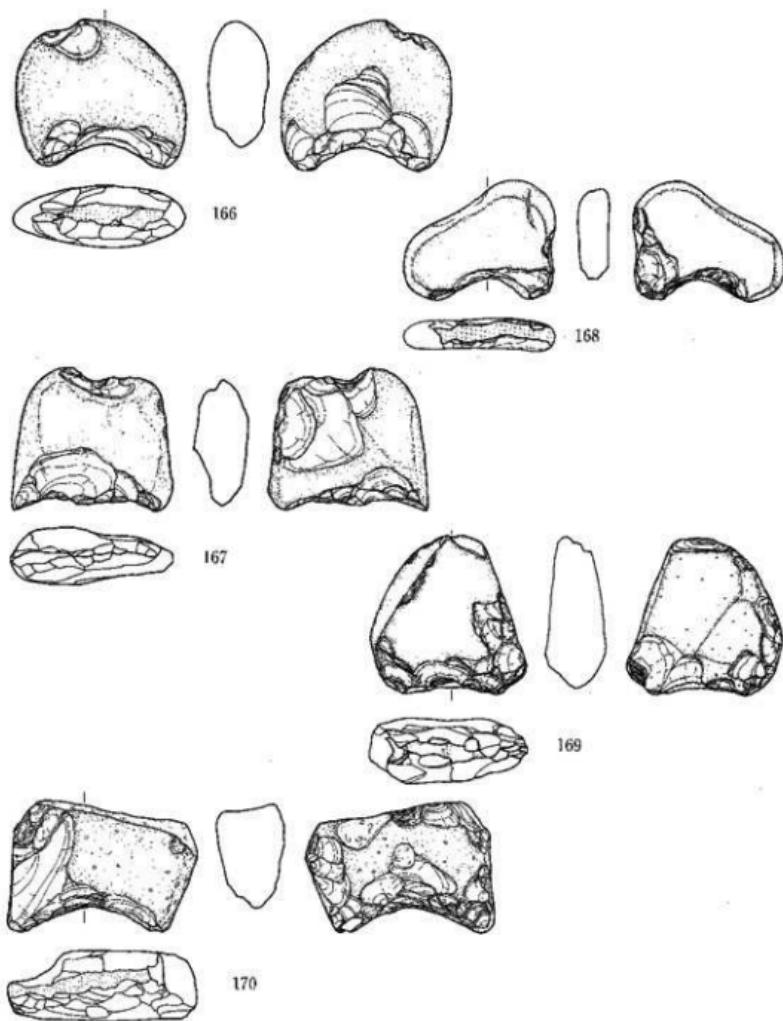
第29図 えぐり入り繰器



第30図 えぐり入り歯器

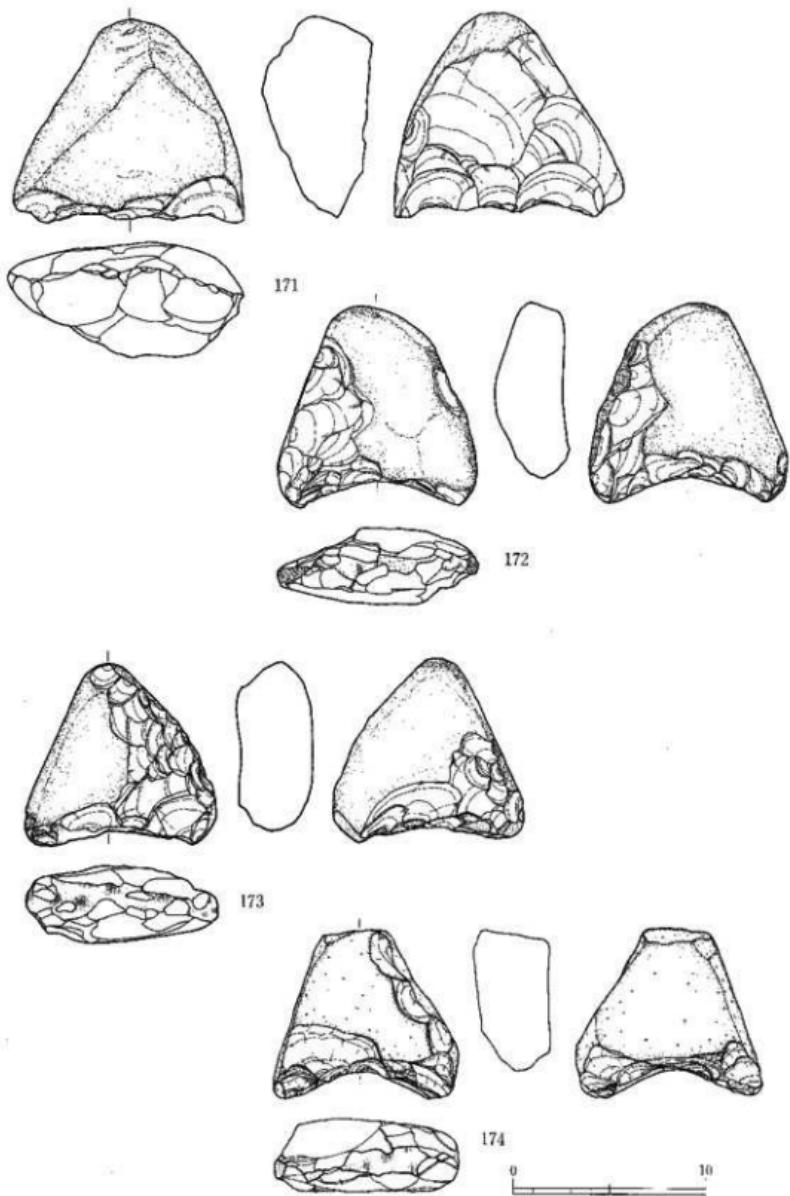


第31図 えぐり入り歯器

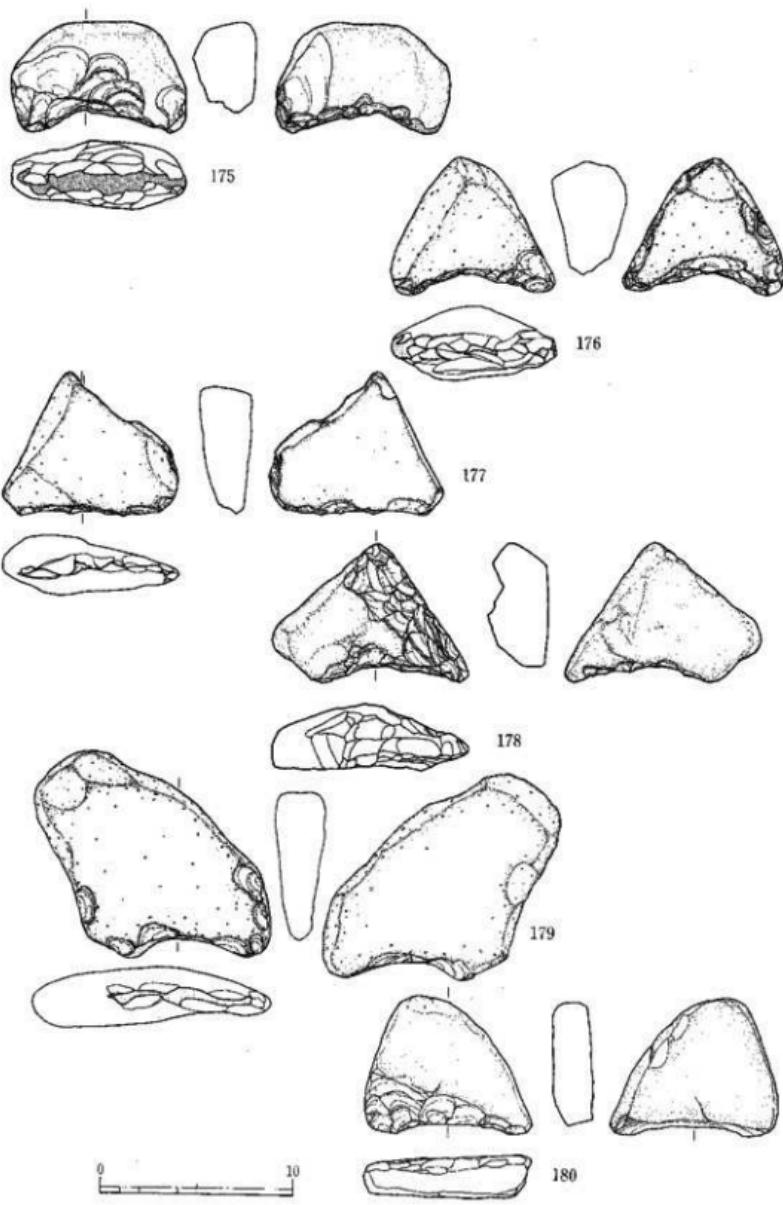


0 10

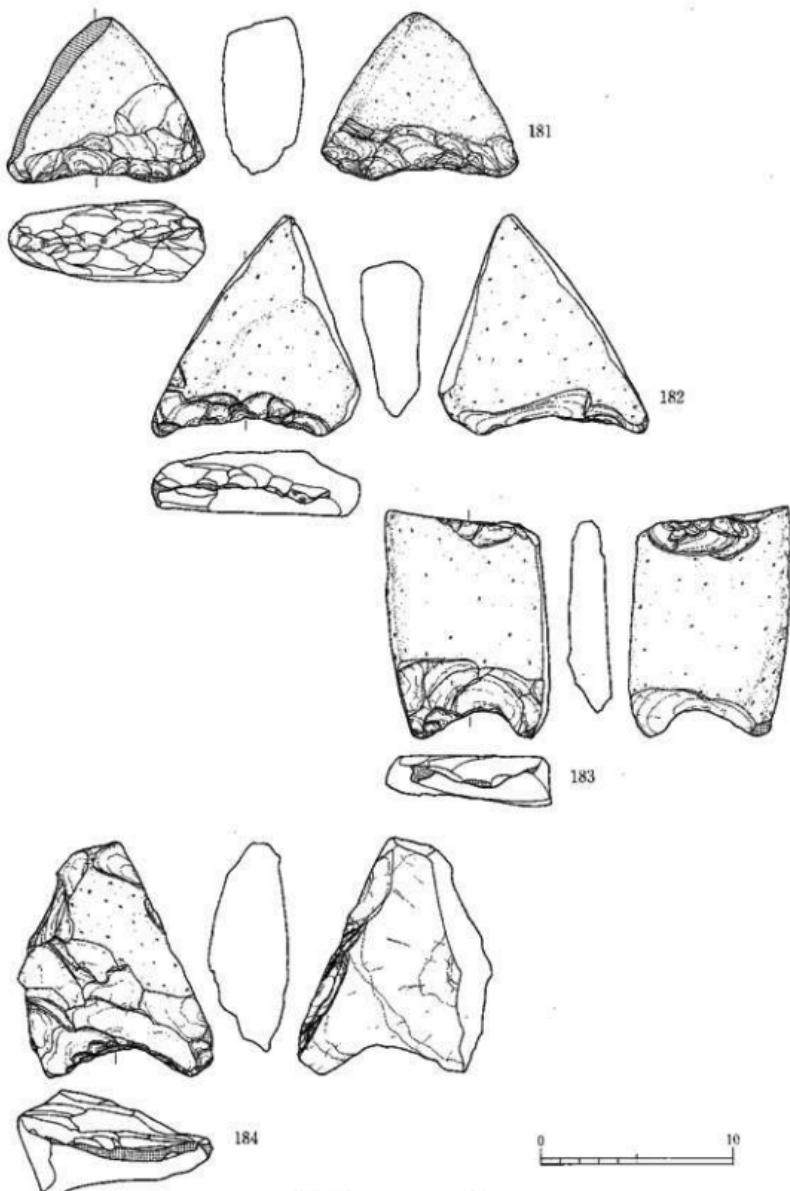
第32図 えぐり入り歯器



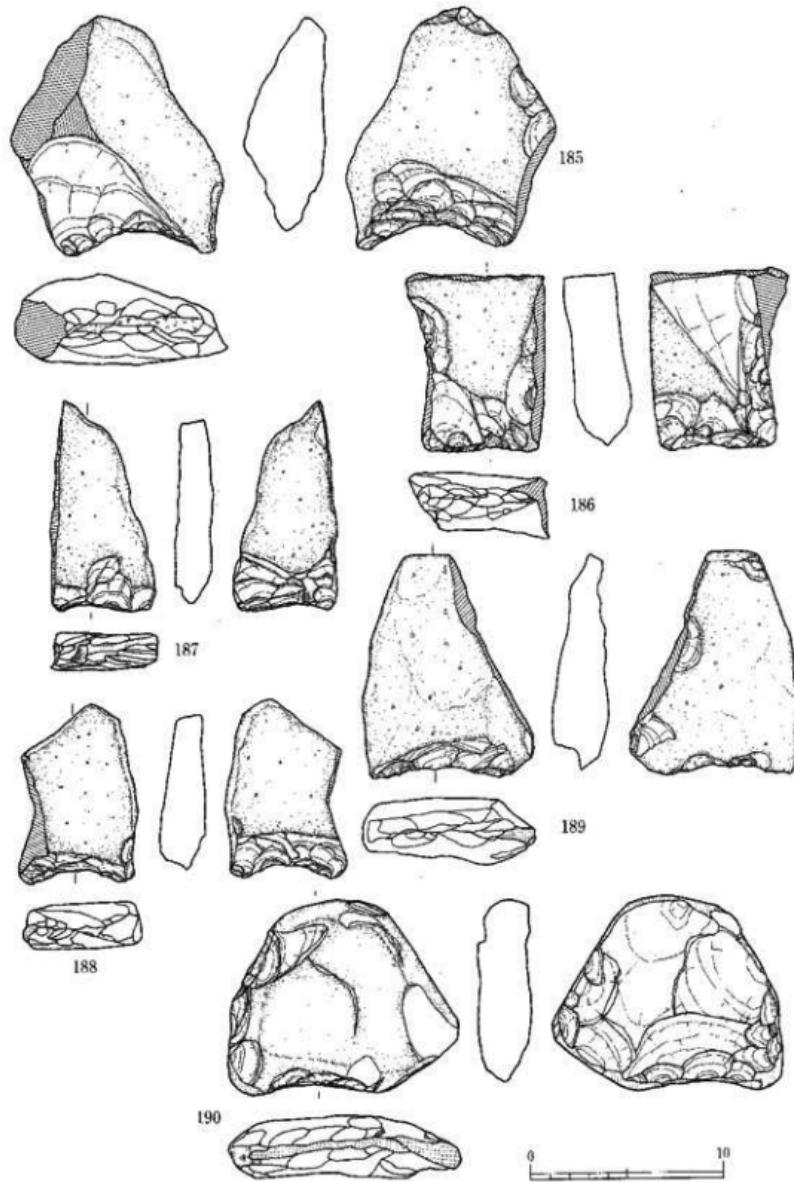
第33図 えぐり入り殻器



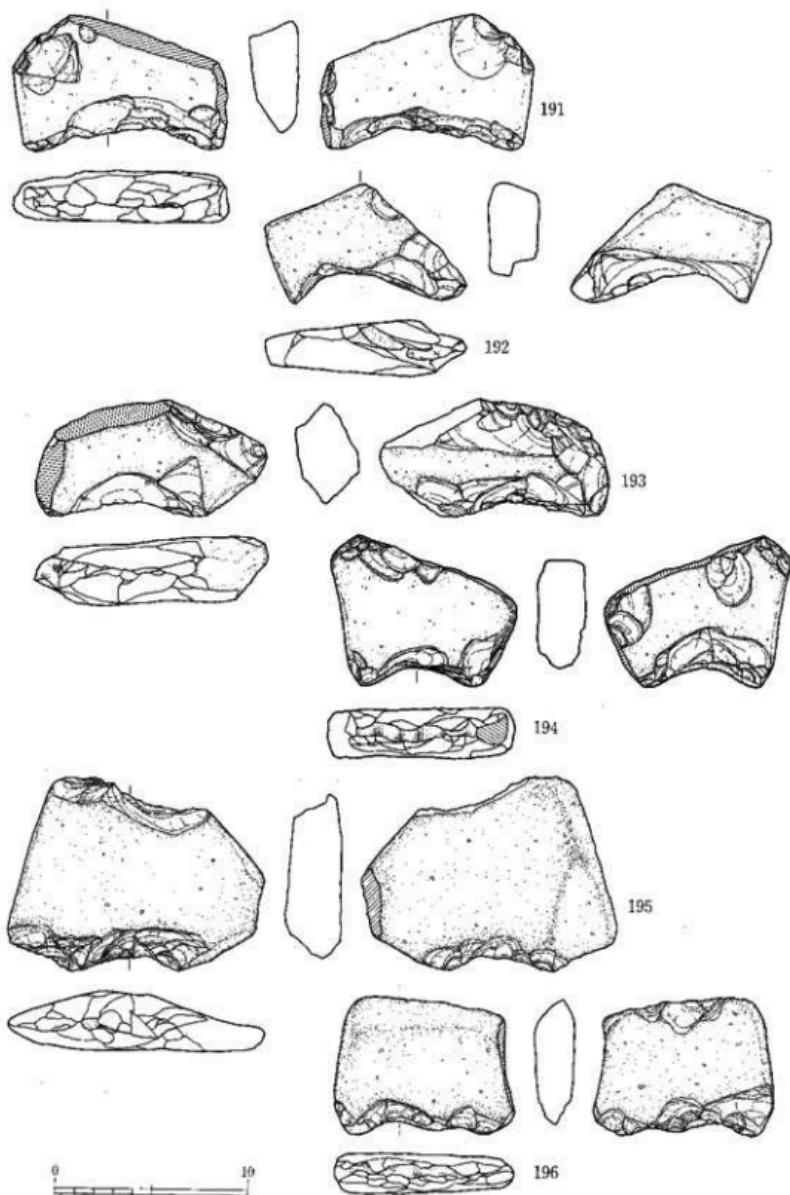
第34図 えぐり入り硃器



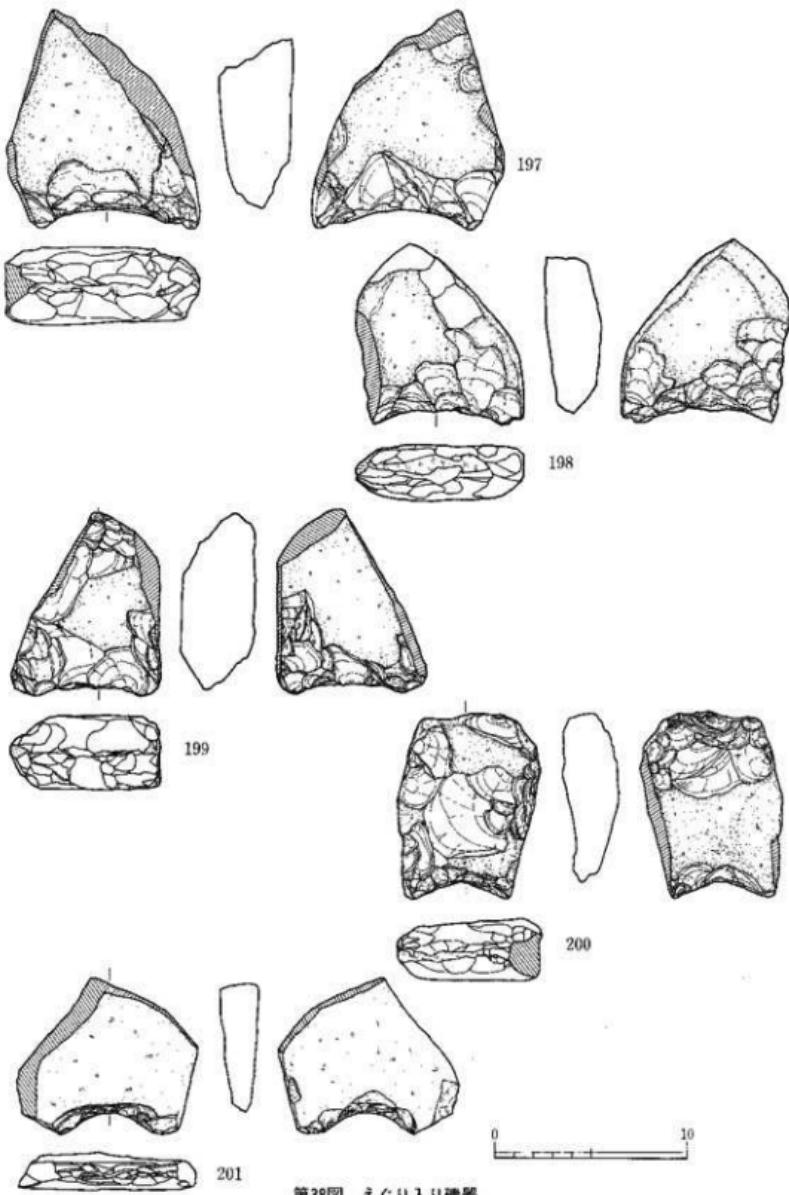
第35図 えぐり入り歯器



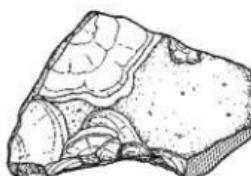
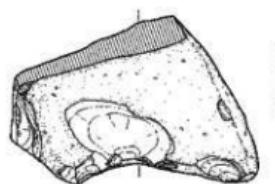
第36図 えぐり入り歯器



第37図 えぐり入り歯器



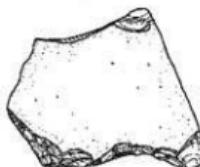
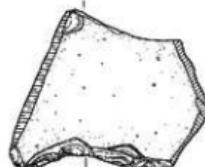
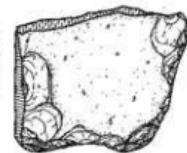
第38図 えぐり入り穀器



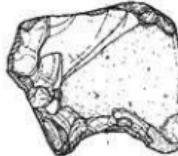
202



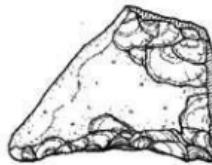
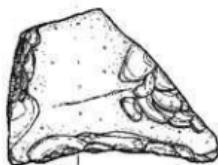
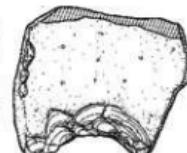
203



204



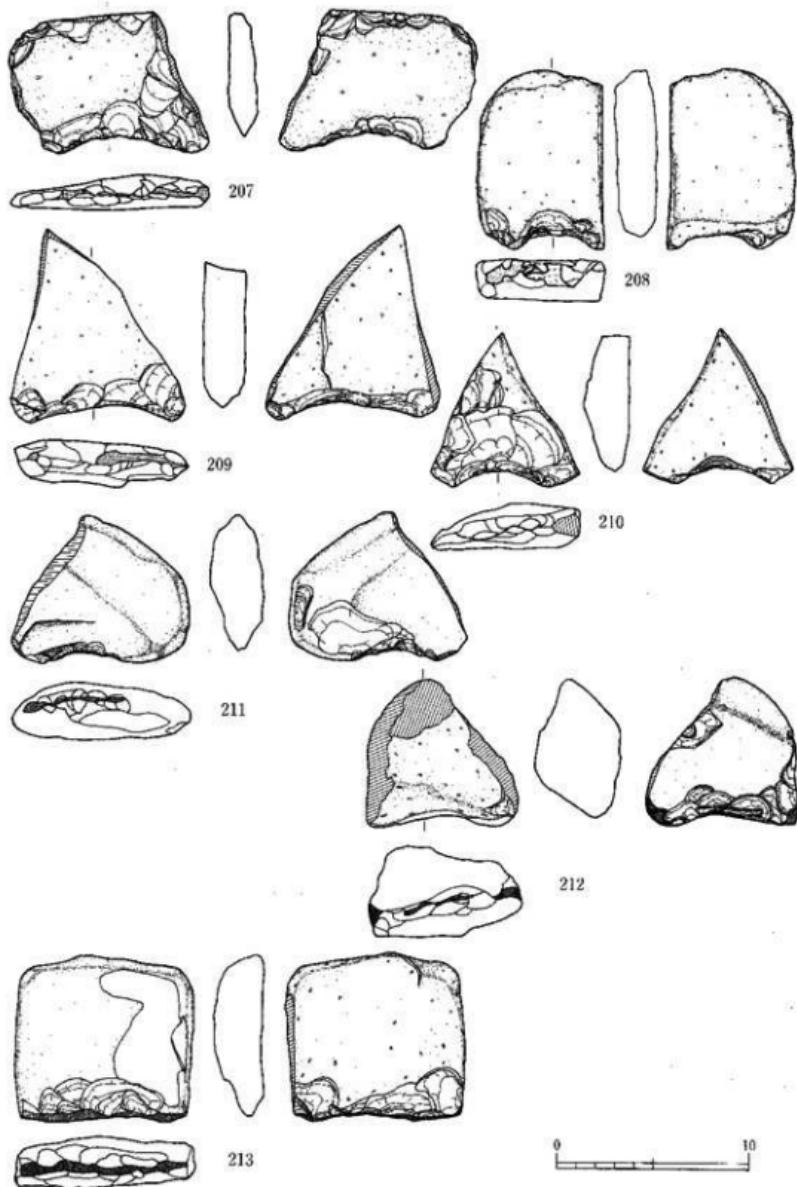
205



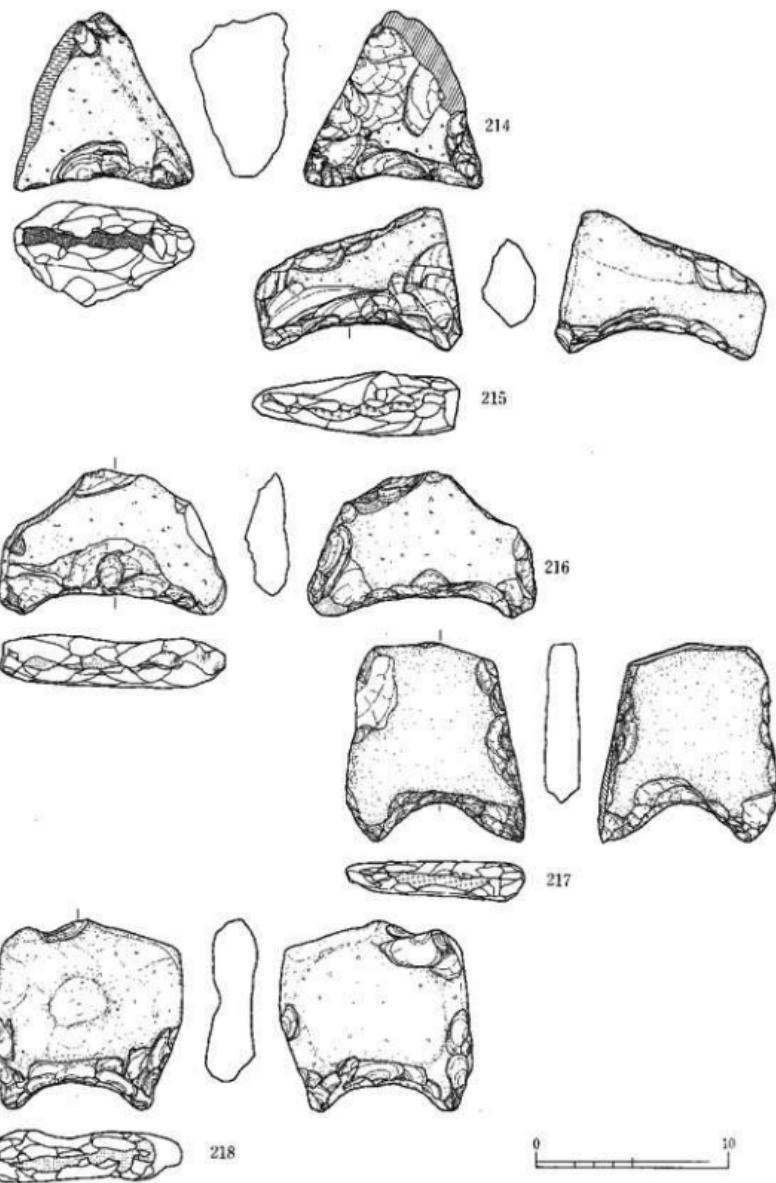
206



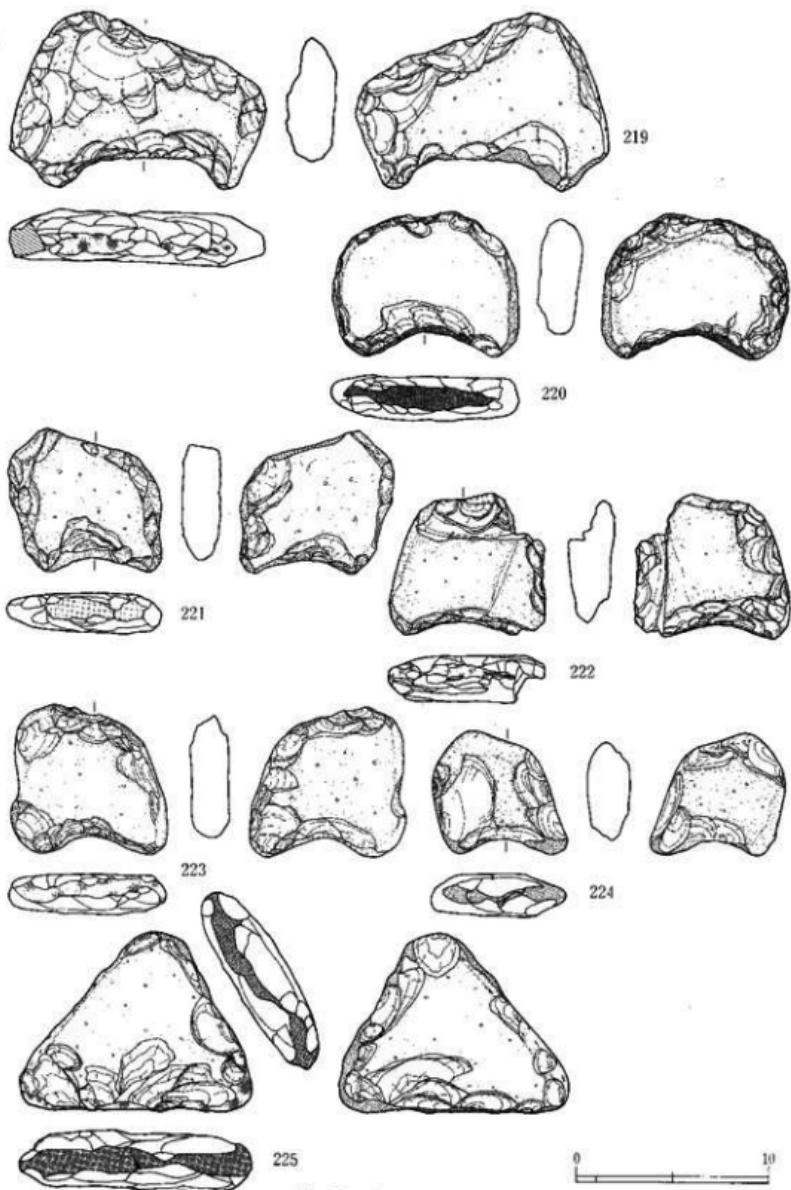
第39図 えぐり入り穀器



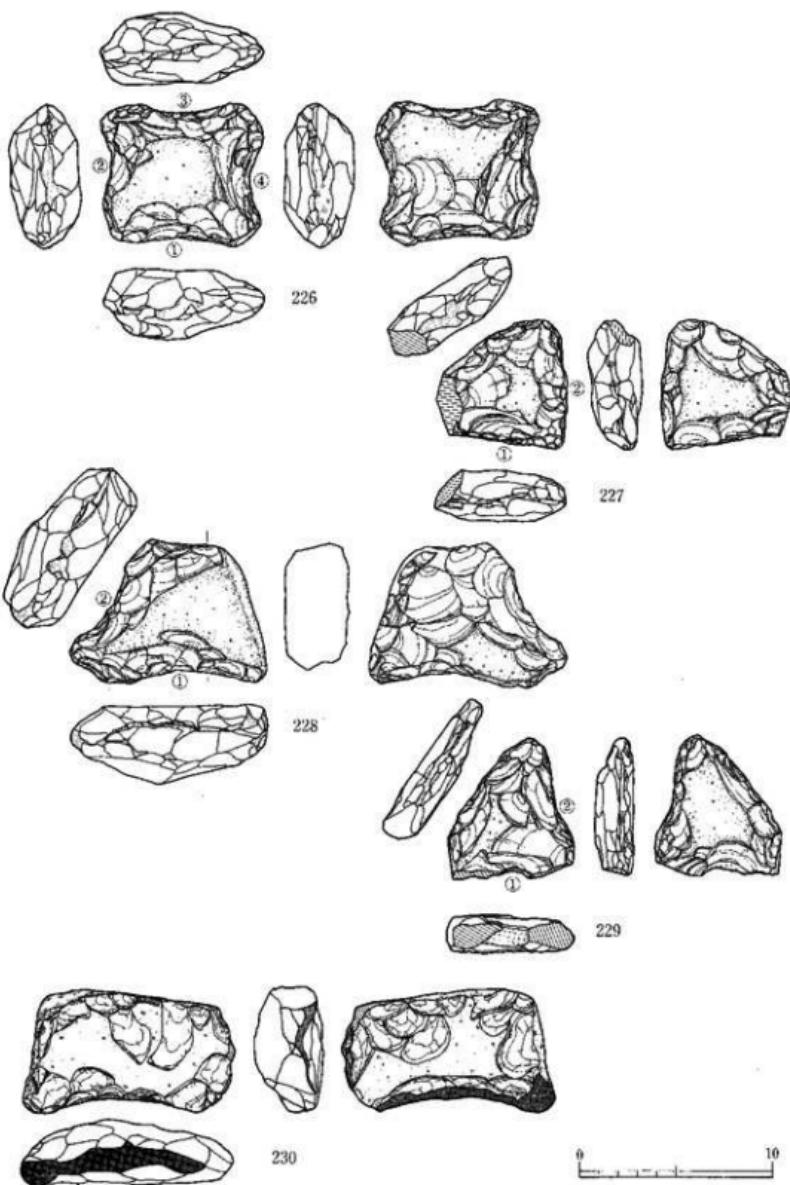
第40図 えぐり入り礫器



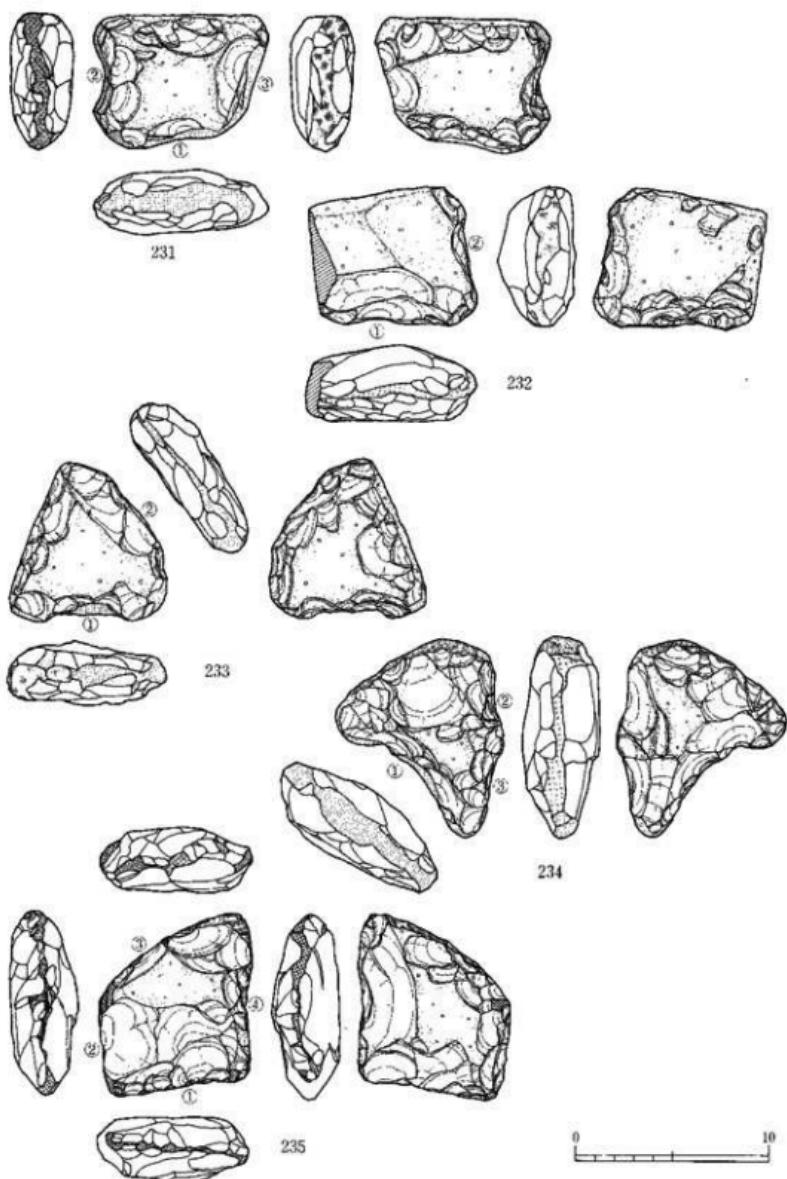
第41図 えぐり入り歯器



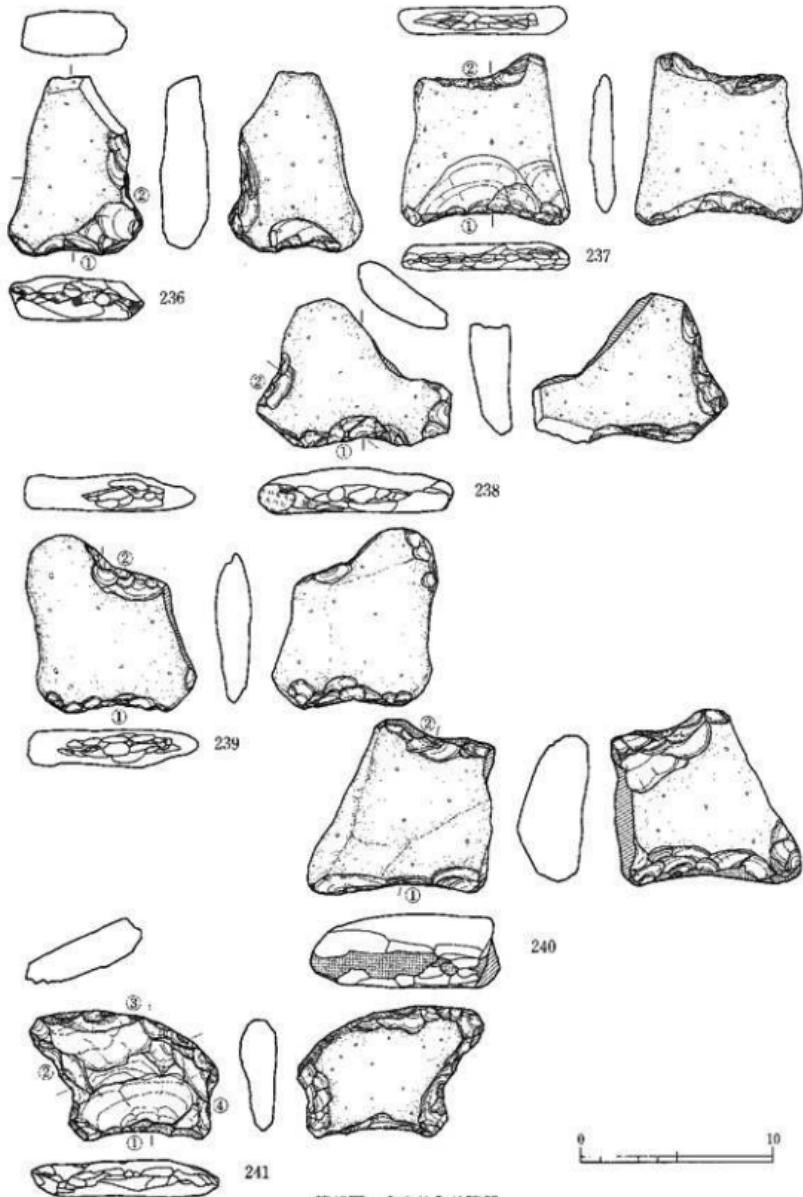
第42図 えぐり入り殻器



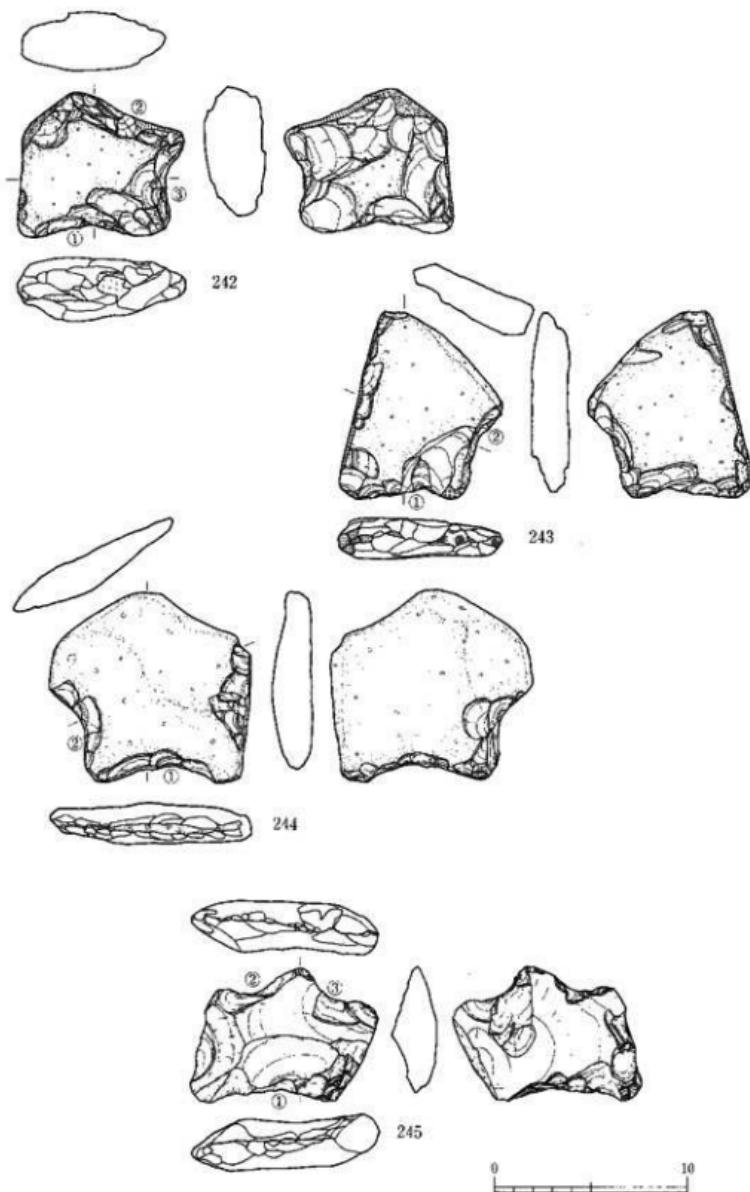
第43図 えぐり入り歯器



第44図 えぐり入り礫器



第45図 えぐり入り歯器



第46図 えぐり入り砾器

えぐり入り礫器計測表

No	出点	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	刃幅	深さ	備考
151	表	13.0	16.4	6.0	1122.57	砂岩	14.2	0.95	
152	3 T 2 Py	8.5	10.1	3.9	426.68	〃	8.9	0.35	
153	表	7.2	11.2	2.4	304.42	凝灰岩	11.0	0.4	
154	〃	12.9	8.0	5.5	786.67	〃	12.3	1.4	
155	〃	10.2	10.7	1.6	198.41	砂岩	6.8	1.7	
156	〃	6.1	9.3	2.0	127.16	凝灰岩	9.4	0.5	
157	〃	7.0	10.1	4.7	416.28	砂岩	7.0	0.5	I
158	〃	7.9	9.2	3.3	284.14	凝灰岩	8.4	0.5	類
159	1 T 2 Py	8.2	5.2	2.3	177.43	〃	5.1	7.5	
160	表	11.2	12.7	2.7	476.07	〃	10.6	1.75	
161	〃	13.2	12.5	3.0	435.51	〃	11.3	1.7	
162	〃	4.4	9.4	2.3	134.78	砂岩	5.8	0.9	
163	〃	10.9	8.9	2.4	333.32	凝灰岩	9.2	0.45	
164	〃	5.6	6.8	2.0	104.56	砂岩	4.7	0.9	
165	1 T 2 Py	10.6	9.3	3.3	269.96	凝灰岩	7.7	0.3	
166	4 T 3 Py	7.7	8.9	3.1	268.85	砂岩	6.7	1.2	
167	一括	7.4	8.3	2.9	214.30	〃	7.5	0.7	
168	4 T 一括	6.0	7.7	1.7	118.32	〃	6.0	1.15	
169	一括	7.7	8.0	2.8	296.40	凝灰岩	7.0	0.4	
170	表	6.8	9.8	3.5	329.92	〃	8.2	1.3	
171	〃	11.9	10.0	5.0	781.14	砂岩	11.8	0.7	
172	〃	10.4	10.4	3.9	478.37	〃	8.2	1.3	II
173	一括	9.5	11.0	3.9	403.91	〃	10.0	0.7	類
174	表	8.9	9.8	4.0	446.88	〃	9.5	1.4	
175	1 T 3 Py	9.1	5.0	3.3	223.61	凝灰岩	8.8	1.15	
176	表	7.2	8.5	3.9	209.76	〃	8.5	1.0	
177	〃	7.2	8.7	3.0	204.57	砂岩	7.3	0.3	
178	1 T 3 Py	9.5	6.4	3.1	232.36	〃	8.2	0.8	
179	表	10.8	12.4	2.7	447.67	凝灰岩	8.5	1.0	
180	2 T 2 Py	8.7	6.7	2.1	182.25	砂岩	8.5	0.4	
181	表	8.6	10.2	4.2	395.99	〃	10.2	0.5	↑
182	4 T 2 Py	10.4	10.9	3.2	402.03	凝灰岩	9.4	0.9	
183	1 T 3 Py	8.3	11.6	2.2	361.09	〃	6.4	1.3	
184	〃	9.5	10.8	4.2	537.14	〃	8.5	1.4	
185	表	12.4	11.0	4.2	563.30	〃	8.1	10.2	
186	表	9.4	7.3	3.0	319.07	凝灰岩	5.2	0.3	
187	4 T 1 Py	10.9	5.4	2.0	162.44	〃	5.4	0.3	
188	1 T 2 Py	9.2	6.3	2.4	191.65	〃	5.8	0.7	
189	3 T 2 Py	8.6	11.2	2.9	366.94	〃	8.7	0.5	
190	5 T 2 Py	10.2	12.1	2.8	485.56	砂岩	12.0	0.5	III
191	表	7.0	11.1	2.6	268.41	凝灰岩	10.7	1.2	類
192	1 T 2 Py	6.1	10.5	2.7	191.95	〃	9.2	1.5	
193	1 T 4 Py	6.1	12.0	3.4	292.58	〃	9.0	0.8	
194	表	7.9	9.7	2.6	281.73	〃	8.5	0.9	
195	一括	10.1	13.3	3.0	464.24	〃	8.7	0.8	
196	表	7.3	9.4	2.1	211.04	〃	9.2	0.7	
197	3 T 1 Py	11.3	10.0	3.8	556.67	〃	8.5	1.0	
198	表	9.4	8.9	3.0	332.77	〃	8.0	0.7	
199	一括	9.6	7.8	4.0	352.97	〃	7.8	0.4	
200	1 T 4 Py	9.7	7.4	3.0	287.48	〃	6.0	0.9	↓

えぐり入り機器計測表

No.	出力点	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	刃幅	深さ	備考
201	表	8.1	9.4	2.0	200.75	II	6.0	1.0	A
202	3 T 2 Py	7.2	8.8	2.2	402.79	凝灰岩	9.5	1.0	
203	1 T 2 Py	7.6	9.1	2.9	310.43	II	6.6	0.4	
204	1 T 3 Py	8.3	10.4	2.2	236.27	II	9.0	0.8	
205	表	7.8	9.4	2.3	296.66	II	6.6	1.2	
206	II	7.4	11.1	4.4	431.56	II	11.1	0.7	
207	II	7.3	10.5	1.6	167.13	II	8.0	0.9	
208	II	8.9	6.4	2.2	244.33	砂岩	5.0	0.8	III
209	5 T 2 Py	9.0	9.1	2.2	238.73	凝灰岩	8.4	0.9	類
210	一括	7.3	7.7	2.3	145.83	II	5.0	0.8	
211	表	9.0	7.2	2.7	221.22	砂岩	5.5	0.5	
212	括	8.2	7.9	4.4	293.47	凝灰岩	8.0	0.6	
213	2 T 1 Py	8.4	9.3	2.6	336.02	砂岩	8.8	0.3	
214	表	8.6	9.3	5.0	396.14	凝灰岩	9.3	0.6	
215	1 T 2 Py	7.5	10.8	2.8	241.25	II	9.4	1.3	
216	表	7.6	11.9	2.3	268.65	II	11.4	1.0	
217	5 T 2 Py	10.3	9.3	1.8	253.35	II	8.4	2.0	
218	3 T 2 Py	9.9	9.0	2.6	348.60	II	8.6	1.3	
219	表	9.2	13.3	2.7	398.59	II	10.3	1.6	
220	II	6.4	9.7	2.1	237.52	II	7.9	1.2	IV
221	表	7.4	8.0	2.0	174.11	凝灰岩	5.2	0.7	類
222	II	7.5	8.2	2.4	178.60	II	6.6	0.7	
223	II	7.8	8.2	2.1	191.97	II	8.0	1.0	
224	II	6.4	7.0	2.3	114.06	II	6.5	0.7	
225	II	8.1	6.6	2.1	405.56	II	10.3	0.2	
226	一括	7.5	8.6	3.7	287.12	II	7.5	0.4	4面↑
②							6.0	0.6	
③							8.3	0.4	
④							7.2	0.7	
227	4 T 4 Py	6.7	6.9	2.9	146.83	II	葉線	的	2面
②							直線	的	
228	1 T 3 Py	7.5	10.3	3.2	349.69	II	8.7	0.7	2面
②							7.3	0.6	
229	1 T 4 Py	7.3	6.6	2.1	109.44	II	欠損	0.4	2面
②							0.7	0.4	
230	表	5.9	10.7	3.6	323.76	II	9.2	0.8	
231	5 T 2 Py	6.9	9.2	3.4	298.79	II	6.0	0.15	3面
②							5.5	0.55	
③							4.5	0.1	類
232	表	7.1	8.5	4.1	342.63	II	7.5	0.25	2面
②							6.7	0.3	
233	II	7.9	8.1	3.3	255.28	II	7.6	0.3	2面
②							4.7	直線	
234	4 T 4 Py	10.2	8.6	4.0	317.74	II	9.5	1.0	3面
②							4.5	0.2	
③							5.0	0.2	
235	1 T 2 Py	8.8	7.8	3.5	301.47	II	6.5	0.2	4面
②							5.0	直線	
③							8.5	張り出し	
④							8.0	0.3	↓

えぐり入り礫器計測表

No	出土点	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	刃幅	深さ	備考
236	表	9.4	6.9	2.5	190.40	石	6.4	0.3	2面
(2)							4.8	0.5	
237	表	8.8	8.8	1.4	144.63	凝灰岩	8.2	0.6	2面
(2)							6.4	0.7	
238	1T 2Py	7.6	10.3	2.1	187.53	石	6.2	0.5	2面
(2)							5.5	0.3	
239	表	9.3	8.7	1.9	202.03	凝灰岩	6.2	0.4	2面
(2)							4.7	0.4	
240	石	9.1	9.8	3.7	425.72	石	9.2	0.5	2面
(2)							6.2	0.4	
241	4T 4Py	6.7	9.8	2.0	143.50	石	6.0	0.5	4面
(2)							3.5	0.8	VI
(3)							9.8	裏出し	類
(4)							0.4	0.25	
242	表	7.5	8.7	3.4	261.63	石	7.5	0.6	3面
(2)							6.0	0.2	
(3)							5.0	0.6	
243	石	10.0	7.6	1.9	220.71	石	6.0	0.5	2面
(2)							5.0	0.5	
244	石	10.0	10.7	2.2	244.18	石	7.5	0.8	2面
(2)							5.2	0.7	
245	1T一括	9.0	6.5	2.3	179.80	安山岩	7.5	0.7	3面
(2)							5.0	0.6	
(3)							4.5	0.6	

5. 繰器

遺跡から、7点の繰器が出上した。いずれも扁平な自然縁を用いたものである。丸い扁平な自然縁の側辺部に両面からの剥離によって刃部が作られたもの(246・247・248)。不定型な自然縁を切断し、ほぼ全側面に剥離を行ない刃部が作られたもの(249・250・251)。側辺部の敲打された磨石を利用し、片面からの剥離によって刃部が作られたもの(255)。平坦部・先端部にまで剥離がみられ、打製石斧に似るが、背面は分厚く自然面が残されており、ここでは、繰器とした。

6. 円盤状石器

用途不明の石器で、遺跡からは「凹み石」として使用されている146と、253・254を円盤状石器とした。三点とも側辺部全域に剥離が行なわれ、その剥離面は平坦部にまで見られる。254は、欠損しているものの、刃部である側辺部にツブレがみられる。

7. 磨製石斧

遺跡から5点の表面採集品と10点の出土品を確認した。その中で磨製石斧として完全な形状を保つものは256の一点だけであるが、次のものは欠損品ではあるが、敲打による器面調整を行

なった後に研磨を受けたもので、磨製石斧として完成されたと思われるもの257・258・259・260・261・262・263・268・269・270。打製石斧状に剝離を施してあるが、敲打による器面調整が見られず、剝離の稜線部に部分的な研磨痕が見られるもの264・265・266。剝離の後に器面調整の敲打を行なった物で、研磨面が見られない段階のもの267。の15点を磨製石斧として取り上げた。

8. 石 棒

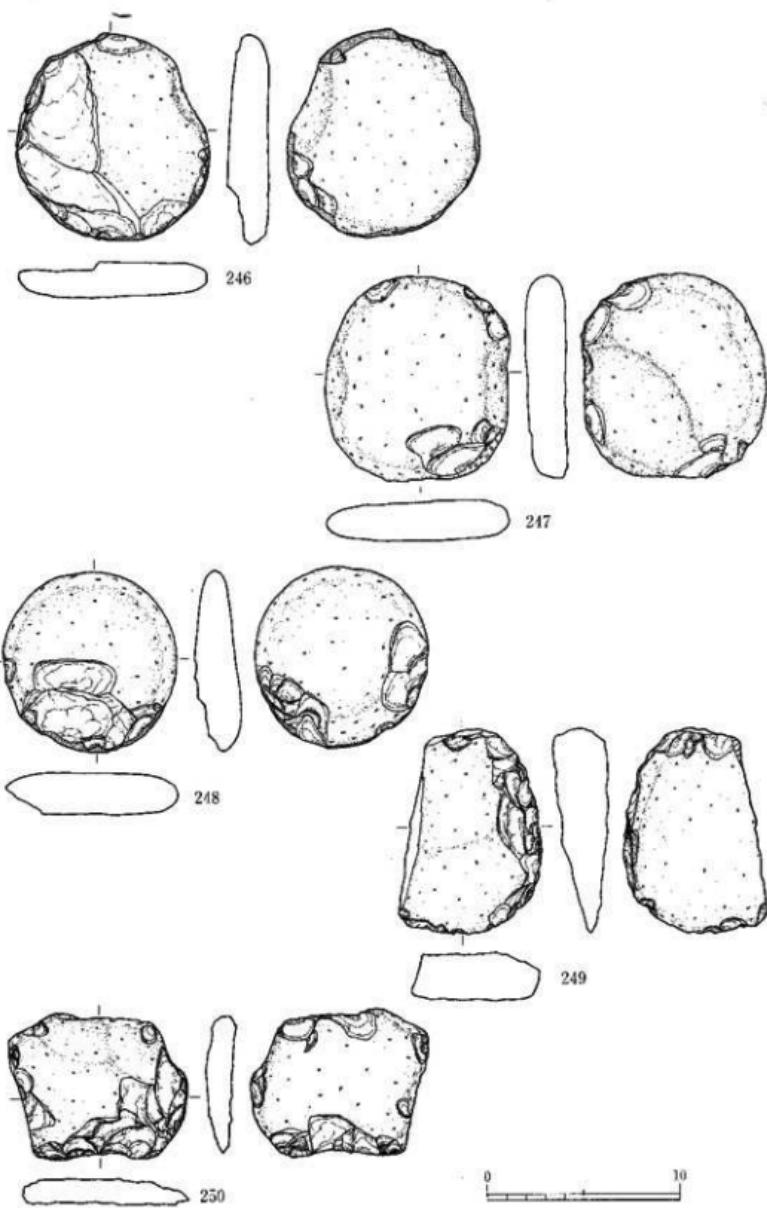
磨製石斧と同じように、剝離による丸い成型を行なった後に、敲打による器面調整を行ないさらに研磨に寄って完成されたものである。欠損品ではあるが、前項の磨製石斧と比較して見ると石斧の断面はほぼ凸レンズ状に梢円形をなすのにたいして、石棒としたものはほぼ円形をなし、欠損部からして、さらにその形状は伸びて行くものと考え。ここでは石棒としてとらえた。271

9. 石 盆

扁平な自然礫を片面だけ使用している。使用面は長軸方向に弓状に中央部が凹み、横断面も同じように中央部が緩やかに凹んでいる。磨石との併用により、中央部が凹むものと思われる。272

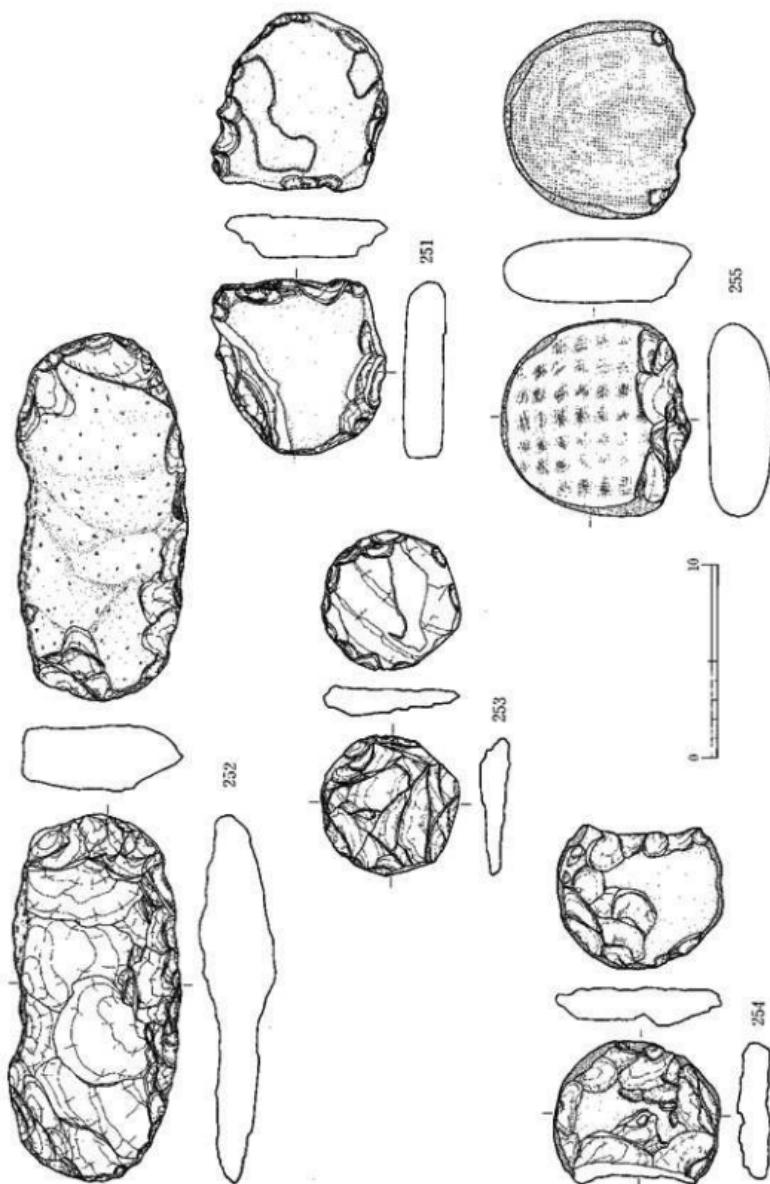
彫器・円盤状石器・磨製石斧・石棒・石皿計測表

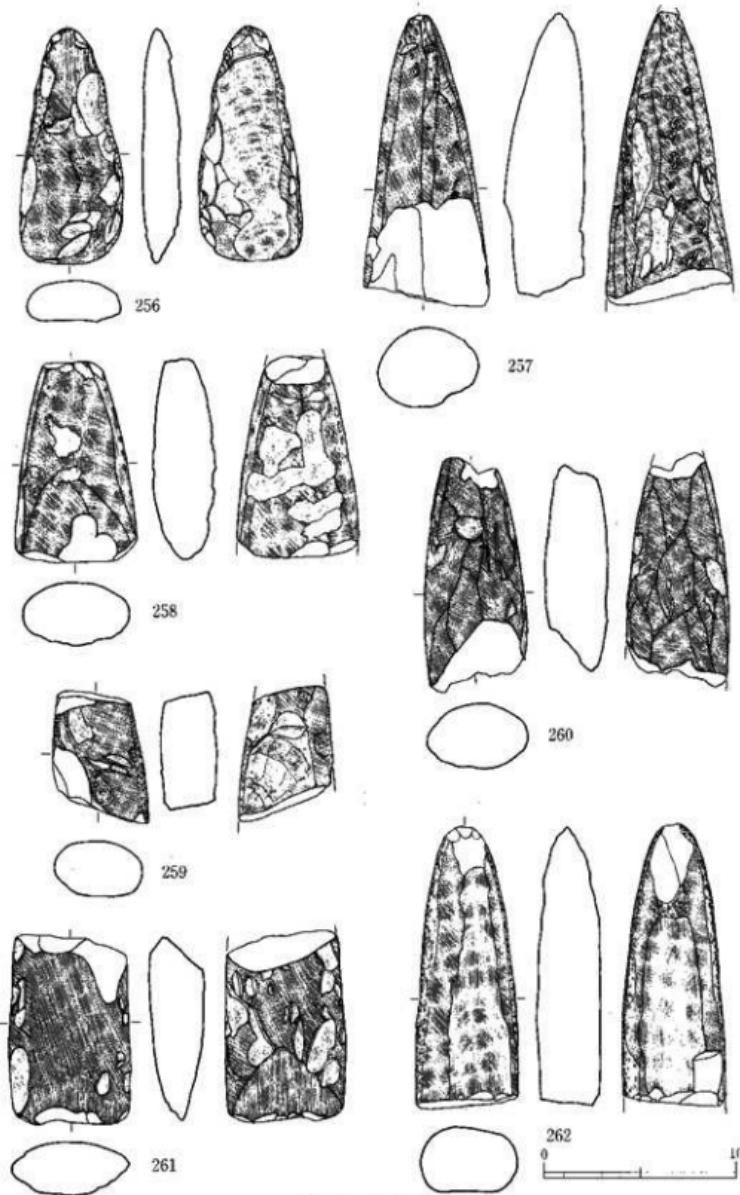
No.	出上点	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
246	2 T I 柄	10.7	10.7	2.2	271.07	凝灰岩	彫器
247	4 T I 層	10.5	9.5	2.2	303.71	〃	〃
248	5 T II 層	9.4	9.05	2.3	272.74	〃	〃
249	表面採集	10.55	(6.7)	2.75	259.08	〃	〃
250	4 T III 層	7.15	8.65	1.45	155.49	砂岩	〃
251	4 T IV 層	8.55	9.0	2.2	246.93	砂岩	〃
252	表面採集	8.35	18.95	3.75	755.94	凝灰岩	〃
253	2 T III 層	7.1	7.2	1.5	80.51	砂岩	円盤状石器
254	表面採集	8.6	(7.0)	1.9	152.48	凝灰岩	円盤状石器
255	1 T III 層	(9.8)	10.0	3.4	519.56	砂岩	彫器
256	表	12.3	4.9	2.1	183.71	安山岩	磨製石斧
257	3 T I 楽	(14.7)	5.4	4.1	504.28	頃岩	〃
258	4 T III 楽	(10.4)	5.6	3.2	〃	砂岩	〃
259	3 T I 楽	(6.3)	4.6	3.0	145.22	安山岩	〃
260	表	(11.0)	5.3	3.3	277.63	蛇紋岩	〃
261	表	(9.6)	6.25	2.8	256.21	砂岩	〃
262	1 T II 楽	(14.5)	4.85	3.25	413.66	安山岩	〃
263	2 T V 層	(4.2)	3.15	1.6	25.20	安山岩	〃
264	表	(6.95)	5.5	2.2	103.13	安山岩	〃
265	2 T V 層	(6.35)	4.0	1.8	70.18	蛇紋岩	〃
266	4 T III 層	(8.1)	5.2	2.8	181.78	安山岩	〃
267	1 T II 層	(11.4)	5.0	3.1	233.35	蛇紋岩	〃
268	2 T VII 層	(6.8)	3.3	1.3	35.14	蛇紋岩	〃
269	表	(8.4)	3.15	1.4	66.04	安山岩	〃
270	2 T VII 層	(6.15)	4.7	1.35	63.53	蛇紋岩	〃
271	2 T VII 層	(16.75)	5.8	5.8	792.80	安山岩	石棒
272		33.5	19.0	8.5	7000	砂岩	石皿



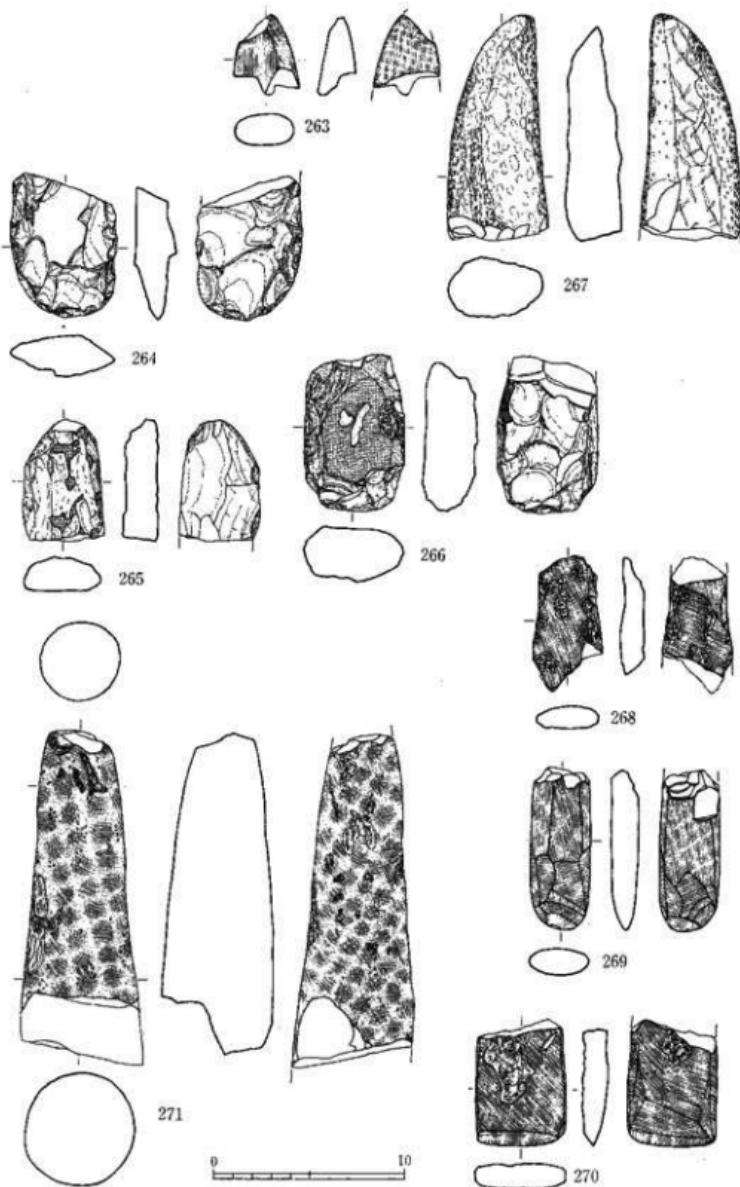
第47図 花粉器

第48図 碾器・円盤状石器

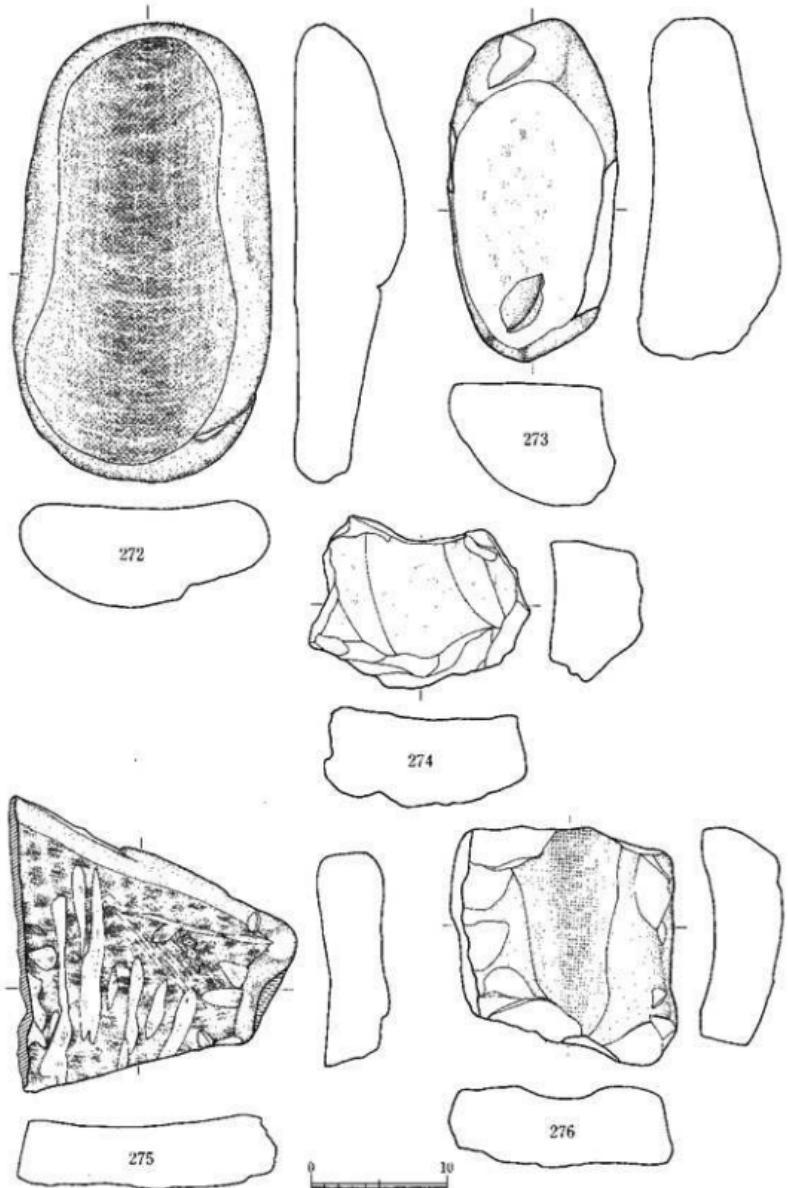




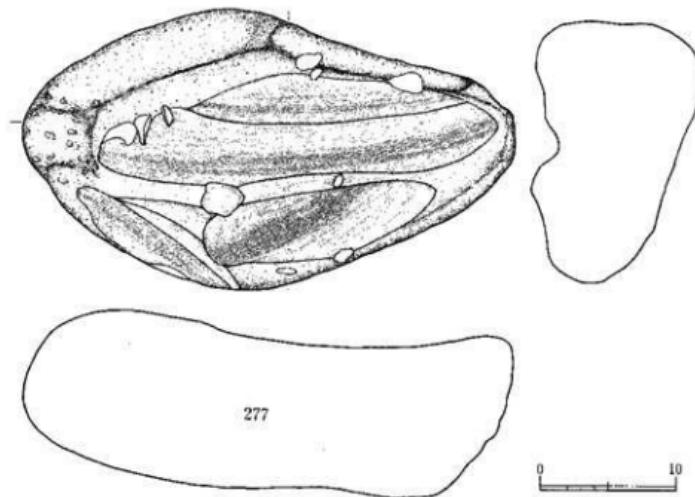
第49図 磨製石斧



第50図 磨製石斧・石棒



第51図 石皿・研磨石



第52図 研磨石

10. 研磨石

275の第2トレンチ…括資料を除いた他は石垣石として使用されていたものの資料である。ここでは、磨石を観察して磨石にみられる研磨痕では作れないような凹みを持つ物を磨製石斧を研磨する為の砥石としてとらえた。しかし磨製石斧の研磨による擦痕を細かく観察すると刃部を除いた他は、長軸方向にたいして斜めに痕跡は残っており、石皿的な物でも研磨は可能なものと思われ273の長軸方向に対しても緩やかな凹みを持ち横断面が直線的な物は砥石としてあつかった。その他の274・275・276・277は、刃部を研磨した痕跡と思われる凹みが観察できる。

研磨石計測表

No	出土点	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
273		25.5	12.3	9.5	4000	砂岩	研磨石
274		11.1	16.0	6.5	1000	凝灰岩	〃
275		21.4	21.4	5.0	2500	砂岩	〃
276		17.4	17.0	5.0	2500	砂岩	〃
277		36.5	21.0	12.5	9000	砂岩	〃

11. 石 鋸

石鋸は西北九州を中心に分布している。その分布圏の中に対馬を含め、韓国の東三河貝塚・山老大島貝塚を含んでいることは、当時の日本と韓国の相互関係を示唆する遺物と言ふ事が言えるのではないか。

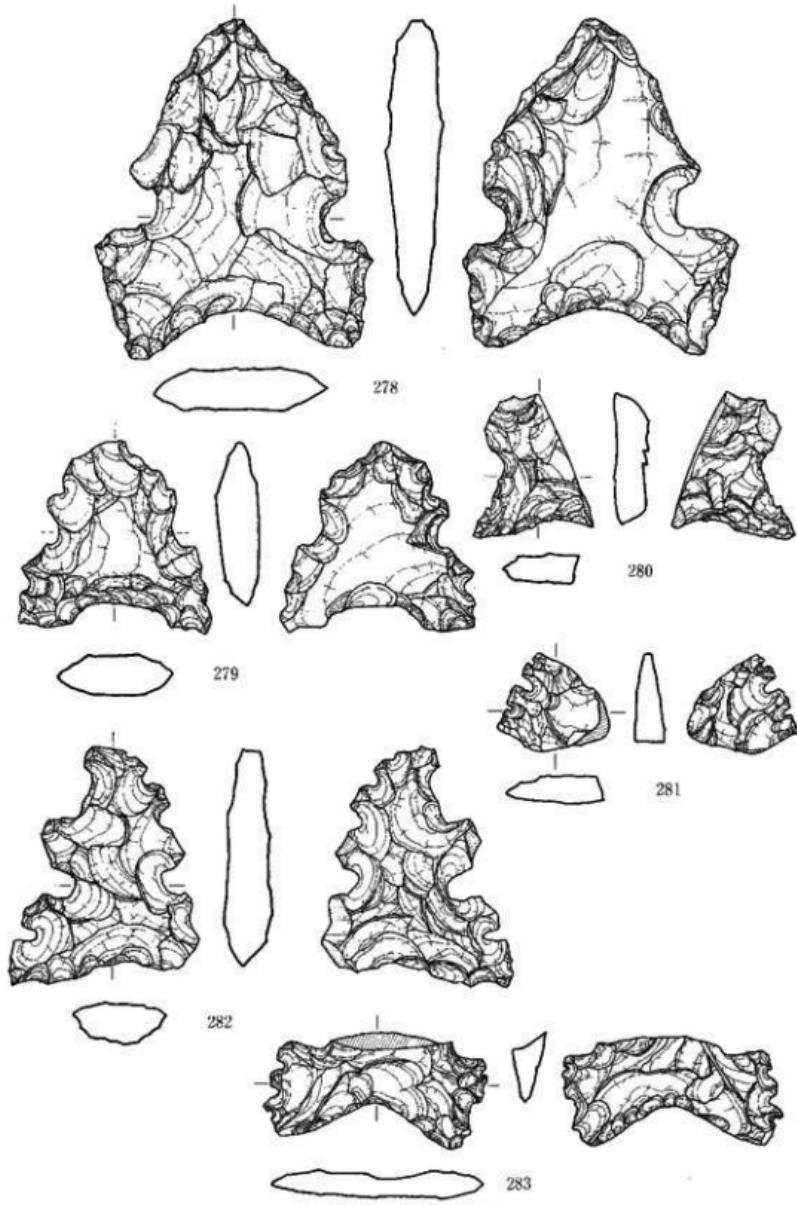
道跡から今日まで鋸頭とされている6点と、新たに鋸頭として捕らえられるもの7点が出土した。それらを形状的に分類してみた。

1. 基部は浅く凹み、側辺部は外に張り出しながら、中央部に大きなえぐりを持ち、先端部に尖るもの。278
2. 基部は浅く凹み、側辺部は先端部に掛けて内行し、中央部に大きなえぐりを持ち、更に基部より先端部に鋸齒状の小さなえぐりを持つもの。279・282・283・
3. 欠損品ではあるが、現存する物から次の形状が考えられる。
器部は浅く凹み、側辺部は尖頭部に内行するが。1・2とは異なり、中央部が凸きするものとおもわれる。280
4. 側辺部のみの欠損品で、鋸齒状えぐりの深いものと深いものとを交互につくったのとおもわれる。281
5. 基部をやや深めに凹め、直線部はほぼ平行に先端部まで伸び、先端部は側辺部に対して直角的に齒部を造り出したもの。284
6. 正三角形の側辺部を凹め、それぞれの先端部を尖らしたもの。288
7. 基部は凹み、側辺基部を大きくえぐり、側辺部が基部より幅広く出て、先端部に向けて内行する物で、側辺部には鋸齒状の加工を施したもの。289
8. 尖頭器のように向先端部を尖らしたもの。286・287・290
9. 石鐵的なもので基部は脹らみ、側辺部も脹らんで先端部を作り出したもので、側辺に浅い鋸齒状の加工を施したもの。285

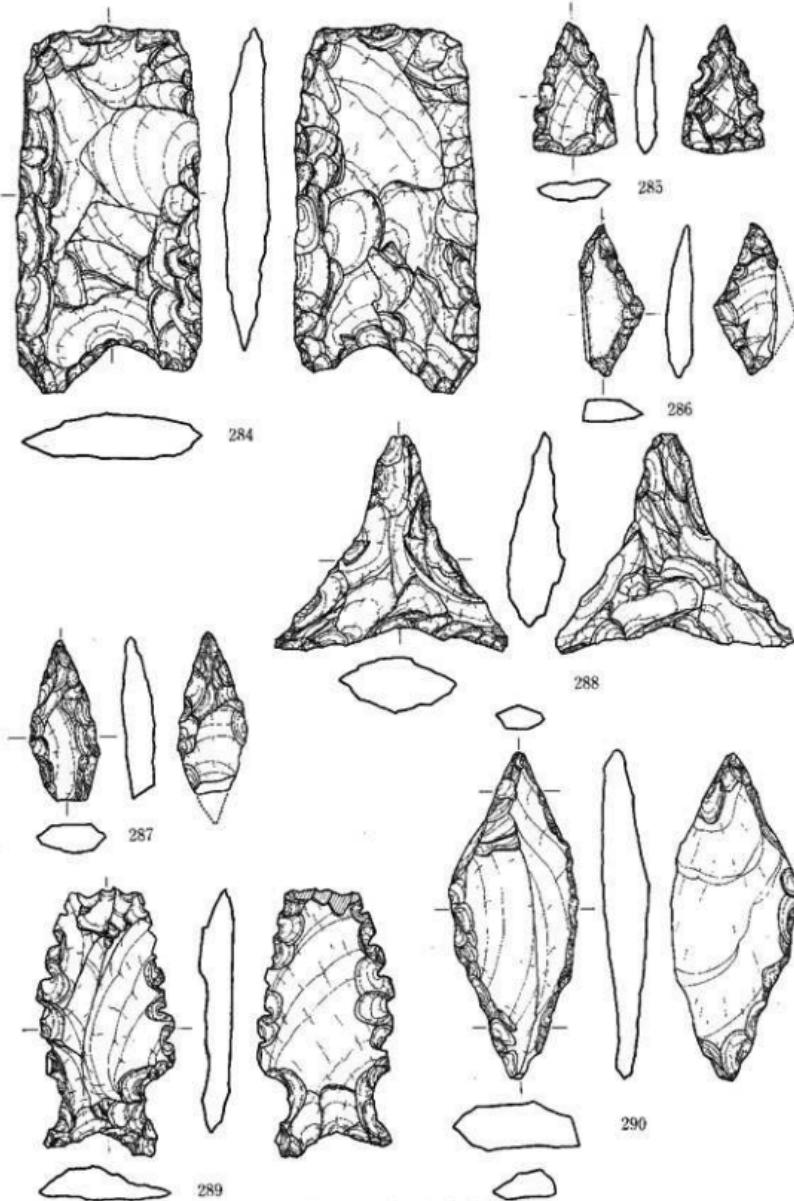
12. 石 鋸

道跡から7点出土した。全体の形状を保つものは291・293・295の三点で、残りは欠損品であった。その中の形状分類を試みた。

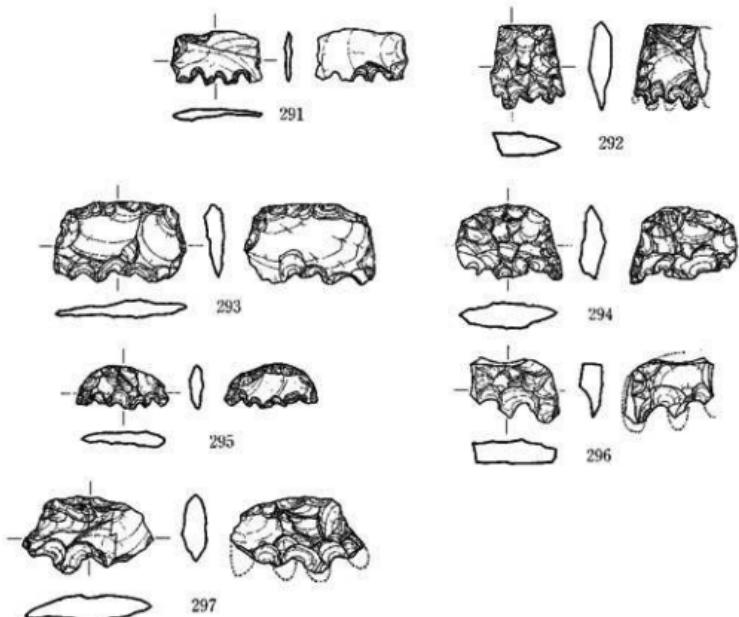
1. 横長の台形状をなし、最長部に鋸齒状の加工を施したもの。291・292・293
2. 鋸齒状の刃部から、側辺部を作らず半月形に背面を加工したもの。295
3. 鋸齒状の刃部から、背面にかけて台形状の側辺部を持ち、背面が直線的でなく、緩やかに弧を描くもの。294・296・297



第53図 石銛（原寸大）



第54図 石器 (原寸大)



第55図 石器 (原寸大)

石器・石錠計測表

No.	出土点	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
278	1 TIV層	5.8	4.775	0.95	20.90	サスカイト質	石錠
279	4 T III層	3.25	3.075	0.7	7.06	〃	〃
280	III T II層	(2.5)	(1.8)	0.55	2.85	黒曜石	〃
281	3 T II層	(1.525)	(1.725)	0.5	1.36	黒曜石	〃
282	5 T -括	4.075	(3.2)	0.85	7.77	サスカイト質	〃
283	4 T -括	(1.975)	3.75	0.55	3.59	〃	〃
284	3 T IV層	6.25	3.05	0.775	19.77	〃	〃
285	1 T -括	2.275	1.2	0.35	1.14	〃	〃
286	5 T I層	2.625	1.075	0.4	1.03	黒曜石	〃
287	3 T -括	(2.7)	1.175	0.5	1.77	サスカイト質	〃
288	4 T -括	3.675	4.0	0.975	7.46	〃	〃
289	4 T -括	(4.55)	2.275	0.6	6.37	〃	〃
290	4 T IV層	5.575	2.225	0.725	10.89	〃	〃
291	1 T -括	(0.85)	1.55	2.25	0.20	サスカイト質	石錠
292	2 T III層	(1.675)	1.125	0.4	.067	黒曜石	〃
293	1 T III層	(1.25)	2.25	0.35	1.11	サスカイト質	〃
294	1 T IV層	(1.25)	1.7	0.475	0.95	黒曜石	〃
295	1 T III層	(0.75)	1.5	0.25	0.2	〃	〃
296	4 T -括	0.975	1.45	0.45	0.59	〃	〃
297	4 T III層	(1.3)	2.25	0.475	1.10	〃	〃

石器出土遺跡・地名表

遺跡名	所在地	立地	遺物の種類	時期
1 山鹿貝塚	福岡県遠賀郡芦屋町山鹿	砂丘	石鋸	後期
2 梶坂貝塚	福岡県遠賀郡周塙町梶坂	砂丘	石鋸	後期
3 有田高岳遺跡	福岡市早良区有田高岳	中位段丘	刮片・鋸齒尖頭器	中～後期
4 天神山貝塚	福岡県糸島郡志摩町天神山	砂丘	石鋸・鋸齒尖頭器	後期
5 西唐津海底遺跡	佐賀県唐津市西唐津海底	海底	石鋸	—
6 赤松海岸遺跡	佐賀県東松浦郡鏡町赤松海岸	海岸	鋸齒尖頭器	後期(?)
7 尾田貝塚	熊本県玉名市尾田	丘陵	石鋸	中～後期
8 沖ノ原貝塚	大分郡五和町二江沖ノ原	砂丘	石鋸・鋸齒尖頭器	後期
9 大矢遺跡	熊本県本渡市大矢	砂丘	石鋸	中期
10 椎木崎遺跡	熊本県牛深市椎木崎	山麓・海岸	石鋸・鋸齒尖頭器	中～後期
11 築田海岸遺跡	熊本県天草郡河浦町集田	海岸	石鋸	後期(?)
12 小浜町遺跡	長崎県南高木郡小浜町	丘陵	石鋸	晚期
13 福崎貝塚	長崎県西彼杵郡野母崎福崎	砂丘	石鋸	中～後期
14 有喜貝塚	長崎県諫早市有喜	丘陵	鋸齒尖頭器	後期
15 古田遺跡	長崎県西彼杵郡大瀬戸町雪ノ浦	丘陵	石鋸	—
16 深堀遺跡	長崎県長崎市深堀町	砂丘	石鋸・鋸齒尖頭器	後期(西式)
17 山津貝塚	長崎県西彼杵郡外海町山津	砂丘	石鋸	後期
18 中岳遺跡	長崎県東彼杵郡東彼杵町	丘陵	石鋸	後期
19 天神洞穴遺跡	長崎県佐世保市天神町	山腹	石鋸	後期
20 岩下洞穴遺跡	長崎県佐世保市岩下	山腹	石鋸	後期
21 宮の木遺跡	長崎県佐世保市高島町	砂丘	石鋸	—
22 町下草が浦遺跡	長崎県北松浦郡鹿町	砂丘	石鋸	—
23 里田原遺跡	長崎県北松浦郡田平町里田原	沖積低地	鋸齒尖頭器	弥生(?)
24 野田遺跡	長崎県北松浦郡田平町野田	丘陵	石鋸	—
25 つぐめのはな遺跡	北松浦郡田平町つぐめのはな	山麓・砂丘	石鋸・鋸齒尖頭器	中期(河高式)
26 池田下遺跡	長崎県松浦郡御厨町池田免田崎	海岸低地	石鋸	—
27 姫神社貝塚	長崎県松浦郡星鹿町北久保免宮崎	丘陵	石鋸	—
28 車田遺跡	長崎県松浦郡星鹿町車田免	丘陵	石鋸	—
29 長崎鼻遺跡	長崎県北松浦郡宇久町長崎鼻	砂丘	石鋸	中期
30 宮の貝塚	長崎県北松浦郡宇久町本飯良郷	丘陵	石鋸	後期
31 犀崎遺跡	長崎県北松浦郡小値賀町犀崎	海岸低地	石鋸・鋸齒尖頭器	後期
32 矢橋遺跡	長崎県北松浦郡小値賀町矢橋	丘陵	石鋸	—
33 宮ノ下遺跡	長崎県北松浦郡小値賀町宮ノ下	丘陵	石鋸	後期
34 白浜遺跡	長崎県南松浦郡川町頭ヶ島	砂丘	石鋸	後期
35 浜泊遺跡	長崎県南松浦郡川町頭ヶ島	砂丘	石鋸	後期
36 上原台地遺跡	長崎県南松浦郡有川町	台地	石鋸	—
37 西の股遺跡	長崎県南松浦郡新魚目町	砂丘	石鋸	—

遺跡名	所在地	立地	遺物の種類	時期
38 丸尾遺跡	長崎県南松浦郡新魚日町	丘陵	石鋸	—
39 青方遺跡	長崎県南松浦郡上五島町	砂丘	石鋸	—
40 白浜貝塚	長崎県福江市白浜	砂丘	石鋸・試鋸尖頭器 ・剥片鋸齒器	後期
41 与吉ノ山遺跡	長崎県南松浦郡富江町	丘陵	石鋸	—
42 宮下貝塚	長崎県南松浦郡富江町宮下	砂丘	石鋸	後期
43 女龜遺跡	長崎県南松浦郡富江町女龜	砂丘	石鋸・試鋸尖頭器	後期
44 百軒窓遺跡	長崎県南松浦郡三井町波砂間郷	砂丘	石鋸	—
45 名切遺跡	長崎県壱岐郡郷ノ浦町名切	海岸	石鋸・試鋸尖頭器	後期
46 佐賀貝塚	長崎県上原郡峰町佐賀	山麓～海岸	石鋸・鋸齒尖頭器 ・剥片鋸齒器	後期
47 高松ノ遺跡	長崎県上原郡峰町高松ノ壇	丘陵	石鋸	—
48 皇后崎遺跡	長崎県上原郡峰町皇后崎	海岸	石鋸	—
49 志多留貝塚	長崎県上原郡上原町志多留茂	丘陵	石鋸	後期
50 越高遺跡	長崎県上原郡上原町越戸	山麓・海岸	鋸齒尖頭器	早期末～前期
51 東三洞貝塚	韓国釜山市影島区東三洞	丘陵斜面	鋸齒尖頭器	柳口文上器
52 山老大島貝塚	韓國慶尚南道統營郡山老大島	—	石鋸・鋸齒尖頭器	柳口文十器

山崎純男氏の石鋸出土遺跡地名表より

13. 石 鋸

遺跡から14点の出土がみられた。二等辺三角形をなすもので、基部が凹めてあるもの298・299・302。ほぼ正三角形をなすもので、基部が浅く凹んだもの300・301・303・304・305・306。五角形をなすもので基部が丸みを持って凹めてあるもの308。剥片に刃部だけを施したもの307・311。大型なものでクサビに似るが、ここでは石鋸とした309・310。

14. 石 鋸

剥片の素材をうまく利用し、ほとんどが先端部を半として加工したものである。312・314・316・319の4点が完成品で、313・315・317・318・320・321・322・323・324刃先端部が欠損しており、使用頻度が多かった事を示す物であろう。

15. 石 匙

欠損品ではあるが、縦長剥片を素材として、打点部にえぐり加工を施したもので、縦長の剥片石匙と思われる325。

16. スクリッパー

剥片に刃部を施しただけのもの326。

17. チョッパー

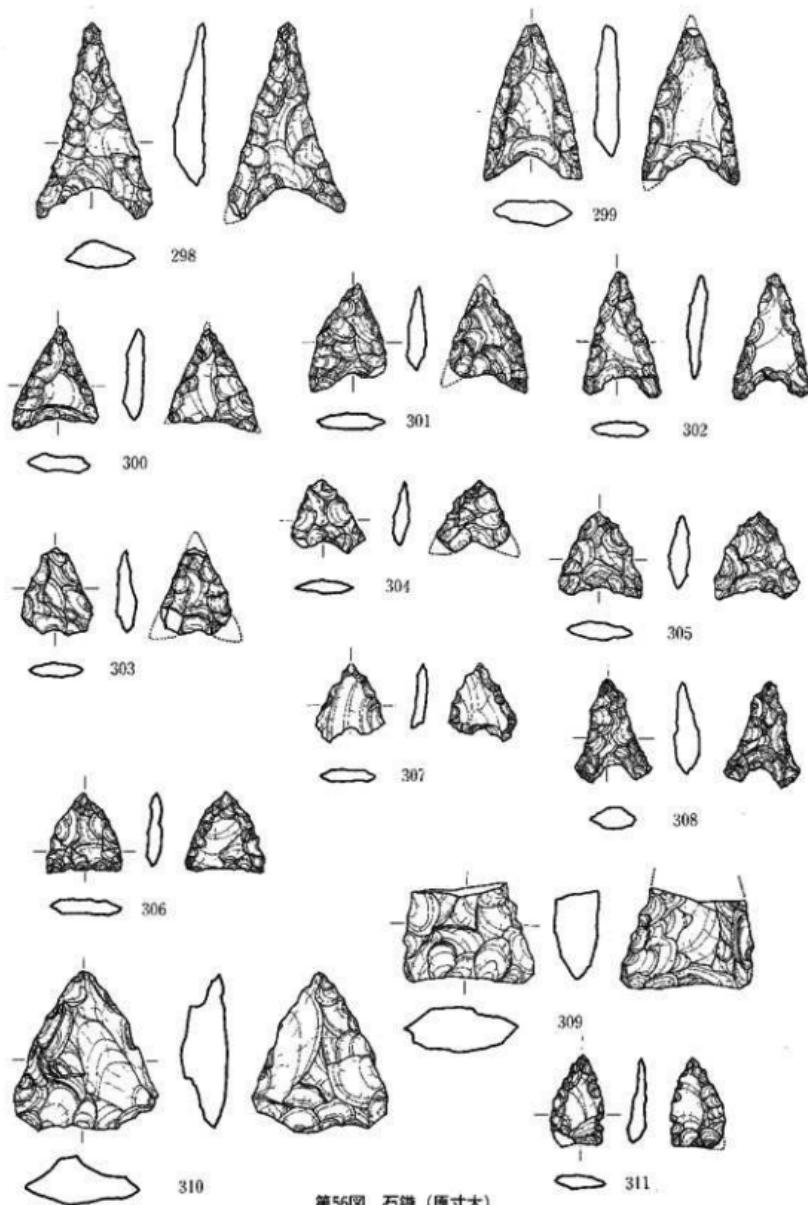
側刃部を交互剝離によって刃部を作り出した物で荒い粗雑な刃部となる。328・329

18. 不明石器

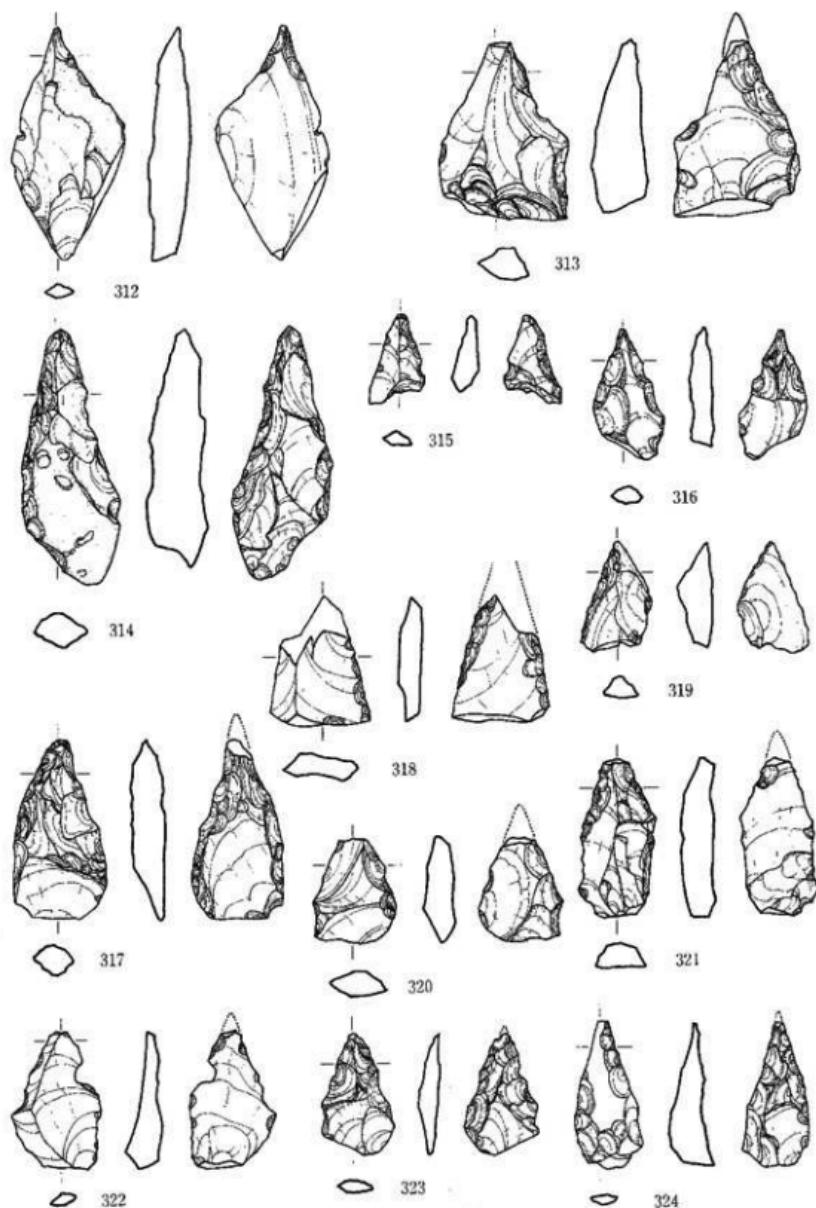
黒曜石製で側面全域に剝離がみられるが、用途は不明である327。

石鏸・石錐・石匙・スクレイバー・不明石器・チョッパー計測表

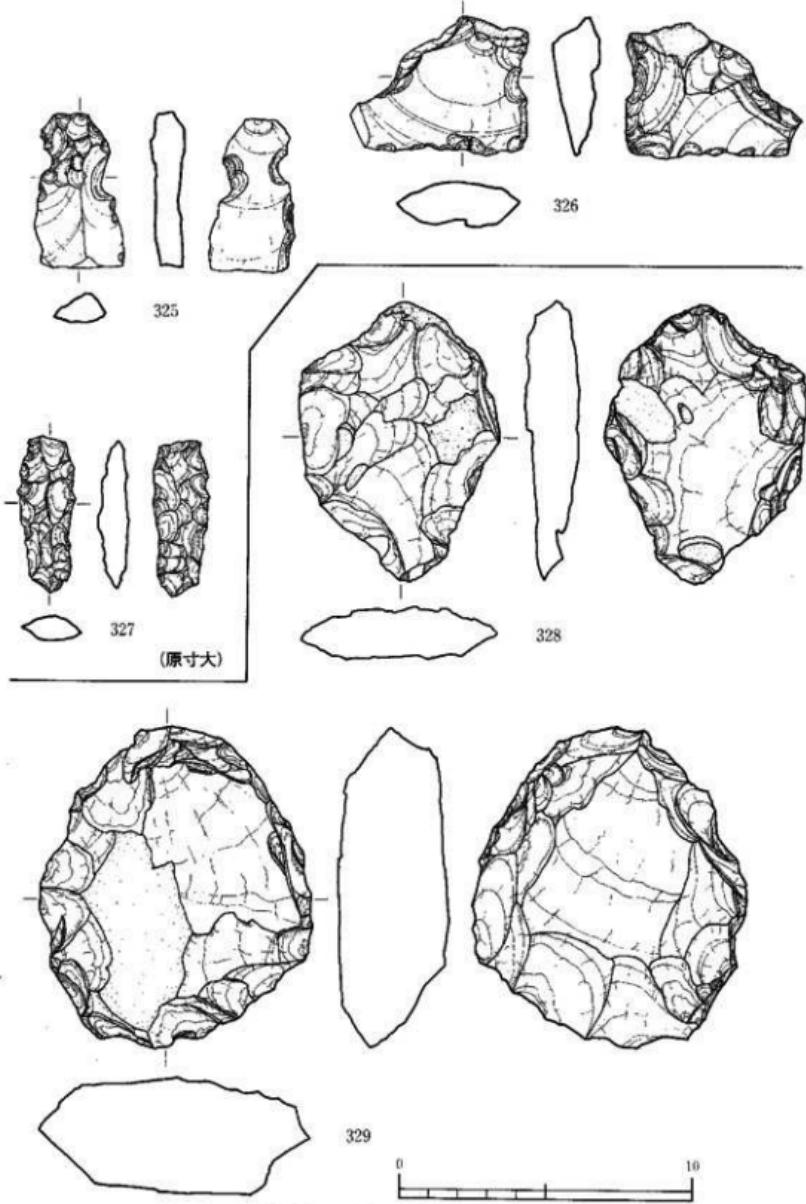
No.	出上点	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考
298	3 TII層	3.35	2.0	0.525	1.73	黒曜石	石錐
299	3 TII層	2.65	1.7	0.45	1.56	サスカイト質	II
300	5 TI層	1.8	1.475	0.3	0.58	黒曜石	II
301	3 TII層	1.875	(1.325)	0.325	0.68	II	II
302	4 TIII層	2.2	1.35	0.275	0.66	サスカイト質	II
303	5 TI層	(1.5)	(1.225)	0.35	0.42	II	II
304	II	(1.25)	(1.275)	0.3	0.33	II	II
305	5 TII層	1.45	1.4	0.4	0.64	II	II
306	4 TIII層	1.375	1.275	0.25	0.36	黒曜石	II
307	5 TII層	1.35	1.175	0.2	0.25	II	II
308	4 TIII層	1.8	1.35	0.4	0.58	II	II
309	4 TIV層	(1.65)	2.25	0.75	3.51	サスカイト質	II
310	2 TI層	2.75	2.45	0.825	3.94	II	II
311	5 TI層	1.6	(0.9)	0.25	0.39	黒曜石	II
312	1 TIV層	3.95	1.825	0.7	4.55	II	石鏸
313	5 T一括	(2.95)	2.2	0.95	5.08	サスカイト質	II
314	1 T一括	4.15	1.7	1.0	6.79	II	II
315		1.55	(0.95)	0.45	0.45	黒曜石	II
316	1 TIII層	2.25	1.2	0.4	0.94	サスカイト質	II
317	4 TIV層	3.05	1.6	0.6	2.78	II	II
318	2 TIII層	(2.25)	1.7	0.425	1.55	黒曜石	II
319	2 TIII層	1.9	1.2	0.6	1.00	II	II
320	5 TI層	(1.775)	1.425	0.55	1.48	サスカイト質	II
321	3 T一括	2.7	1.2	0.575	1.74	黒曜石	II
322	5 T一括	(2.35)	1.55	0.6	1.32	II	II
323	2 TII層	2.1	1.275	0.35	0.72	サスカイト質	II
324	1 T一括	(2.525)	1.1	0.6	1.52	II	II
325	1 TII層	2.625	1.5	0.6	2.40	黒曜石	石匙
326	3 TIV層	2.35	3.05	0.825	4.76	II	スクレイバー
327	2 TIII層	2.65	1.05	0.525	1.37	II	不明石器
328	1 TII層	9.6	6.85	1.85	113.32	サスカイト質	チョッパー
329	1 TIII層	11.0	9.4	4.0	532.69	II	チョッパー



第56図 石鏃（原寸大）



第57図 石錐（原寸大）



第58図 石匙・不明石器・チョッパー

まとめ

遺跡の確認調査と当うことで、遺物点数は少ないものと考えていたところ、実際に発掘にかかると、その遺物の多さに驚いたものであった。それに加え黒木氏と牛深郷土歴史研究会の会員によって採集されている遺物の多さだった。今回の報告書にはできるだけ実測図を記載することにして、細かな分析まで行なえなかった。調査によって感じたことは、山の遺跡と海の遺跡とは生活事態に大きな違いが有る事が感じられた。大きな一つは、山の遺跡には、打製石斧の数枚が石器のほぼ半数近くを占めるのに対しで、今回の調査では一点の打製石斧が確認できなかった。また、山の遺跡では見られない石器が多くの数量を占めている物が有り、ここでは魚釣具の一つ「えぐり入り疊器」としてとらえた。今回の調査において、二つの石器について実験を試み、それぞれの説として取り上げたが、今後も研究を重ねなければならない石器で有ろう。

調査を行なうにあたり多くの方々に指導助言・資料提供・協力を頂きましたので、ここに芳名を記す事で感謝の意を表したいと、思います。

三島 格・橋 昌信・山崎純男・新東晃・高木基二・隈 昭志・島津義昭・太田幸博・江本直・高木正文・磯野雄二・木崎康弘・勝又俊一・中川裕二・宮川 聰・白樺明宣・六田育子・中原由子・平井玲子・平井和子・平田正範・黒木雄二・岡部親司・平野一裕・山下修・西鶴龍一郎・山崎喜弘・松岡 碩・福木邦彦・島田 茂・前田志磨江・平岡勝昭・葛羽幸男・杉木宣子・進藤美子

天草考古の会内之原小学校・牛深郷土歴史研究会

(参考文献)

- 江坂輝也 1968 熊本県轟貝塚出土の打製範型石器について 日本民族と南型文化 平凡社
松藤和人 1987 双角状石器小考 考古学と地域文化 同志社大学考古学シリーズ
安楽 勉 1982 堂崎遺跡 長崎県文化財調査報告書 第58集 長崎県教育委員会
橋 昌信 1979 石話--西九州における縄文時代の石器研究 (1)ー 史学論叢No10
山崎純男 西北九州魚釣文化の特徴—石製鉛頭(石鉤)を中心にー 季刊考古学
木崎康弘 理谷遺跡 熊本県文化財調査報告書 第105集 熊本県教育委員会
隈 昭志 他 1984 沖ノ原遺跡 天草郡五和町教育委員会
黒木雄二 椎ノ木崎遺跡の発見 黒曜石との出逢い 天草の民族と伝承No.7

IV. ま　と　め

椎ノ木崎遺跡の試掘は日数も少なく、調査規模も大変小さいものであったが、予想以上の遺物量と成果をあげることができた。当初遺跡の範囲を確認する意味で設定したトレンチからはすべて遺物包含層の存在が認められ、期間中の周辺の踏査から遺跡範囲は海岸部にまで及んでいたことを知ることができた。その範囲は数ヘクタールにおよぶと考えられる。その大きさはこれまで天草群島のなかで他の遺跡とは格段に大規模とされていた五和町二江の沖ノ原遺跡と匹敵するほどのものであろうと推測できる。このことは、試掘以前の蜜柑山裾の石垣の裏ごめ石に混じって土器が少量出土していた状態からみると、とても想像できない遺跡の発見であったといえる。

この遺跡の特徴の一つは、包含層が海平面下にも及んでおり、良好な低湿遺跡であることである。今回の調査では排水ポンプを用意したが、その有機質の残存が多く、めづまりして下部の追求は断念したもの、予想した以上の資料の存在を確認した。しかし、その部分の調査には学術的な充分な準備と危険防止のための周到な対策が必要と考えられる。今後の機会を持つこととした。

今回出土した遺物の存続時期を沖ノ原遺跡と比較してみると次のようになる。なお、量の多少は調査面積も比べものにならず、調査者の感じで表現した。

椎ノ木崎遺跡と沖ノ原遺跡の出土土器型式別比較

沖ノ原遺跡	椎ノ木崎遺跡	早期	前期	中期	後期	後期		晚期						
		押壺 型 義 上 器	昔 煙 C ・ B 式	阿 高 式	南 福 寺 式	御 手 洗 A 式	錦 ヶ 崎 式	北 久 根 山 式	辛 川 I 式	西 平 式	太 郎 迫 式	鳥 井 万 田 式	御 船 式	晚期
		?	?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

◎比較的多量、○比較的少量、?存否不明瞭

このように遺跡の開始時期は沖ノ原遺跡の方が確実に縄文前期にさかのぼっており、これに対して椎ノ木崎遺跡では昔煙式およびC・D式かと思われるものが各1点ずつあるが小破片であり確実性には乏しい。中期の阿高式になると椎ノ木崎遺跡でも多くの遺物が出土しており、確実に相当規模の遺跡となっていたことが知られる。後期の前半では遺物の量はあまり多くないが継続して生活がみられたようである。後期後半から晚期前半にかけても同様で、一部確認できないものもあるがおむね継続して土器型式が知られる。特に晚期前半の新しい要素の土器は発掘面積が少なかったわりには比率が高い。これは熊本平野では内陸部に大規模な遺跡が

数多くみられる時期にあたるものである。今後もし発掘調査が行われるとすれば、内陸部の遺跡と椎ノ木崎遺跡のように純粹に海岸部に立地するものと、どう異なるかを追求する良好な遺跡となるであろう。この点、内陸部の遺跡で多量に出土する打製石斧が今回の試掘で1点も出土していないことに対する石器担当の松井調査員の指摘は重要な示唆を与えることになるかもしれない。これとは逆に、伴出時期を明確にはできなかったが、石鋸状石器や石鉛状石器それに尖頭状石器が数多く出土したことは興味深い。これが海洋性を表すとすれば、今回の試掘で中九州では最も多量に出土した点もうなづけることであろう。この分野においても、今後の研究の重要な資料となることであろう。

そのほか、今回の試掘では下部の泥炭層の発掘は今後に残す意味もあり、あまり手をつけていない。そこには多量の有機質遺物の存在が考えられ、その残りもすこぶる良好な状態のようである。恐らく、現在熊本県下で確認されている縄文時代の泥炭遺跡としては格段に良好な遺跡といえよう。また、一部出土した資料については期間と費用の点で分析するまでには至らなかつたが、資料としては加工痕のない木材・木の葉、食糧とした残滓とみられる木の実の殻、1例ながら編籠がみられる。編籠はまわりの薪土とともに一括して取り上げたが、粘土を除いてしまうと、保存の上で困難となるので、現状はそのままにしてある。今後、処理法がみつかれば露出してみたいと考えている。このほか泥炭遺跡では動物遺体の残存も考えられるが、今回の試掘ではタイかとみられる下顎骨が1点とクジラの脊間板が1点みられたのみであった。恐らく、発掘しなかった泥炭部分からはもっと多くの出土があると思われる。

次に問題となるのが遺跡の立地状況である。この椎ノ木崎遺跡は大部分が現在の満潮水面よりも下に位置するらしい。これまでの中九州の縄文中期から後期前半の海岸部とみられる貝塚の立地をみると、玉名郡菊水町若園貝塚や熊本市沼山沖貝塚、上益城郡御船町辺山見貝塚、同嘉島町カキワ貝塚など、現在の海岸線よりみると大変奥に位置したものが多い。このことにより中九州における縄文中期から後期前半にかけての縄文海進が考えられている。その時期の海岸線は現在よりも5メートル程度高かったのではないかと推定されている。しかし、この椎ノ木崎遺跡をはじめ、最近黒木雄二氏によって天草群島で海岸部に多くの遺跡が発見されている。この中には、満潮時には海水面より下になるものが多数知られている。これからみると、天草群島においては熊本平野などと同じように海進海退を考える訳にはいかない。詳細には地質または地理学の分野の専門的な調査が必要であるが、熊本平野と天草群島の間にはどちらかが隆起したか沈降したかの高低差が認められることは確かであろう。この点も椎ノ木崎遺跡の試掘によって示唆された重要な点であり、今後の縄文時代遺跡の新発見もこの成果をふまえて増加することが期待される。また九州における地質の成り立ちや構造の変化を知るうえでも重要な知見となることであろう。

付 錄

内之原遺跡

今回の椎ノ木崎遺跡確認調査のもう一つの成果として、天草地方に於いて始めての、旧石器(先土器)時代の遺物が確認することができた。この遺跡は、椎ノ木崎遺跡の発見者である黒木雄二氏の採集遺物から見出したものが初見であった。その日、黒木氏の案内で現地の踏査を試みたところ、更に二点のナイフ形石器を採集し、間違いなく旧石器(先土器)時代の遺跡であることを確認した。その後同地区の内之原小学校の生徒、小川真也・馬田里恵・熊倉知恵・小山祐美子・井上千美子・矢取紀彦・尾越千幸・馬田勇・大津元・真米由加里・小山成美・河合愛、君等によって引き続き踏査が行なわれ、学校周辺の遺跡を発見し、多くの遺物が集められ、現在は、廊下の一角に展示ケースが設けられ、生徒それぞれの採集品を、更にケースの中を小さく区分して氏名別に展示されており、学校としても生徒に芽生えた考古学を大事に育ててもらっているようであった。

今回は、旧石器(先土器)時代の遺物を特集したので、他の遺跡から出土している縄文時代の石器は記載しなかった。

I ナイフ形石器

1. 黒木氏が天草の地で最初に発見したナイフ形石器である。石材は、チャート製で、長さ2.45・幅1.1・厚み0.5を計測する、二側刃加工のものである。
 2. 黒曜石製で先端部を欠損しているが、長さ1.95・幅0.7・厚み0.4を計測する。二側刃加工のものである。
 3. 安山岩製で基部を欠損して刃部だけのものであるが、長さ2.1・幅1.4・厚み0.45を計測し、現存するところでは、背面にプランティング加工が見られるだけである。
 4. 黒曜石製で欠損は無く、長さ2.1・幅1.55・厚み0.3を計測する。基部加工のものである。
 5. 安山岩製で先端部を欠損している、長さ1.9・幅0.99・厚み0.3を計測する。基部加工に加えて、刃部背面の厚みをプランティング加工により尖らしている。
 6. 黒曜石製で長さ1.9・幅1.15・厚み0.3を計測する。基部の一側刃に加工がみられる。
 7. 黒曜石製で長さ2.1・幅1.25・厚み0.4を計測する。基部の加工に加え厚みのある先端部をプランティング加工により尖らしてある。刃部には使用痕がみられる。
- ナイフ形石器としては以上7点を記載する事ができたが、いずれも薄手のもので、球磨郡山江村狸谷遺跡のAT(シラス約22000年前)層より下層から出土した石器に酷似している事は天草地方に於いても同時期の遺跡があったことが伺える。以上7点はC地点の採集品である。

II 細石刃

旧石器(先土器)時代最後の石器と言われているもので、楕円による組み合わせ石器とされているものである。

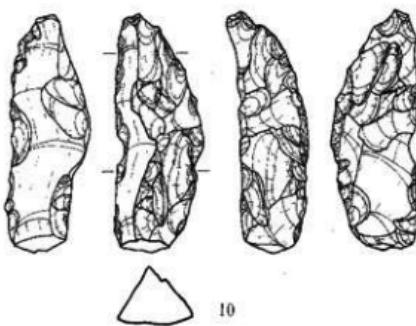
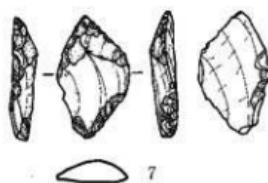
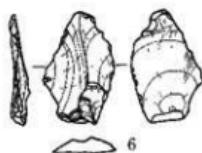
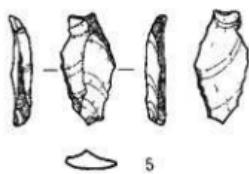
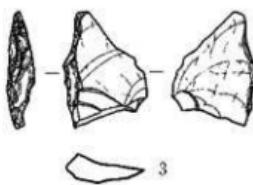
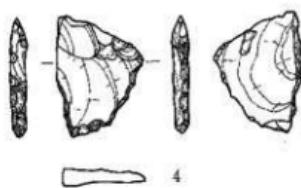
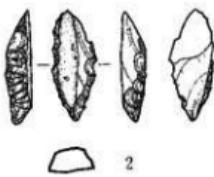
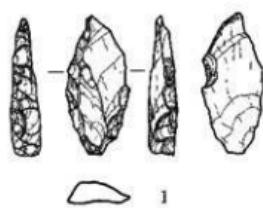
8. 黒曜石製で正面に4枚の剝離面が見られ、裏面は一面で、長さ1.6・幅.06・厚み0.15を計測するA地点採集のものである。

9. 黒曜石製で正面に6枚の剝離面が見られ、裏面は一枚で、長さ1.45・幅0.6・厚み0.15を計測するF地点採集のものである。

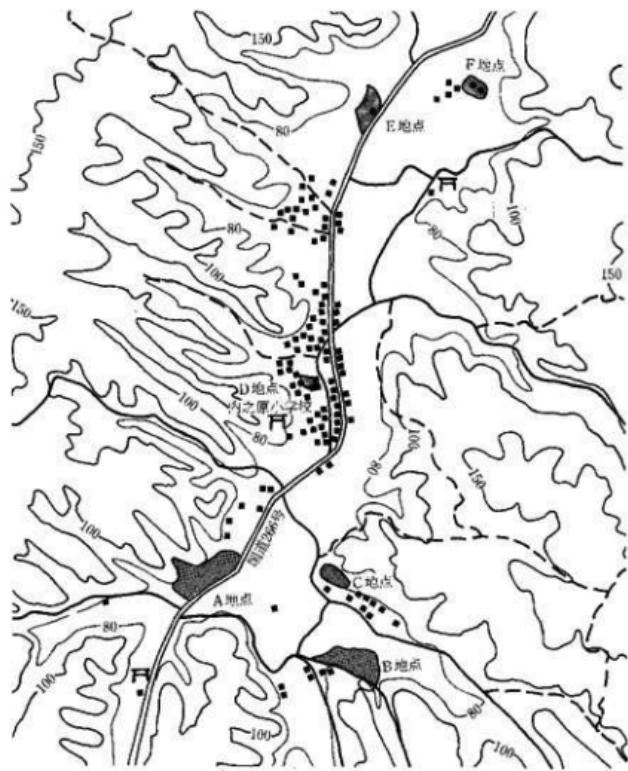
III 三稜尖頭器

10. 細部の剝離面がやや新しい事に疑問が残るが、三稜尖頭器としてここに取り上げた。長さ4.0・幅1.5・厚み1.15を計測するもので石材は黒曜石で下部は欠損と思われる。A地点の採集のものである。

以上10点を旧石器(先土器)時代の遺物として取り上げたが、内之原遺跡に於いて古くは、ほぼ20000年前のナイフ形石器から、AT帶よりも上層から出土する三稜尖頭器と、最後の時代とされている細石器まで確認され、天草地方にも旧石器(先土器)時代の遺跡が全部の遺物を持って点在する事をうかがわせる事実を示したもので、これから多くの遺跡が発見される切っ掛けとなるであろう。尚、資料は黒木氏・内之原小学校・牛深市教育委員会のものを使用させて頂いた。



内之原採集旧石器（先土器）時代遺物（原寸大）



牛深市久玉町内之原遺跡分布図

写 真 図 版



写真1 海から見た椎ノ木崎遺跡



写真2 北西の丘陵斜面から見た椎ノ木崎遺跡

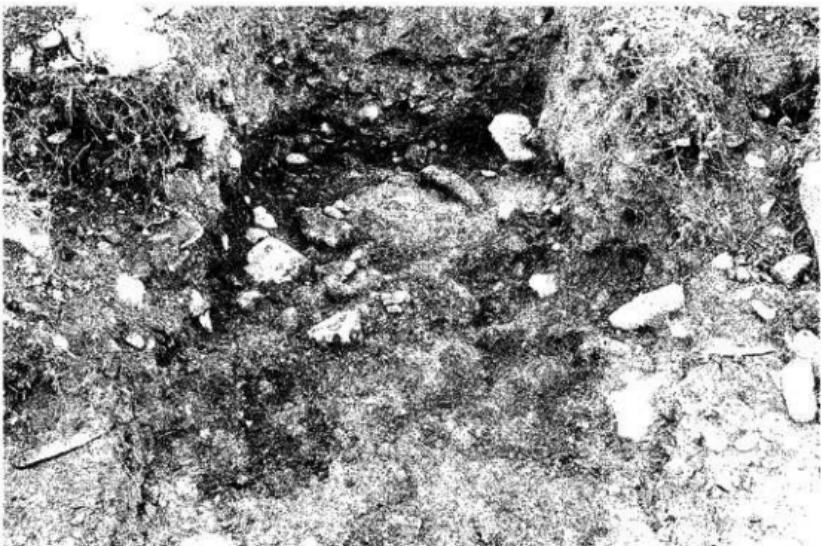


写真3 第1トレンチ上部発掘



写真4 上部出土挿入柱状石斧



写真5 第1トレンチ中位発掘

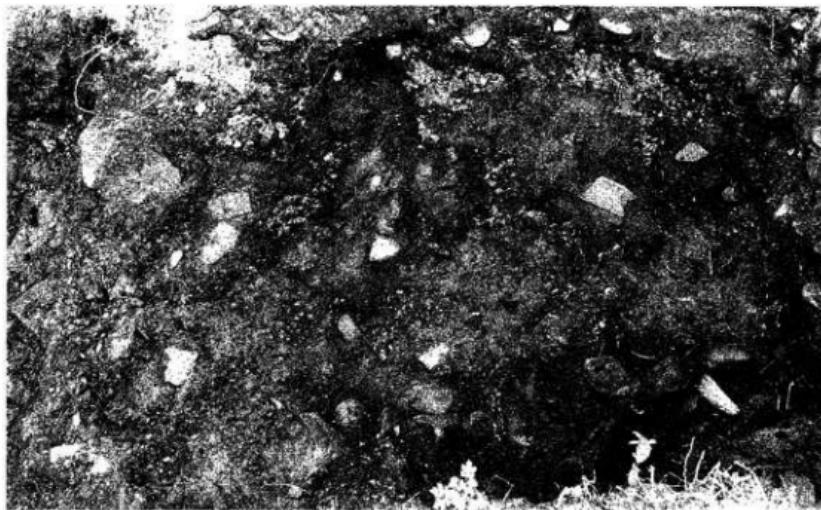


写真6 中位発掘

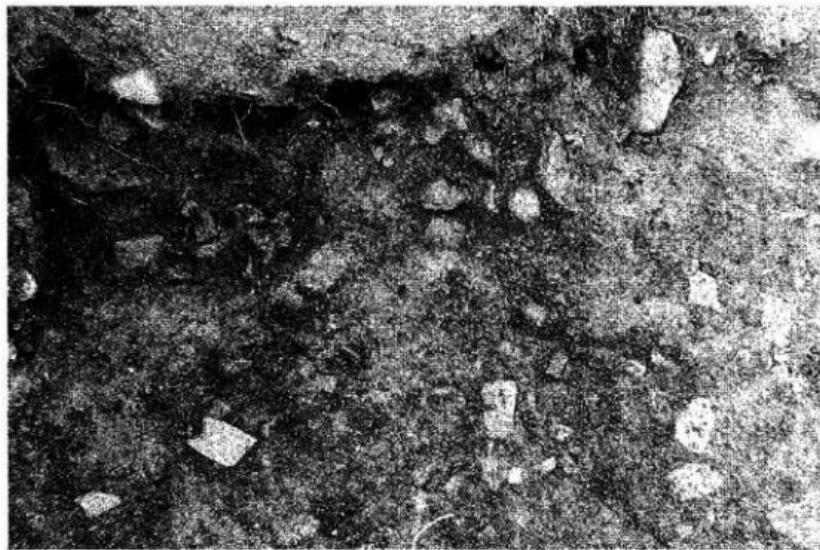


写真7 第1トレンチ中位遺物出土状態



写真8 土器出土状態

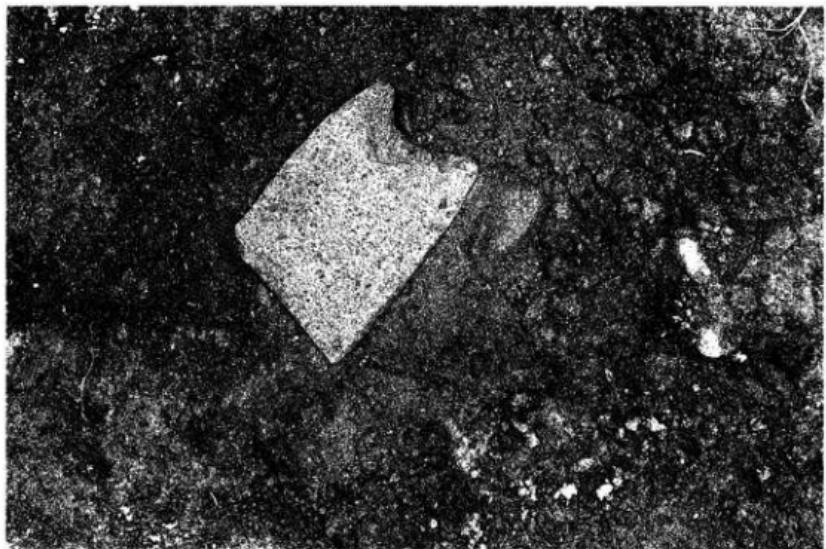


写真9 第1トレンチ尖頭状石器出土状態

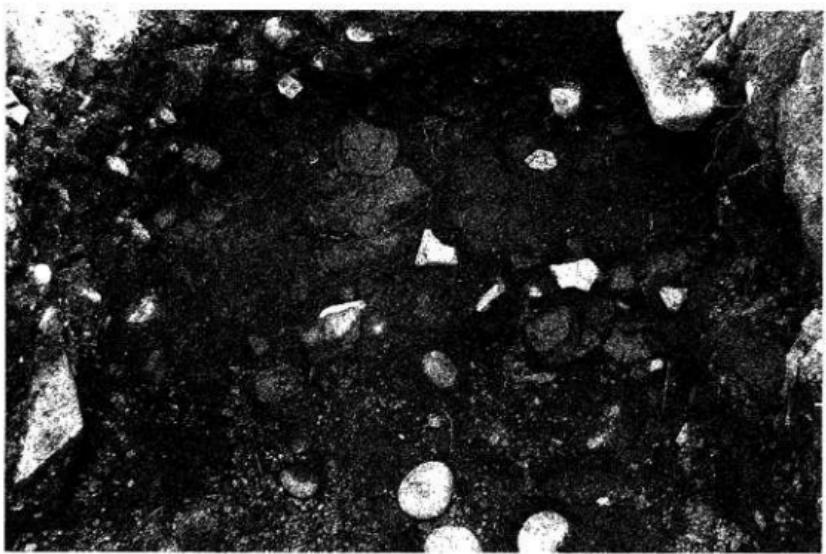


写真10 中位下部遺物出土状態



写真11 第1トレンチ土器と石器の出土状態



写真12 土器と石器の出土状態



写真13 第1トレンチ中位下部発掘状態

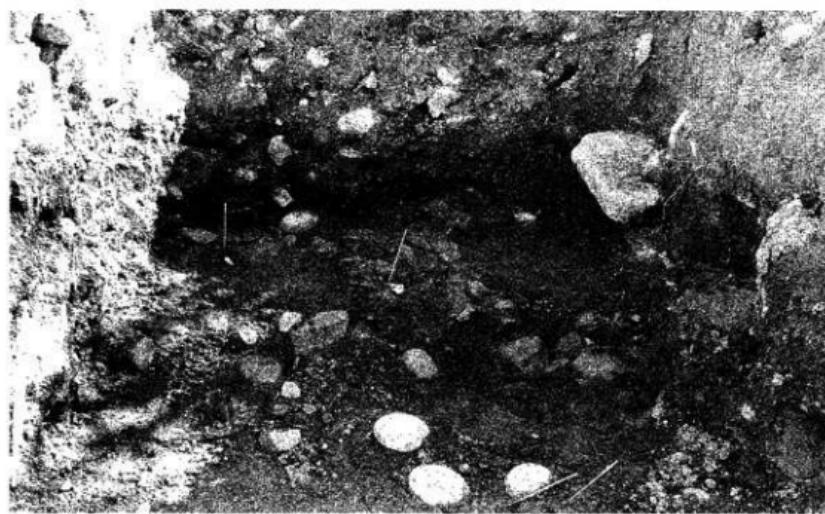


写真14 中位下部発掘状態

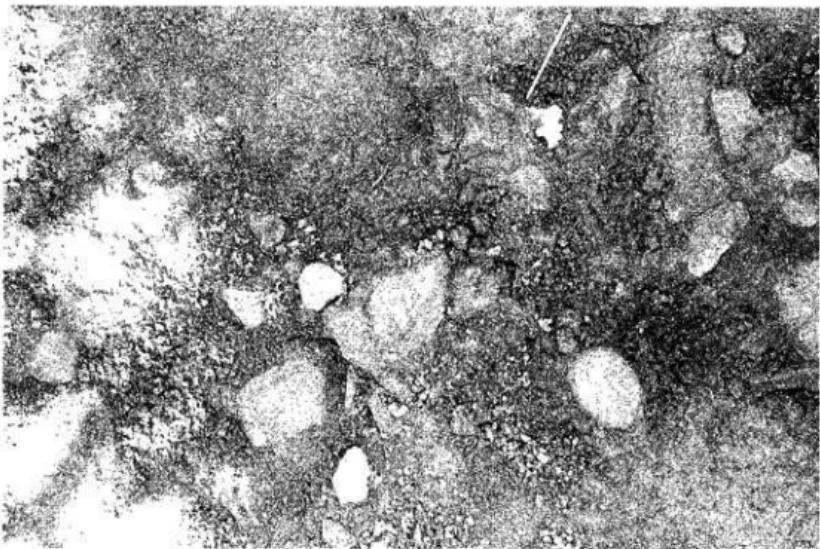


写真15 第1トレンチ遺物出土状態

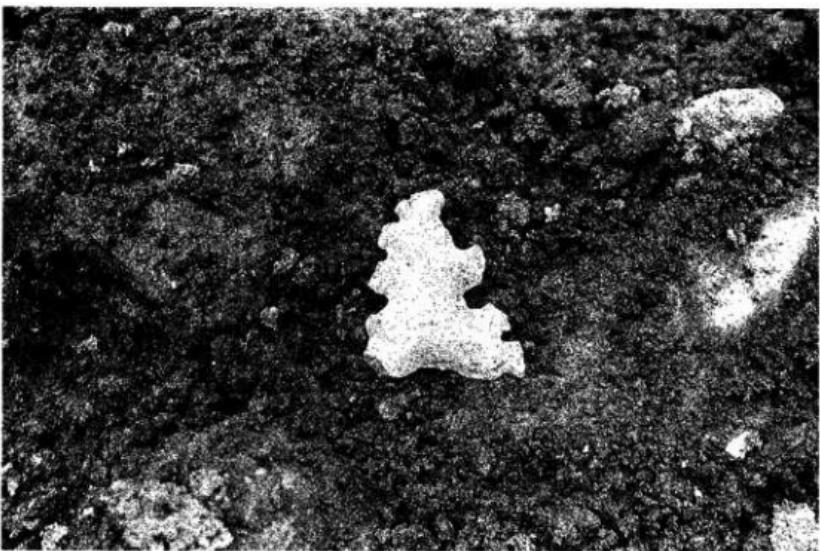


写真16 石鋸状石器出土状態



写真17 第1トレンチ東壁断面



写真18 東壁断面(畑と水田の境部分)

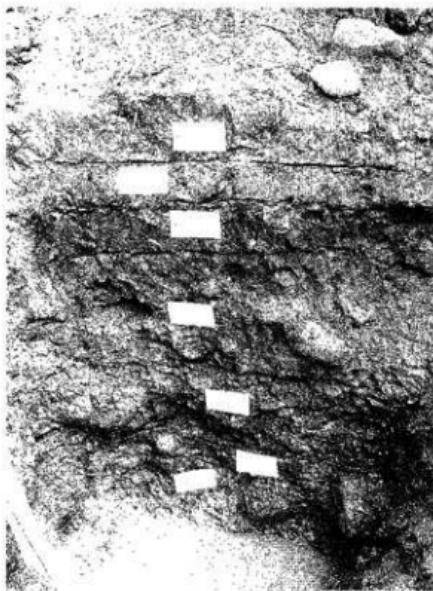


写真19 第1トレンチ深掘部断面

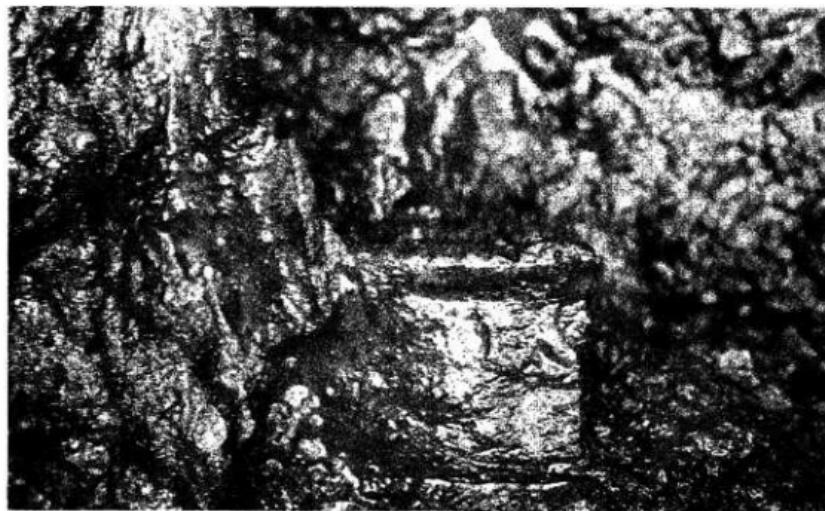


写真20 下部の土器出土状態

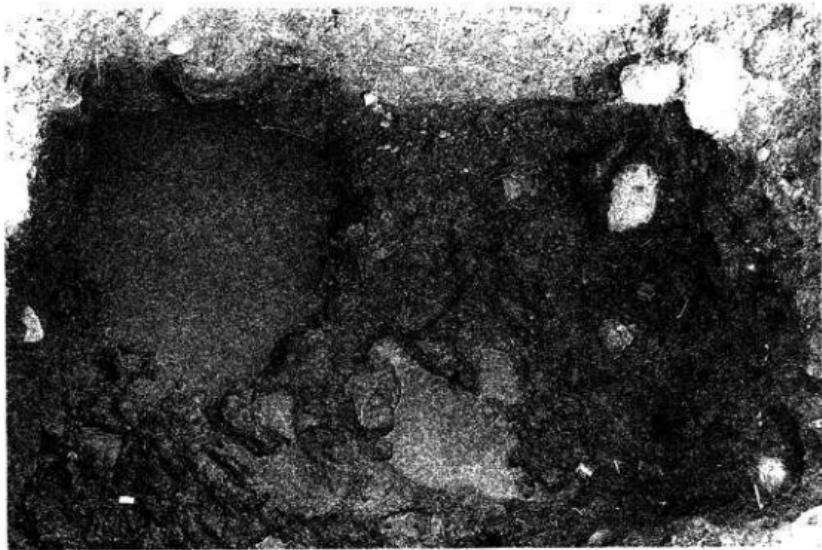


写真21 第2トレンチ上部発掘状態

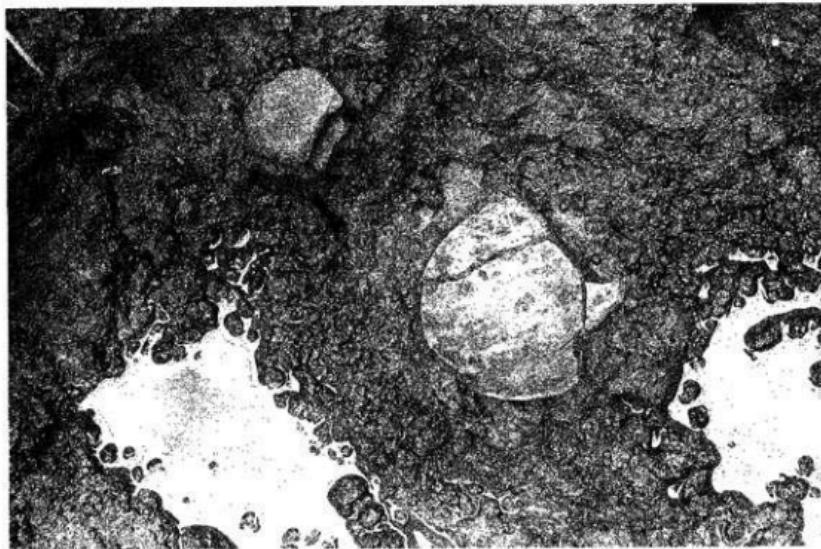


写真22 上部の土師器出土状態



写真23 第2トレンチ上部の土器出土状態



写真24 北壁の断面

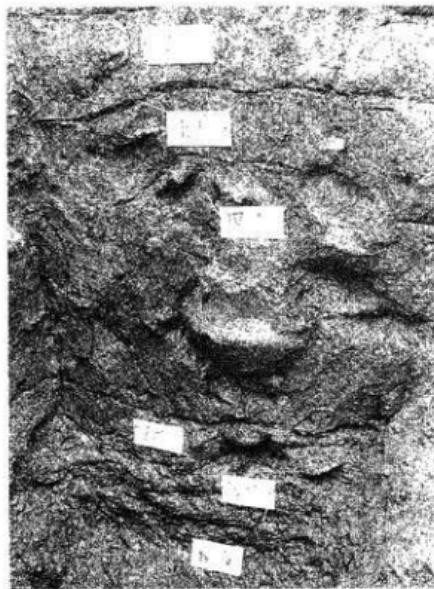


写真25 第2トレンチ東壁断面の埋甕



写真26 埋甕出土状態

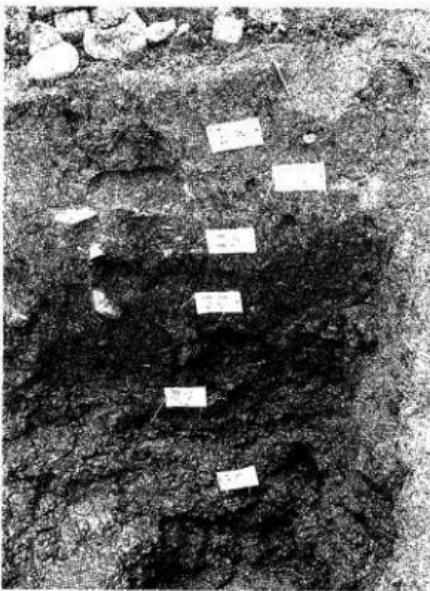


写真27 第3トレンチ断面



写真28 第4トレンチ下部出土木片



写真29 第4トレンチ下部発掘状態

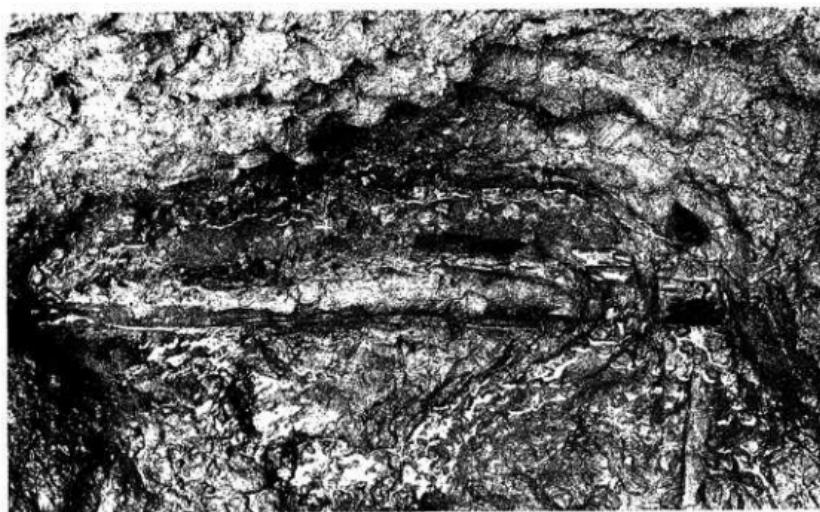


写真30 木材出土状態



写真31 第4トレンチ断面

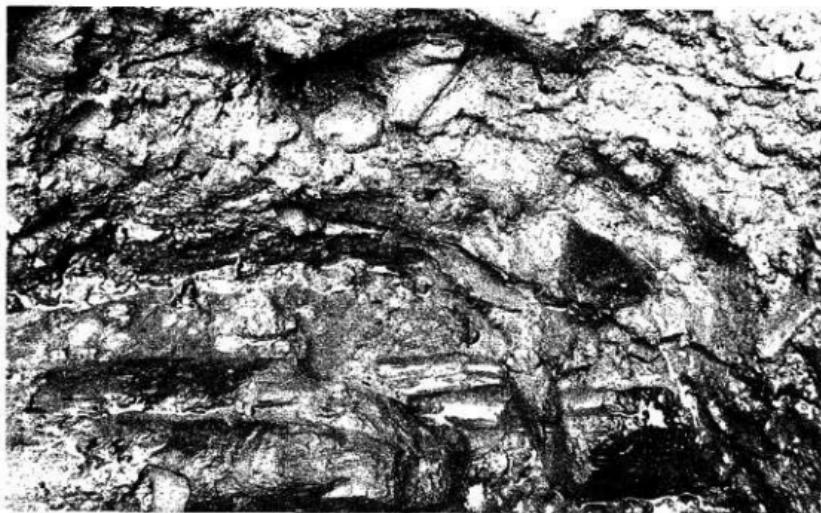


写真32 木材と土器の出土状態



写真33 第4トレンチⅦ層出土 編籠の一部



写真34 編籠の一部



写真35 第5トレンチ上部の礫の状態

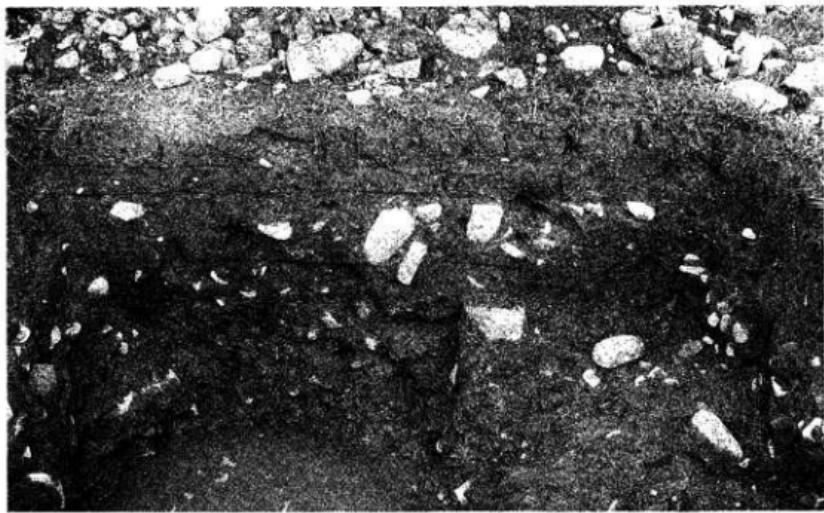


写真36 第5トレンチ断面



写真37 海岸の断面に見られた遺物の包含

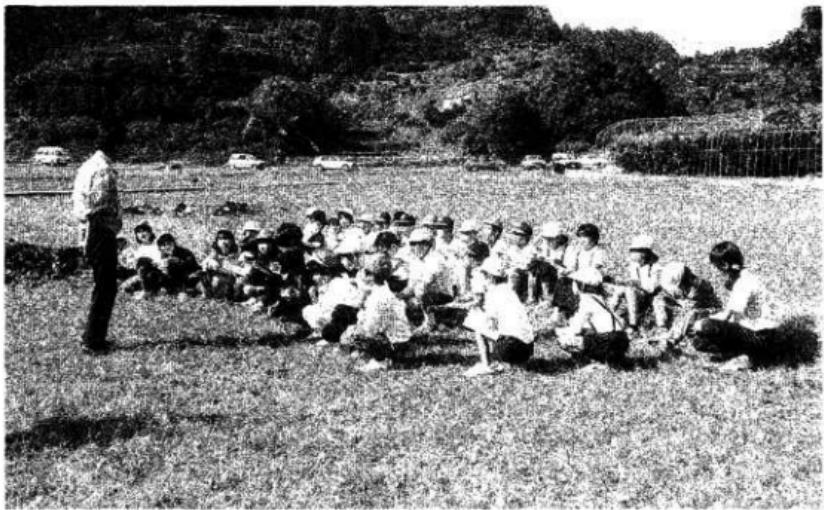


写真38 深海小学校5・6年生の発掘見学 10月19日

『椎ノ木崎遺跡試掘調査報告書』

平成元年3月25日印刷

平成元年3月31日発行

編集 熊本開発研究センター

発行 牛深市教育委員会

■863-19 牛深市牛深町2286-103

印刷 下田印刷